

岩手県文化財調査報告書 第112集

# 岩手県内遺跡発掘調査報告書

## (平成12年度)

平成13年3月

岩手県教育委員会



# 序 文

埋蔵文化財は、私たちの祖先により築かれた貴重な歴史的財産であります。私達はそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の増大する大規模な開発等により厳しい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整を図るために、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところですが、現在確認されている遺跡数は1万ヶ所余りにも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成12年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位から御指導・御協力を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

平成13年3月

岩手県教育委員会  
教育長 合田 武

# 例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成12年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業者より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。
- 4 発掘調査については、概略を記した。
- 5 試掘調査に係る遺跡の指定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。
- 6 遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。
- 7 本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会事務局文化課の中村英後主任文化財主査、神敏明文化財専門員、鎌田 勉文化財専門員、金子俊二文化財調査員、日下和寿専門学芸員、戸根貴之文化財調査員、星 雅之文化財行政研究員が担当した。
- 8 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局文化課が保管している。

# 目 次

序文

例言

## I 発掘調査

1 国営いさわ南部農地整備事業（下中沢Ⅱ遺跡）	3
2 東北横断自動車道釜石秋田線建設事業（遊子Ⅱ遺跡）	6
3 花巻空港整備事業（大西遺跡）	7
4 県営は場整備事業原体地区（東館遺跡）	8
5 県営土地改良総合整備事業（上幅遺跡）	12
6 県営は場整備事業猫川左岸地区（深沢遺跡）	15
7 家畜保健衛生所施設整備事業（砂込Ⅲ遺跡）	17
8 ふるさと農道緊急整備事業要害地区（鳥喰Ⅲ遺跡）	18
9 宮古測候所ウインドプロファイラ設置事業（鍔ヶ崎館山貝塚）	21
10 農地開発事業普代地区（下村・下村Ⅰ遺跡）	23
11 盛岡東警察署等庁舎新築事業（盛岡城跡）	25

## II 試掘調査

1 一関遊水地管理用道路建設事業（猪団館跡）	29
2 一般国道4号水沢東バイパス建設事業（北田Ⅱ遺跡）	30
3 国営いさわ南部農地整備事業（台Ⅱ遺跡）	31
4 国営いさわ南部農地整備事業（稔橋遺跡）	32
5 国営いさわ南部農地整備事業（小田切遺跡）	33
6 国営いさわ南部農地整備事業（五反町遺跡）	34
7 一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業（仁昌寺遺跡）	35
8 一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業（仁昌寺Ⅲ遺跡）	36
9 一般国道45号普代バイパス建設事業（力持遺跡）	37
10 一般国道340号道路改築事業（永田Ⅲ遺跡）	38
11 胆沢ダム建設事業（市野々遺跡）	39
12 東北新幹線建設事業（秋浦Ⅰ遺跡）	40
13 北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業（河崎の橋擬定地）	41
14 主要地方道盛岡和賀線道路改築事業（飯岡林崎Ⅱ遺跡）	42
15 主要地方道盛岡和賀線道路改築事業（新井田Ⅱ遺跡）	43
16 地方特定道路整備事業（L E 42-2052）	44
17 地方特定道路整備事業（早坂平遺跡）	45
18 緊急地方道路整備事業（浅石遺跡）	46
19 緊急地方道路整備事業（交付金A）（黒岩宿遺跡）	47
20 緊急地方道路整備事業（交付金A）（L F 77-0265）	48
21 一般県道東和花巻温泉線西宮野目地区（遊子Ⅱ遺跡）	49
22 二級河川雪谷川災害復旧事業（尾田(2)遺跡）	50
23 山本川山本地區通常砂防事業（MF 91-1028）	51
24 県営は場整備事業一関第2地区（竜ヶ坂遺跡）	52

25	県営は場整備事業一閣第2地区（佐藤屋敷遺跡）	53
26	県営は場整備事業一閣第2地区（矢崎Ⅰ遺跡）	54
27	県営は場整備事業一閣第2地区（畠中遺跡）	55
28	県営は場整備事業一閣第2地区（本町Ⅱ遺跡）	56
29	県営は場整備事業一閣第2地区（N E 76-1226）	57
30	県営は場整備事業八幡東部地区（烏岡Ⅱ遺跡）	58
31	県営は場整備事業八幡東部地区（烏岡Ⅲ遺跡）	59
32	県営は場整備事業八幡東部地区（番屋遺跡）	60
33	県営は場整備事業姉体地区（水ノ口前東遺跡）	61
34	県営は場整備事業姉体地区（寺ヶ前Ⅰ遺跡）	62
35	県営は場整備事業姉体地区（寺ヶ前Ⅱ遺跡）	63
36	県営は場整備事業姉体地区（寺ヶ前Ⅲ遺跡）	64
37	県営は場整備事業奥玉地区（宿下遺跡）	65
38	県営は場整備事業八重畑地区（稻荷遺跡）	66
39	県営は場整備事業猫川左岸地区（林崎Ⅰ遺跡）	67
40	県営は場整備事業姥沢上野地区（明後沢遺跡群）	68
41	土地改良総合整備事業（一般）（久田遺跡）	70
42	新交流ネットワーク道路整備事業（館遺跡）	71
43	中山間地域総合整備事業（平清水Ⅰ遺跡）	72
44	中山間地域総合整備事業黒岩地区（四十九里遺跡）	73
45	ふるさと農道緊急整備事業（黒内陣遺跡）	74
46	ふるさと農道緊急整備事業季ヶ平地区（野黒沢陣遺跡隣接地）	75
47	ふるさと農道緊急整備事業（平清水Ⅱ遺跡）	76
48	ふるさと農道緊急整備事業根岸地区（宝性寺跡）	77
49	ふるさと農道緊急整備事業黒川乙部地区（沢川目遺跡）	78
50	一般農道整備事業日向川西部地区（N E 65-1163）	79
51	広域農道整備事業盛岡西部地区（田の沢D遺跡）	80
52	広域農道整備事業東磐井地区興田地区（奈良崎Ⅱ遺跡）	81
53	広域農道整備事業東磐井地区興田地区（鳥海Ⅱ遺跡）	82
54	森林保全整備事業（中ノ館跡）	83
55	遠野第二ダム建設事業（九重沢遺跡）	84
56	遠野第二ダム建設事業（楊洞Ⅱ遺跡）	85
57	築川ダム建設事務所造成工事（沢田遺跡）	86
58	特定環境保全公共下水道（代行）事業（和野Ⅰ遺跡）	87
59	一級河川伊手川伊手地区河川局部改良事業（新田遺跡）	88
60	荒廃砂防事業（梅の木沢遺跡）	89
61	低コスト化水田農業大区画は場整備事業徳田第一地区（岡村遺跡）	90
62	試掘調査一覧	95
63	分布調査一覧	102
II	写真図版	111

# I 発掘調査



## 1 国営いさわ南部整備事業関連調査

下中沢Ⅱ遺跡（N E34-2134）

所在地：胆沢郡胆沢町小山地内

事業者：東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所

いさわ南部農地整備事業建設所

調査日：平成12年7月24日～28日

遺跡は、胆沢扇状地南西部に位置する南向き緩斜面地に立地する。現況は水田で、標高は約172mを測る。

基本層序は、第1層：表土（水田土）層厚40～55cm、第2層：暗褐色土層厚0～10cm、第3層：黄褐色土（地山遺構検出面）層厚不明である。

検出された遺構は、縄文時代中期の堅穴住居跡2棟、土坑5基、陥し穴状遺構1基である。

堅穴住居跡1号は、第1層を除去した段階で検出された。堅穴自体は削平を受けており、壁は残存しない。平面形や規模は明確には不明であるが、北西側で確認された壁溝と複式炉前部の位置（堅穴南壁際に相当すると推定）などから、直径約4.5mで六角形状を呈すると推定される。床面は全般に凹凸があり、一部貼り床が施されている。炉は石開部と前部から構成される複式炉で、石開部内及びその周辺に焼土の広がりが見られる。付属施設としては、柱穴5基と壁溝の一部及び南側で偏平な川原石を検出した。出入り口に関係する可能性がある。また、複式炉の北西に位置する柱穴は、柱穴同士で新旧関係を持ち、古い柱穴は壁側面が焼土化されており、なんらかの要因で火を受けているなど、作り替えられていることから、本住居跡は建て替えが行われた可能性が高い。

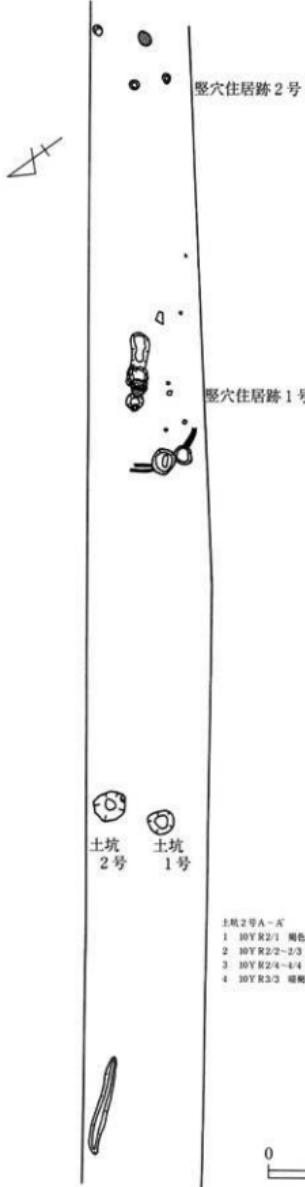
堅穴住居跡2号は残存状態が悪く、地床炉の可能性がある現地性の焼土と柱穴3基を検出したのみである。



第1図 下中沢Ⅱ遺跡位置図



第2図 下中沢Ⅱ遺跡調査区位置図

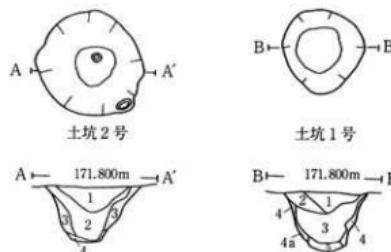


土坑は、調査区西側で検出された2基は規模や深さから推定して、貯蔵穴あるいは円形の陥り穴状遺構である可能性がある。調査区中央で検出された2基は、竪穴住居跡1号の壁溝を截って構築されており、墓壙あるいは竪穴住居跡1号の付属施設と推定される。

陥り穴状遺構は調査区の西側端で1基検出された。長軸約3.8m、短軸0.6~1.1m、深さ約0.6mである。埋土は黒褐色土と褐色土で構成され、自然堆積の様相を呈する。

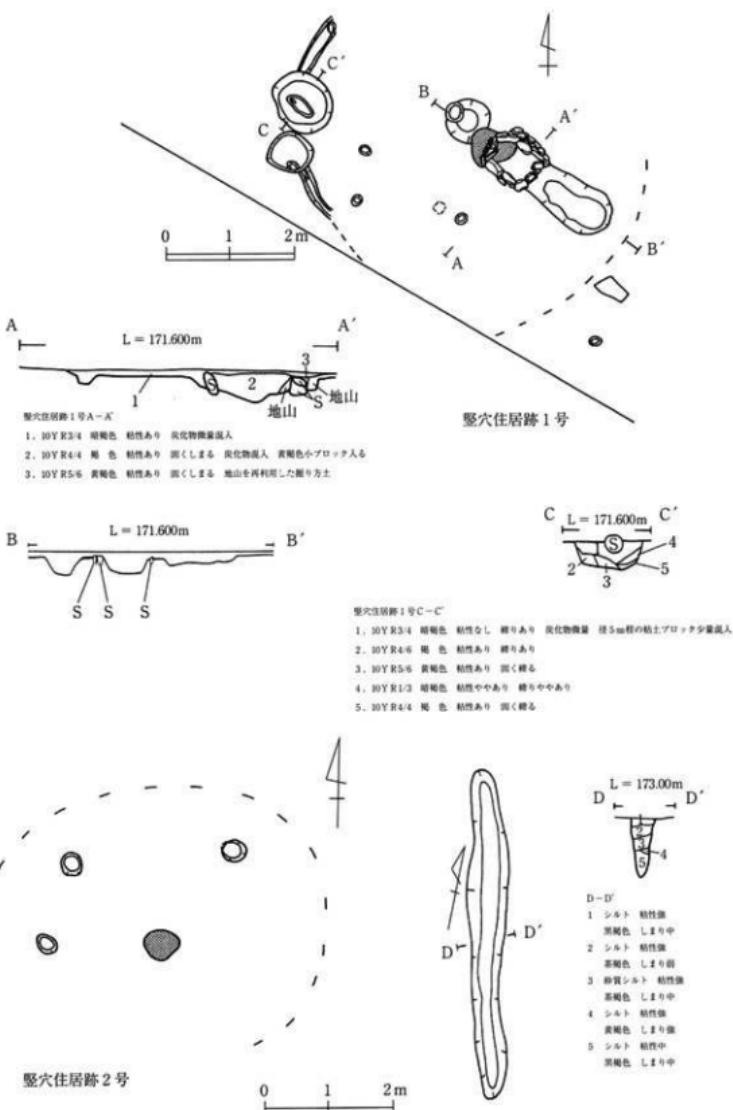
出土遺物は、竪穴住居跡1・2号の床面付近と柱穴から縄文時代中期後葉の土器片が、3号土坑（竪穴住居跡1号壁溝と重複する土坑）より黒曜石のフレークが出土した。出土した土器片は、地文のみを施す粗製深鉢の破片が主体で、精製土器の破片は数点である。

以上のことから、今回の調査区は、縄文時代の集落及び狩場であることが明らかとなった。遺構の形態や出土土器から、集落として存立していたのは縄文時代中期後葉であると推定されるが、狩場として機能していた時期については不明である。



- 土坑 2号 A-A'
- 10YR 2/1 黒色 シルト 粘性中、陥り中
  - 10YR 2/2-2/3 黒褐色シルト 粘性やや強、陥りやや強
  - 10YR 2/4-4/4 單純~複色 粘土質土、粘性やや強、陥りやや強
  - 10YR 3/2 單純色 シルト質 粘土質土、粘性やや強、陥りやや強
- 土坑 1号 B-B'
- 10YR 1/7/1 黒色 シルト 粘性やや強、陥り中
  - 10YR 1/2 黑褐色 シルト 粘性やや強、陥り中
  - 10YR 2/2 黑褐色 シルト 粘性やや強、陥り中
  - 10YR 4/6 黑土質シルト 粘性強、陥りやや強
  - 10YR 3/4-4/6 單純~複色 粘土質土、粘性強、陥りやや強
  - 10YR 4/6 黑色 粘土質土、粘性強、陥りやや強

第3図 下中沢II遺跡遺構図



第4図 下中沢II遺跡遺構図

## 2 東北横断自動車道釜石秋田線建設事業関連調査

遊子II遺跡 (ME 15-1368)

所在地；花巻市西宮野目地内

事業者；日本道路公団東北支社北上工事事務所

調査期日；平成12年6月28日、

7月6日～7月7日（3日間）

今回の発掘調査は、東北横断自動車道建設に伴う仮設道路建設及び水道管切替え等による緊急調査として実施した。遺跡は、東流する瀬川左岸の沖積平野上の微高地に立地しており、標高は87～88mを測り、遺跡の現況は主に水田・宅地である。20cm程の表土の下層が黄褐色ローム層となっており、この面が遺構検出面となった。検出された遺構は、小規模な柱穴状の土坑9基である。土坑は、いずれも平面形が円形または梢円形を呈しており、開口部の径は30～50cm程度である。深さは10～25cmで遺構によりやや開きがあるが、埋土はいずれも褐色砂混シルトの単層であった。埋土には炭化物粒を少量含むものの柱痕及び掘方の状況は明確ではなかった。柱穴状土坑は部分的に規則的に並ぶようにみえるが、限られた調査区のため建物を構成するものかどうかは不明である。遺物は表土及び遺構内から一切出土しなかつたが、東側試掘調査地の平安時代の遺構との関連も考えられる。



第5図 遊子II遺跡位置図



第6図 遊子II遺跡遺構配置図



第7図 遊子II遺跡調査区位置図

### 3 花巻空港整備事業

大西遺跡（ME 06-2345）

所在地；石鳥谷町八重畠地内

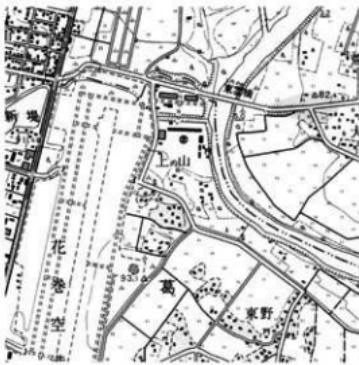
事業者；花巻空港建設事務所

調査期日；平成12年5月8日～12日（5日間）

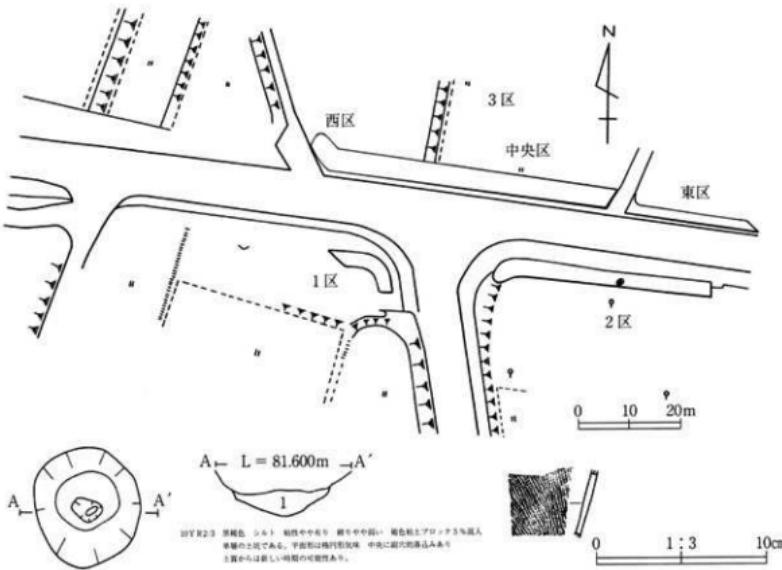
遺跡は、北上川左岸の河岸段丘及び沖積地に立地する。標高は80mほどである。

調査区は1、2、3区とした。1区では遺構は発見されず、3層中からロクロ土器が出土したのみである。基本層序は、1層、耕作土、黒色土層で厚さは40cmである。2層は茶褐色土層で厚さは25cm、3層は砂層で厚さは25cm以上で、湧水がみられた。

2区では、直径1.1mで深さ0.3mの円形の土杭が1基発見された。検出面は3層上面で、遺物は出土しなかった。基本層位は1層、耕作土、黒褐色土層、シルト、厚さは20～30cmである。2層は黒褐色土層、シルト、3層は褐色土層、粘土である。付近で石鏡1点、土器1点が表採できた。3区は東西に長い調査区で、水田区画を利用して、西から、西区、中央区、東区とに分け調査区を設定した。西区で遺構は発見できなかつた。基本層位：1層は耕作土、2層は黒褐色土層、3層は暗褐色土層、4層は黒褐色土層、5層は褐色土層、粘土層である。2層から土器、4層から縄文晩期の土器が出土した。中央区は、4つのトレンチを設定した。トレンチ1では5層から縄文土器が出土した。これ以外のトレンチからは遺構、遺物は発見されなかつた。東区では遺構、遺物とも発見されなかつた。



第8図 大西遺跡位置図



第9図 大西遺跡調査区位置図

#### 4 県営ほ場整備事業原体地区

東館遺跡 (N E 08-1172)

所在地：江刺市田原字原体地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成12年4月13日～27日（11日間）

遺跡は伊手川が形成した小規模な沖積地盆地の中央に立地する。標高は49m前後である。地元に伝えられた話ではこの遺跡に甲冑出土伝承もあるという。

今回は水路工事により削平を受ける部分の発掘調査を実施した。

調査で検出された遺構は堀跡1条である。調査区に直交する形で幅5m、深さは1.3m程である。

堀跡はA区、B区とした。A、B区は、A-A' B-B'壁に対応する。

A区では、第2、3、6層で十和田a火山灰が確認された。

B区の堆積土は8層に分けられる。堆積土は黒色土を中心構成され、遺物は第4、7層を中心に出土した。第1層は耕作土で層厚20～40cm、第2層、暗褐色粘土層、層厚20～30cm、第3層、黒色泥質粘土層、層厚15cm、第4層、黒褐色粘土層、層厚40cm、第5層、黒色泥質粘土質土層、層厚20cm、第6層、灰褐色粘土層、層厚20cm、第7層、黒褐色泥質土層、層厚60～70cm、第8層、黒褐色泥質土層、層厚10～80cmとなっている。

出土土器は土師器が圧倒的に多く、須恵器が若干含まれている。7層からは、灰釉陶器（後挽）が出土した。土師器の年代は9世紀後半～10世紀前半と考えられる。壺、高台付壺、蓋等の器種が確認されているが、壺が圧倒的に多い。7層の灰釉陶器は15世紀末から16世紀初めのものと推定される。

堆積土中からは、自然木、未分解の植物等が出土した。種子等も採取された。動物遺存体も出土し、シカの歯、骨片も出土した。

これ以外の調査区では砂、疊層が耕作土直下にあり、遺構、遺物の出土はなかった。

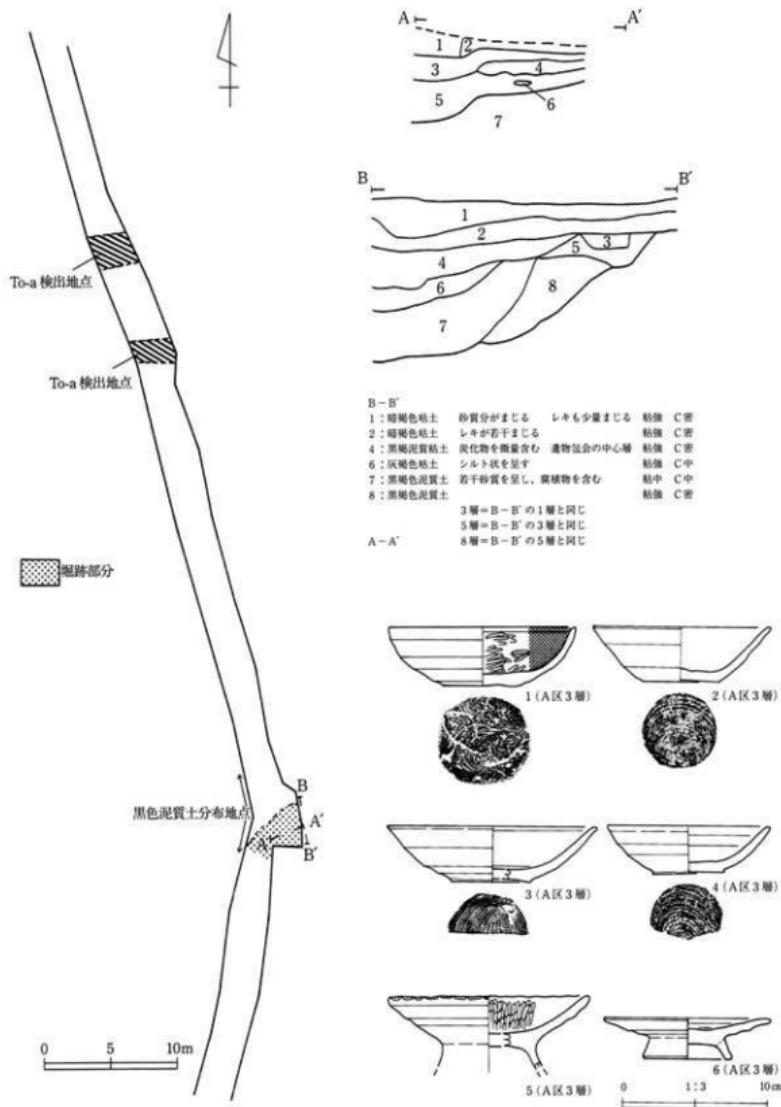
発掘区に隣接する水田北端の段差部分で赤漆塗り木製椀の破片（時期不明）、土師器、須恵器を表採した。



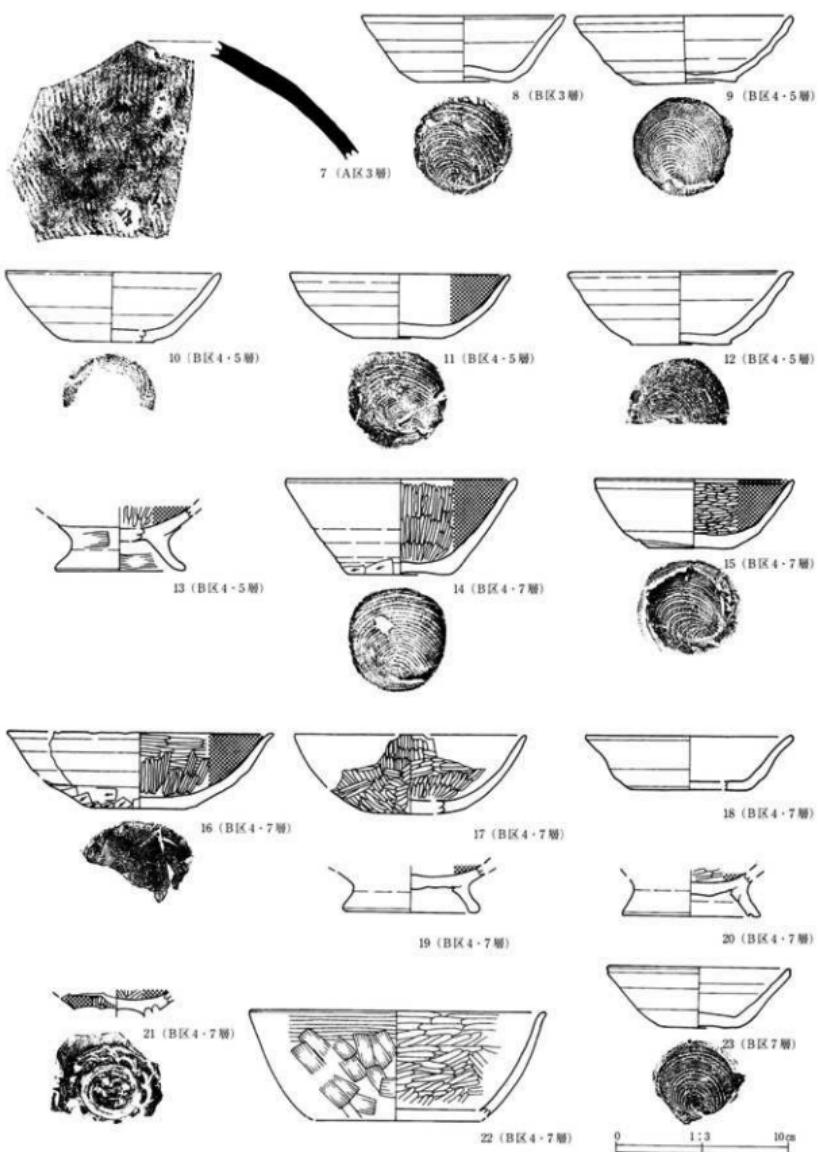
第10図 東館遺跡位置図



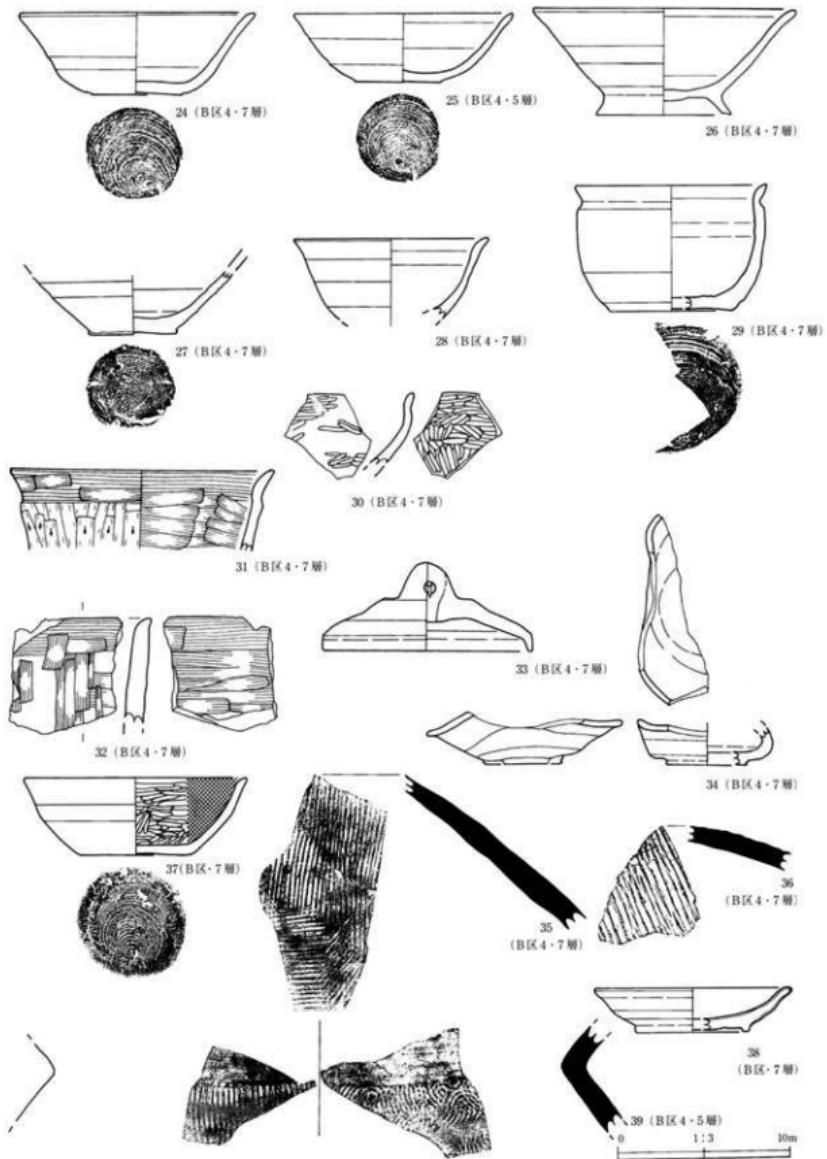
第11図 東館遺跡調査区位置図



第12図 東館遺跡構造図・出土遺物 1



第13図 東館遺跡出土遺物 2



第14図 東館遺跡出土遺物 3

## 5 県営土地改良総合整備事業関連調査

上幅遺跡 (ME17-2128)

調査期日：平成12年5月18日～24日（5日間）

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

所在地：花巻市矢沢第6地割

遺跡は、新花巻駅の北東約1kmのところに位置し、北上川によって形成された河岸段丘上に立地する。標高は90m前後を測り、現況は、水田・畠地である。今回の調査は、県営土地改良総合整備事業に伴い実施した。

以前に試掘調査を実施した結果、遺構・遺物が確認されたことにより今回発掘調査を実施したものである。今回の発掘対象面積は140m<sup>2</sup>である。

今回の調査で検出された遺構は、堅穴住居跡3棟である。

1号竪穴住居跡は、一辺3m前後の隅丸方形を呈する。遺物は土師器の小片が若干見られる程度である。かつての開田の際に、遺構上部及び新幹線高架寄りの部分は削平を受けている可能性が高く、遺構の残存状況は良くなかった。

2号竪穴住居跡は、一辺3.5m前後四方の隅丸方形を呈し、東向きのカマドを持つ。かつての開田の際に造構上部及び新幹線高架よりの部分は削平を受けており、残存状況は貼床とカマドに伴う焼土の一部程度であった。なお、住居内にあるP3からは、土師器壺が器全体の1/2、内面黒色処理の施された土師器壺が完形で5~6個体分出土している。

3号竪穴住居跡は、1号竪穴住居跡のほぼ直下にあり、深さは50cm前後、一边3.6m前後四方の隅丸方形を呈するものと推定されるが、今回の調査区外へ伸びるため、正確な規模については不明である。

なお、1号竪穴住居跡及び3号竪穴住居跡の東側には南東向きのカマドが認められる。カマドの構築材の確認状況などから、このカマドの跡は、主に3号住居跡に伴うものであることが予想される。

遺物は土師器の壺（1～5）、椀（6）、壺（7）が確認されている。壺はいずれもロクロ成形であり、内面は黒色処理の後、ヘラミガキの調整が施されている。底部外面は、1はヘラケズリで調整しているが、2～5は無調整である。椀はロクロ成形であり、内面は部分的にヘラミガキ、底部外面にヘラケズリの調整が施されている。壺はロクロで成形の後、体部外面以下にヘラケズリの調整が施されている。出土した土器の年代はいずれも9～10世紀のものであると考えられる。

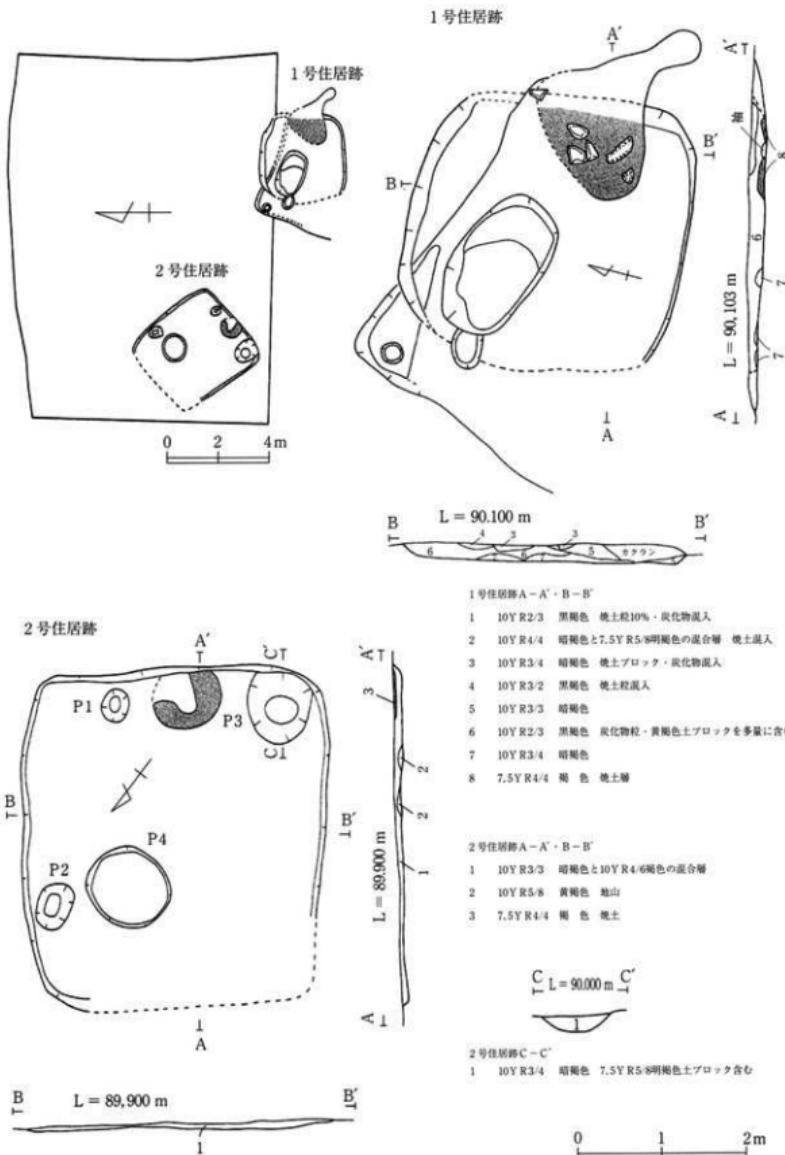
なお、今回の発掘調査によって、調査範囲の南側にも遺構があることが明らかとなつた。



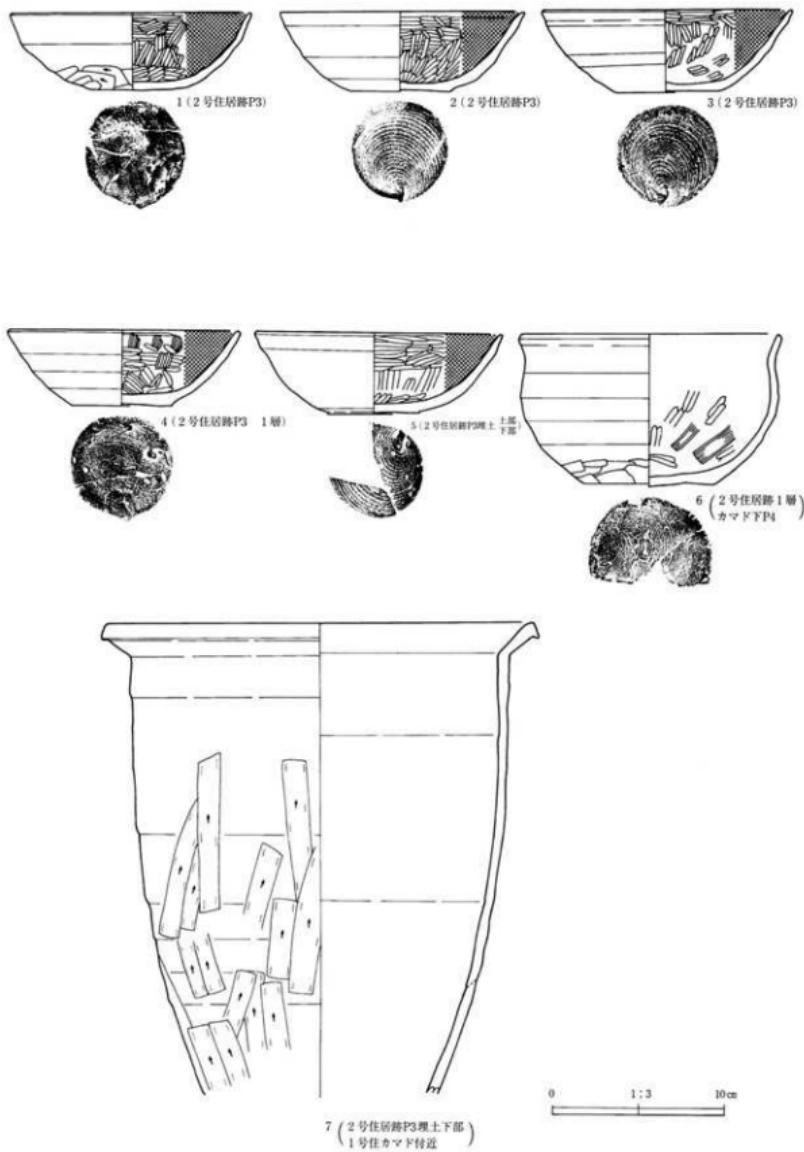
第15図 上幅遺跡位置図



第16図 上総遺跡調査区位置図



第17図 上幅遺跡遺構図



第18図 上幅遺跡出土遺物

## 6 県営は場整備事業(担い手育成区画整理型)猫川左岸

### 地区閲覧調査

深沢遺跡（MF66-2239）

所在地：遠野市上郷町細越地内

事業者：遠野地方振興局遠野農村整備事務所

調査期日：平成12年5月15日～17日

遺跡は、猫川左岸の丘陵地の緩斜面地に位置する。現況は畑地及び水田で、標高は407m前後を測る。

調査面積は約70m<sup>2</sup>で、基本層序は、第1層：表土（耕作土）層厚15～25cm、第2層：黒褐色土層厚20～30cm、第3層：黄褐色土（地山、造構検出面）層厚不明である。

調査の結果、平安時代の堅穴住居跡1棟を検出した。

堅穴住居跡は、2層黒褐色土を除去した段階で検出され、形状は隅丸方形を呈し、規模は6.5×6.0m程度である。壁は外傾気味に立ち上がり、壁高は10～30cmである。堅穴上部は、現代の耕作により、削平を受けている。埋土は黒褐色土シルトによる單層で、炭化物や焼土ブロックが少量含まれる。床面は、部分的に貼り床が施され、全般に固く若干の凹凸がある。カマドは、西壁際に構築されており、煙道部はすでに削平を受けていたが割り貫き式と推定される。煙出し部分は、上位に堆積する4層（断面図C-C'）は自然堆積層であるが、下位の5・6層は人為堆積層であることから、なんらかの要因で埋め戻された可能性が窺える。カマド袖部分の残存はなかったが、焼却部と思われる現地性の焼土の広がりが80×60cmで見られる。柱穴は明確ではないが、検出された小土坑5基に可能性がある。その他の付属施設としては、壁際から貯蔵穴と思われる土坑2基と西壁際の床面で30cm程に広がる焼土を検出している。

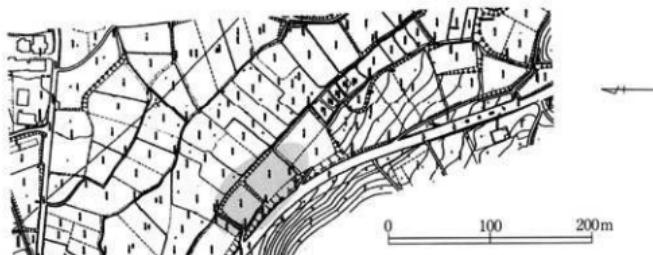
出土遺物は、床面及び床面上から土師器片が出土した。器種は甕を主体とする。

本堅穴住居跡は、明確には把握できなかったが、焼失家屋と推定され、その際にカマド挿出し部を埋め戻すなどの行為が行われた可能性が示唆される。

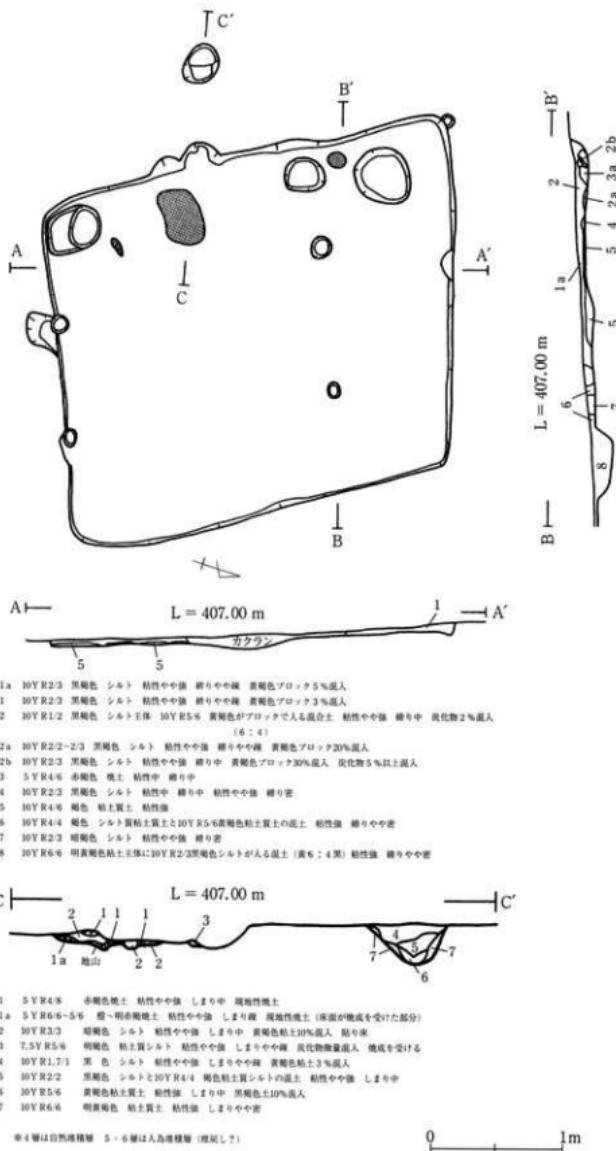
以上、今回の調査区からは平安時代の集落跡の存在を確認することができた。



第19図 深沢遺跡位置図



第20図 深沢遺跡調査区位置図



第21図 深沢遺跡遺構図

## 7 家畜保健衛生所施設整備事業関連調査

砂込Ⅲ遺跡（KE 76-0172）

所在地：岩手郡滝沢村滝沢字砂込390-5

事業者：県農政部畜産課

調査期日：平成12年6月19日～23日（5日間）

本遺跡は、JR東北本線滝沢駅の西約2.5km、岩手火山を供給源とする火山灰台地上に位置する。調査面積は6,000m<sup>2</sup>、標高は260m～261m程度である。

今回の発掘調査は、盛岡家畜保健衛生所新庁舎建設工事に伴うもので、調査区は県畜産試験場の敷地内にある。調査区の現況はグランド（野球場）で、前年度の試掘調査では、陥し穴状遺構1基だけの検出であったが、土層等の観察から住居跡の検出も予想できた。調査は、重機により表土を除去することから始まったが、面積が広範囲にわたることもあり、出土の置き場を考えながらの調査となった。

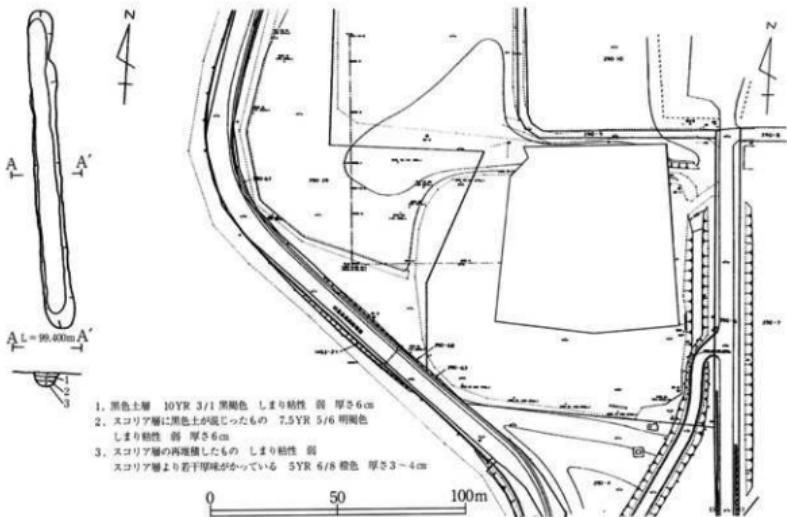
その結果、調査区北側はグランド造成時にかなりの削平を受けており、大部分の遺構は破壊されていたことが判った。検出された遺構は、縄文時代の陥し穴状遺構1基のみである。基本層序は、次のとおりである。

第1層：表土5～10cm、第2層：暗褐色～黒褐色土（生出火山灰混入層）約25cm、第3層：褐色～暗褐色土（堀切火山灰層）30～40cm、第4層：褐色土（分かれ火山灰層）50cm以上、第5層：黄褐色土（柳沢火山灰層）層厚不明

陥し穴状遺構は、調査区の南東端、5層中で検出したが、遺構の深さから判断して、その上部は破壊を受けているものと判断される。形状は溝状を呈し、規模は3.2×0.2m、深さは15cmである。出土遺物を伴わなかったため、詳細な時期は不明である。



第22図 砂込Ⅲ遺跡位置図



第23図 砂込Ⅲ遺跡調査区位置図

## 8 ふるさと農道緊急整備事業要害地区関連調査

鳥喰Ⅲ遺跡 (N F 91-2244)

所在地；東磐井郡千厩町清田鳥喰地内

事業者；千厩地方振興局千厩農村整備事務所

調査日；平成12年4月17日～27日（9日間）

鳥喰Ⅲ遺跡は、JR東日本千厩駅の東約1.5kmに位置し、北流して千厩川に注ぐ小規模な沢沿いに、わずかに張り出した細長い平坦部に立地している。遺跡の標高は143m前後を測り、現況は山林であるが、以前は水田として利用されていた時期がある。平坦部の幅は約15mで、自然地形を残す部分と、開田等により平坦に造成された部分がある。

今回の調査は、ふるさと農道緊急整備事業に伴うもので、平成11年12月の試掘調査において遺物包含層が確認されたことから、記録保存を目的として実施したものである。

発掘調査面積は約200m<sup>2</sup>で、調査区の基本層序は以下の通りである。1層：表土（腐食土）20～30cm、2層：黒褐色土（遺物包含層）10～30cm、3層：暗褐色土（部分的に黄褐色の火山灰がブロック状に混入する）30～40cm、黄褐色土（地山、砂・礫が混じる）層厚不明。

検出された遺構は、焼土遺構1基と遺物包含層である。焼土遺構は調査区南側のⅢ層上面で検出され、47×33cmほどの規模の不整形で、赤褐色の焼土と少量の炭化物から構成されている。断面の形状から投げ込まれたものの可能性が高い。

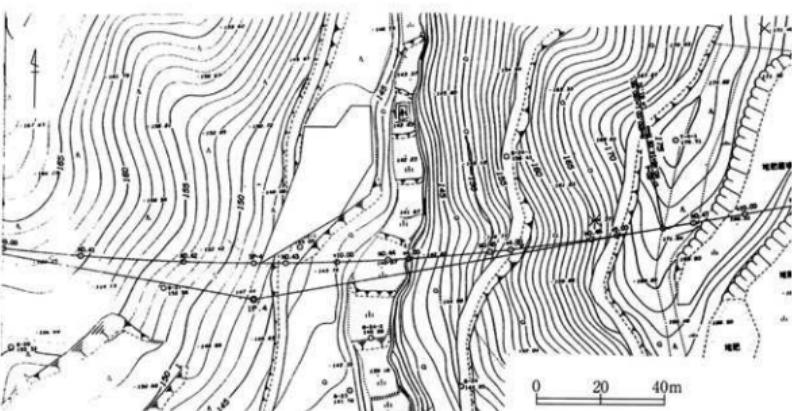
遺物包含層は2層の黒褐色土層で、調査区南側から中央部付近に広がり、緩やかな斜面になる南側ほど遺物を包含している。

出土した遺物は、縄文時代後期のものが中心であり、若干晚期前葉と思われる土器も出土している。石器は、石鏃・石匙・磨石が出土している。また、土製品として土偶の足及び体部各1点出土した。

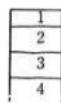
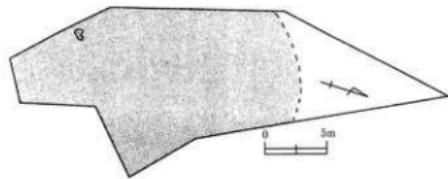
今回の調査区は、鳥喰Ⅲ遺跡の中でも縄文時代後期の土器の捨て場であることが明らかとなった。



第24図 鳥喰Ⅲ遺跡位置図

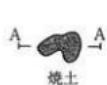


第25図 鳥喰Ⅲ遺跡調査区位置図



- 1層 表土(腐食土) 20~30cm  
2層 黒褐色土(遺物包含層) 10~30cm  
3層 暗褐色土 30~40cm 大山灰(中報?)がブロック状に混入  
4層 黄褐色土 地山 砂、礫混入

■ 遺物包含層分布範囲

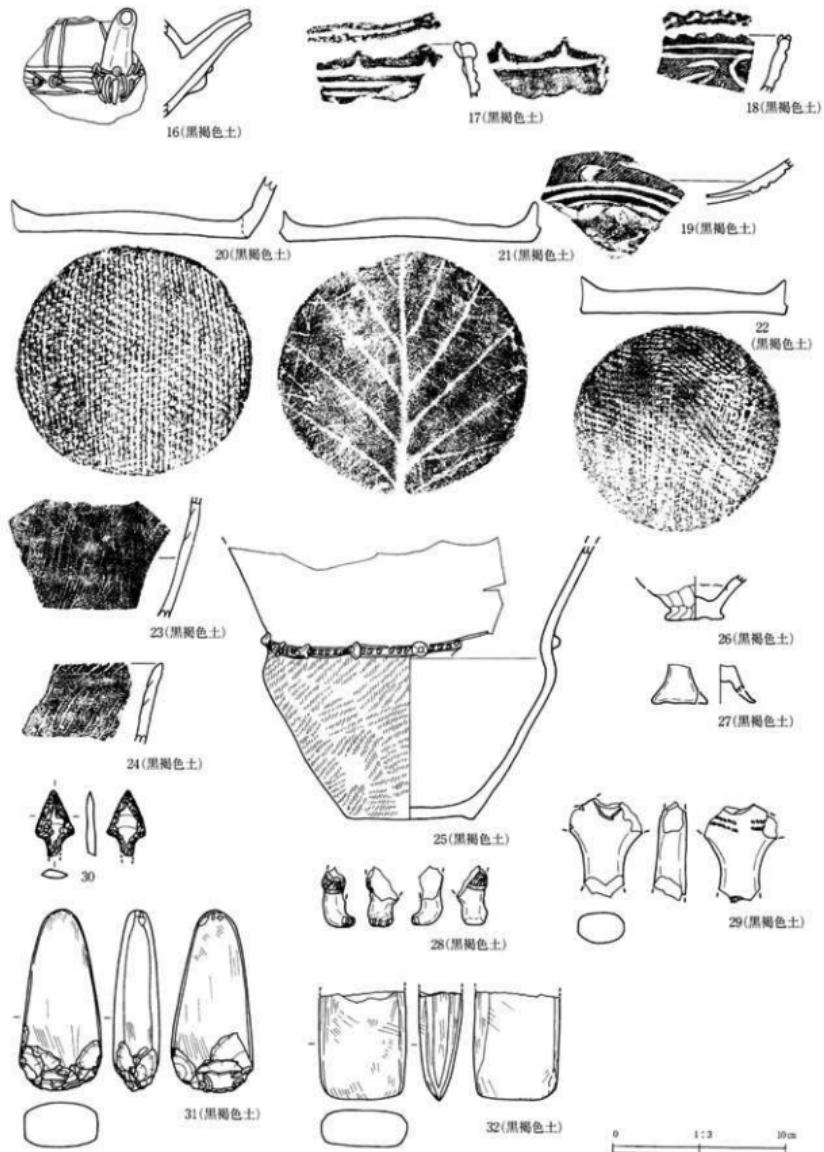


- A-A'  
1. SYR 6/4 赤褐色地土 しまっている  
2. 7SYR 3/3 暗褐色 シルト しまっている  
3. 10YR 3/3 暗褐色 砂が混じる しまっている  
4. 10TR 3/4 喬褐色 シルト

焼土



第26図 鳥喰Ⅲ遺跡遺構図・出土遺物(1)



第27図 鳥喙Ⅲ遺跡出土遺物(2)

## 9 宮古測候所ウインドプロファイラ設置事業

鉢ヶ崎館山貝塚（L G24-2184）

所在地：宮古市鉢ヶ崎下沢地内

事業者：盛岡地方気象台宮古測候所

調査日：平成12年10月12日～13日（2日間）

遺跡は、閉伊川北側樹枝状に解釈された千穂丘陵の最東端部に立地する。現況は宮古測候所の各施設、旧宅地等である。調査区の標高は45～46mである。今回は、ウインドプロファイラ設置予定地部分とそれに伴う管線部分の確認調査を行った。

遺跡の基本層序は、第Ⅰa層：表土（アスファルト）層厚5cm、第Ⅰb層：砂利（現代整地層）層厚20～30cm、第Ⅰc層：にぶい黄褐色砂質シルト（現代盛土層）層厚0～250cm、第Ⅰd層：黒褐色シルト質粘土（擾乱or遺構埋土）層厚約25cm、第Ⅱ層：にぶい黄橙色マサ土（地山）層厚不明、遺構検出面である。その結果、ウインドプロファイラ設置予定地部分は、現地表面から80～300cm削平（掘削）されていることがわかった。

ウインドプロファイラ設置予定地部分における東部は、削平が著しく、250～300cmの深さで掘削後、Ⅰc層と呼称した土層で整地されている。なお、Ⅰc層の年代については、当初中世城館構築に伴う整地層の可能性が示唆されたが、局所的に見られた鉄くずやスズランテーブ等から現代の整地層と判断した。

ウインドプロファイラ設置予定地部分における西部は、現地表面からの削平が80cm前後と比較的浅く、「縄文時代の包含層を使用した旧表土」と判断される堆積層及びその下部からフ拉斯コピットの下半部と思われるプランを確認した。旧表土と思われる土層は、暗褐色を呈したシルトで、縄文時代早期・中期の土器片や貝殻小片等が出土した。現代遺物が全く含まれないことを、同層の下部から縄文時代のフ拉斯コピット？が検出された状況から推定して、古代あるいは中世に削平した後に整地された土層である可能性が考えられる。本層は調査区外南西側に延びることから、現在駐車場として利用されている部分の下位では、良好に残存するものと思われる。

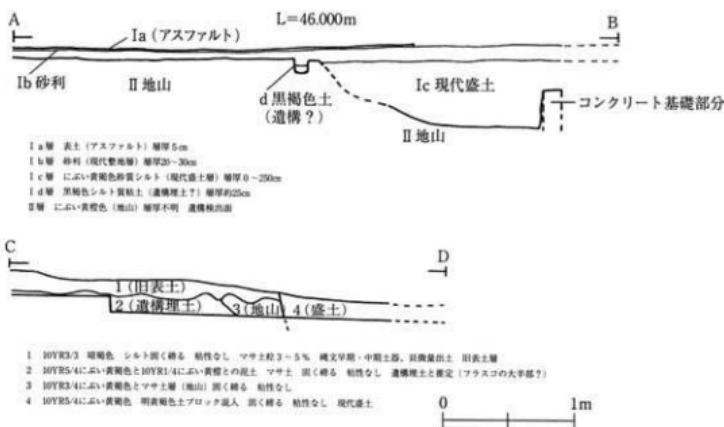
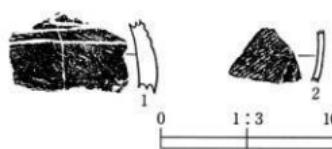
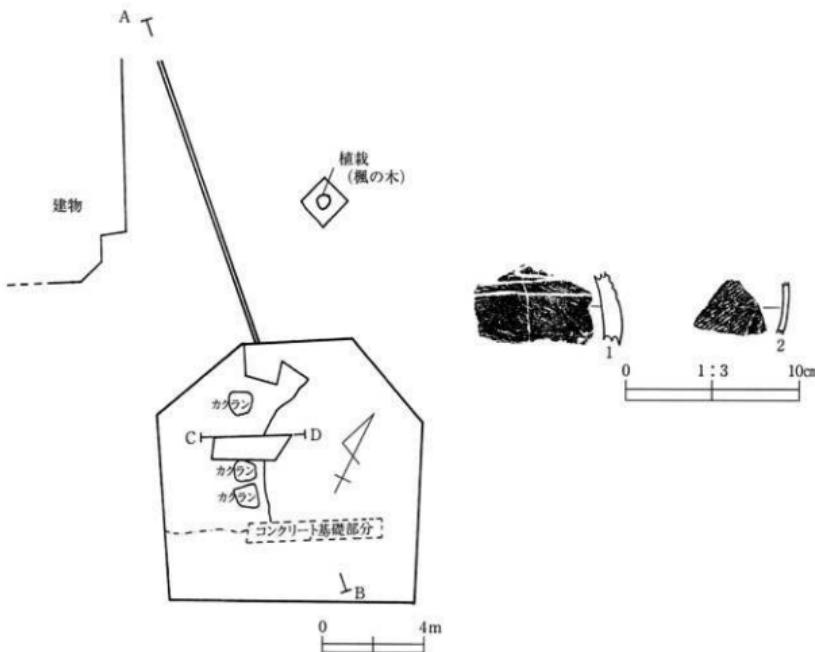
管線部分については、調査区の幅30cm前後と狭いこともあり遺構検出が困難で、地山面の確認にとどまる。現在の地表面から40cm弱で地山面が表れ、ウインドプロファイラ設置予定地部分と比べて削平の深さが浅いことから、平成元年に実施した発掘調査（宮古市教委）と同様の遺構残存状態であると思われる。



第28図 鉢ヶ崎館山貝塚位置図



第29図 鉢ヶ崎館山貝塚調査区位置図



第30図 錫ヶ崎館山貝塚遺構図

## 10 農地開発事業普代地区関連調査

下村遺跡（J G93-2158）

下村I遺跡（J G93-2147）

所在地；下閉伊郡普代村第2地割字下村地内

事業者；久慈地方振興局久慈農村整備事務所

調査期日；平成13年3月5日～7日（3日間）

下村遺跡・下村I遺跡は三陸鉄道北リアス線普代駅の東約4kmに位置し、海岸段丘の頂上付近に見られる傾斜の緩やかな丘陵地に立地している。遺跡の標高は200m前後を測り、現況は主に山林・畠地である。

今回の調査は、農地開発事業に伴うもので、平成12年10月31日と11月28日の試掘調査において遺物と造構が確認されたことから、記録保存を目的として実施したものである。

事業はアスファルト舗装の村道黒崎港線内を幅約1mにわたり掘削し、配水のパイプを埋設するものである。試掘調査では遺跡にかかる村道内に、下村遺跡は3箇所、下村I遺跡は6箇所のトレーナーを設定した。その結果、今回の発掘調査の範囲において造構と思われる暗褐色土の広がりが検出され、少量の縄文土器・石器が出土した。また、道路に隣接する畠からも縄文土器が表採されている。今回の発掘調査面積は約120m<sup>2</sup>である。

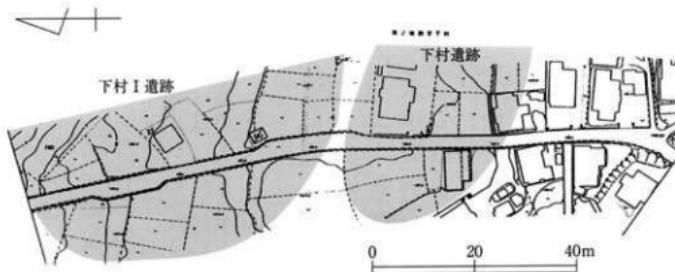
下村遺跡からは調査区北側で土坑が1基検出されている。土坑は、一部が現道下へ続くことから詳細は不明であるが、平面形は開口部・底部とも円形で、断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径が1.1m、底部径が2.1m、深さは1.0mほどである。断面は検出面から15cmほどの深さで径65cmにすばまり、20cmほどそのまま下がってから底部に向かって広がっていく。この土坑の埋土から縄文土器が出土したことから、縄文時代の造構と考えられる。

下村I遺跡は下村遺跡の北側に隣接している。下村I遺跡からは中央部付近で陥し穴状造構が1基検出された。陥し穴状造構も一部が現道下へ続くことから詳細は不明であるが、平面形は溝状を呈するものと推定される。

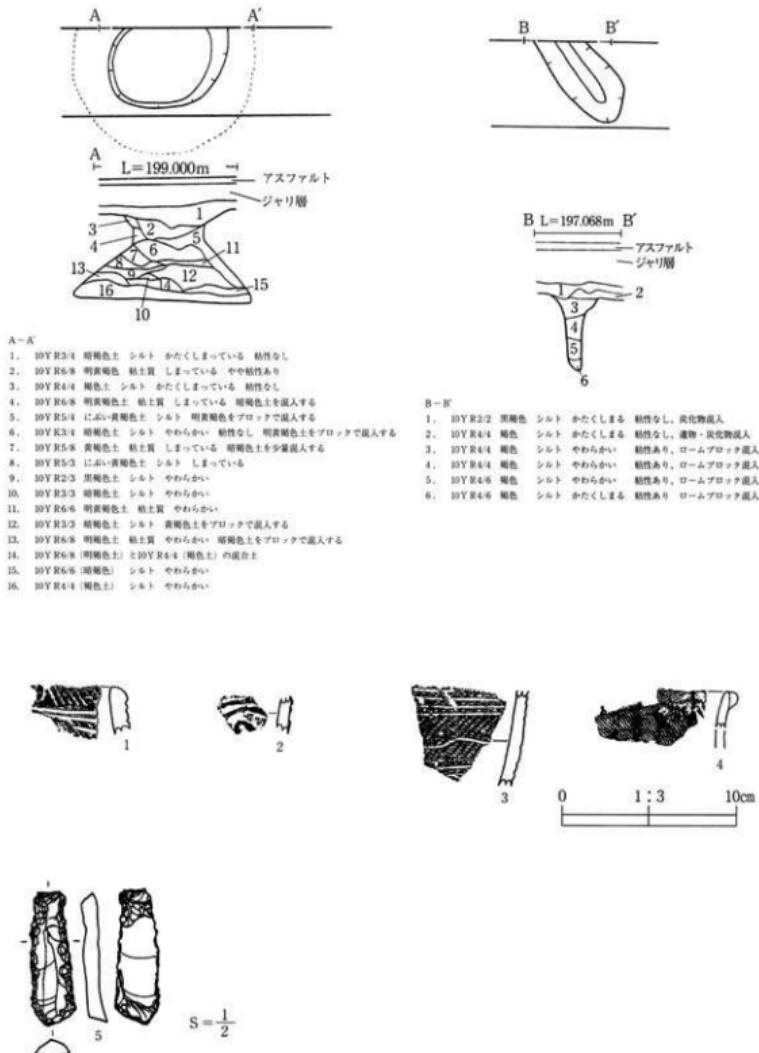
断面形はT字状を呈する。検出した造構の規模は開口部幅が60cm、底部幅が15cm、深さ85cmである。埋土から少量の縄文土器が出土したことと形状から、時期は縄文時代と推定される。



第31図 下村・下村I遺跡位置図



第32図 下村・下村I遺跡調査区位置図



第33図 下村・下村Ⅰ遺跡遺構図・出土遺物

## 11 盛岡東警察署等庁舎新築事業関連調査

盛岡城跡（LE16-0355）

調査日：平成12年3月1日～10日（8日間）

事業者：岩手県警察本部警務部

所在地：盛岡市内丸66番2

中津川と北上川の合流点付近の浸食段丘上に立地する。現在の盛岡城指定地の東側に隣接し、外曲輪の部分に該当する。今回の調査は、盛岡東警察署等庁舎の建設に伴うもので、遺構の遺存が期待される中庭部分について調査を実施した。

基本層序は、1層：現警察署の中庭造成時の整地層（厚1m程）、2層：褐色砂礫層（地山）となっている。

調査の結果、遺構は、近世以降の溝跡1条、石組遺構1基、埋瓶4基が確認された。

溝跡は、幅1.7mで、中津川に平行するように南北方向に伸びている。北側は調査範囲外に続いているようだが、石組遺構より南側には確認できなかった。南に向かうにつれて徐々に深くなっている。埋土には近世陶磁器が含まれていた。石組遺構より古いことは確実であるが、正確な時期については不明である。

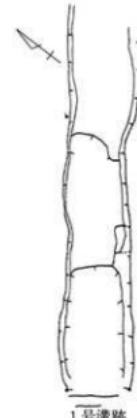
石組遺構は、幅1m程度で、溝状に東西方向に伸び、調査範囲外に続くようである。溝跡に直交し、盛岡城の堀と中津川を結ぶ方向に伸びる。石の組み方は、個々の石の大きさが異なるため、場所によって異なる。西の方で、古い水道管が石の下から出てきたが、周囲は搅乱を受けていたため、水道管との時期の前後関係は不明である。ただし、楔の痕跡から、一部の石は江戸時代に削られたことは確実である。近世～近代の遺構であり、排水路と考えられる。

埋瓶は、径1mほどの瓶を地山を掘って埋設したものである。4基とも上半部が残っていなかった。内部には黄褐色の土が詰まっており、近世以降の便槽と考えられる。

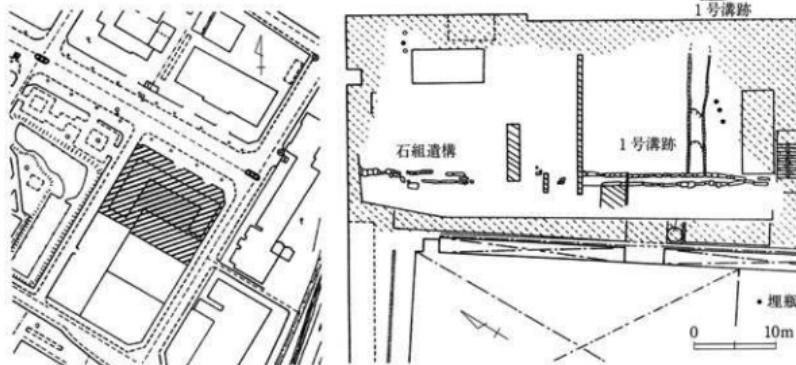
遺物については、陶磁器片・瓦が確認されている。いずれも近世以降のものである。



第34図 盛岡城跡位置図



1号溝跡



第35図 盛岡城跡調査区位置図・遺構配置図



## II 試掘調查



## 1 一関遊水地管理用道路建設事業関連調査

猪岡館跡 (N E 76-2347)

所在地；西磐井郡平泉町長島字須崎

事業者；国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

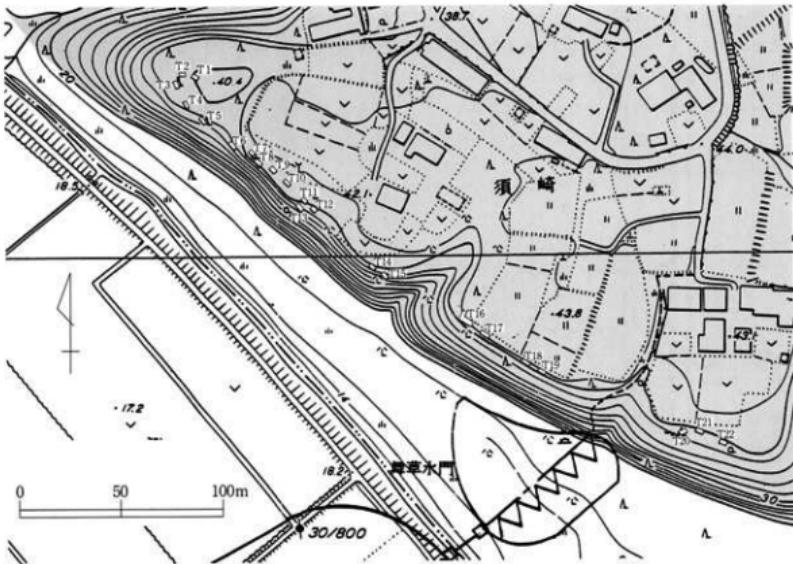
調査期日；平成12年11月14日、

12月11日（2日間）

遺跡は平泉町の東側に位置し、北上川によって形成された段丘の縁に立地している。遺跡の標高は、42m前後で、沖積地との比高は24m程である。『岩手県中世城館跡分布調査報告書』によれば、「猪岡館跡」は北上川に向かって扇状に広がる丘陵に3本の堀があり130×100mの主郭があるとされている。現況は水田と山林であったが、一部未伐採の箇所があったため、2回に分けて試掘調査を実施した。1回目の調査では、樹木伐採中の一部を除き22本の試掘トレンチを設定した。北側で自然地形を利用した空堀跡を検出した。現地表面から約1.8mの深さがある。また、表土下から密度は低いがほぼ全域にわたって柱穴等の遺構を検出しており、それらについては館跡に伴う建物跡の柱穴の可能性が考えられる。また、T1～5付近では、縄文土器片と剥片を地表で2点採取しており、遺跡内に縄文時代の遺構が存在する可能性が考えられる。2回目の調査では、前回樹木の伐採中で調査できなかった部分について試掘トレンチを4本設定した。いずれのトレンチからも表土直下の地山面から柱穴を確認した。一方段丘の縁に近い部分では、厚さ40cm程の新しい盛土層が認められた。これらについては、現況の水田造成時のものと考えられる。（平成13年度発掘調査予定）



第36図 猪岡館跡位置図



第37図 猪岡館跡調査区位置図

## 2 一般国道4号水沢東バイパス建設関連調査

北田II遺跡 (N E 17-2038)

所在地：水沢市佐倉河字北田地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日：平成12年5月23日

北田II遺跡は、JR東日本東北本線水沢駅の東北東約1.5kmに位置し、北上川に注ぐ支流によって形成された河岸段丘上に立地している。現況は水田である。

今回の調査は水沢東バイパス建設に伴うもので、今回の試掘調査区の西側と南側の水田は、平成12年度に財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。

調査では、東西方向に幅1.5m、長さ6~12m程のトレンチを21本設定した。(T 1~21)

調査の結果、T 1東端とT 18東端を結んだ線の西側では、表土直下に砂礫層が検出され、河川の氾濫原であった可能性が高い。昨年度の試掘調査及び水沢市教育委員会が付近で行った倉庫建設に伴う確認調査でも旧河道の存在が確認されており、今回のももその延長と考えられる。この部分からは遺構・遺物とも確認されなかった。

T 1東端とT 18東端を結んだ線の東側では、T 2・3・6・8・11・14・16・21から縄文時代晩期の土器片が出土している。T 2・3では、黒色土の円形の広がりを検出した。土器を伴っており、径3.5m程の規模の縄文時代の堅穴住居跡と推定される。

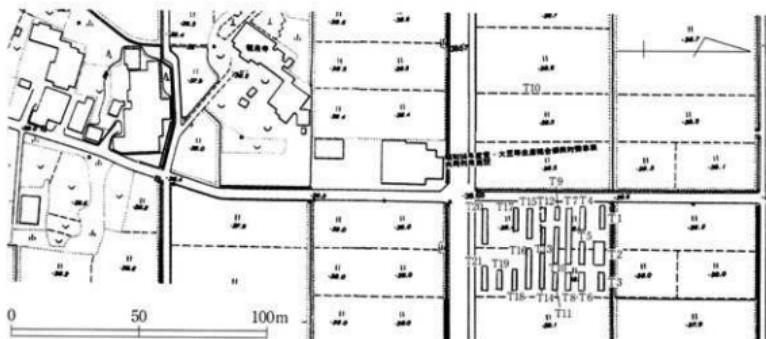
また、T 11・14・16では、北西~南東方向に幅1m程の黒褐色土の溝状の広がりが確認された。この溝からは遺物は出土せず、時期は不明である。

今回の試掘調査で出土した遺物はすべて縄文土器で、調査区東側を中心に少量出土している。

以上のことから、調査区の東側は、氾濫原の微高地が残存しており、その部分で遺構が検出される可能性が高い。(平成13年度本調査予定)



第38図 北田II遺跡位置図



第39図 北田II遺跡調査区位置図

### 3 国営いさわ南部農地整備事業

台II遺跡 (N E34-2247)

所在地：胆沢町小山地内

事業者：東北農政局胆沢狼ヶ石土地改良建設事業所

いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日：平成12年11月10日

遺跡は、奥羽山脈から東に向かって伸びるなだらかな扇状地上に立地し、標高は152～154mである。現況は主に水田となっている。

今回の試掘トレンチは事業予定地内に全面的に入れ、計42方所設定した。

およそその基本層序は次のとおりである。

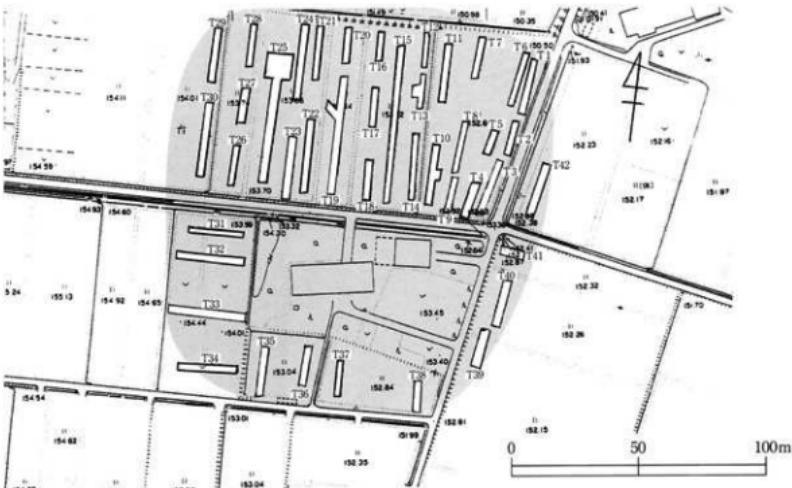
第1層、耕作土（水田土、床土）、層厚20～40cm、第2層、盛土、層厚0～70cm、第3層、黒～黒褐色泥炭、層厚

0～100cmで調査地北側の旧沢跡部分で確認、第4層、暗褐色シルト、層厚0～20cm、自然堆積層、第5層、黄褐色土、遺構検出面、層厚不明である。第6層、明黄褐色土、層厚不明となる。

その結果、陥し穴状遺構7基、土坑1基、円形周溝1基が発見された。T33では土坑1基が発見された。平面形は楕円形で、規模は1.8×0.8mである。中央部では焼土が見られる。陥し穴状遺構はT3、10、13、19、25、32で発見されている。埋土は黒色シルトを主体としている。遺構の上部は削平を受けていると考えられた。配置に特に規則性は見られないが、北側の沢部分を避けていると推測できた。円形周溝はT25で発見され、溝は幅0.4m、直径2.5mの大きさである。埋土の様相はT33の土坑と類似している。遺構密度は高くないが、遺跡のはば全域に広がることが確認された。なお、今回の調査で、遺物は全く出土しなかった。



第40図 台II遺跡位置図



第41図 台II遺跡調査区位置図

#### 4 国営いさわ南部農地整備事業

稔橋遺跡（N E 34-2288）

所在地：胆沢町小山地内

事業者：東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所

いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成12年11月16日

遺跡は、奥羽山脈から東に向かって伸びるなだらかな扇状地上に立地し、標高は124～143mである。現況は主に水田となっている。遺跡の中央部を原川水路が流れている。

今回の試掘トレンチは事業予定地内に全面的に入れ、計37カ所設定した。

おおよその基本層序は次のとおりである。

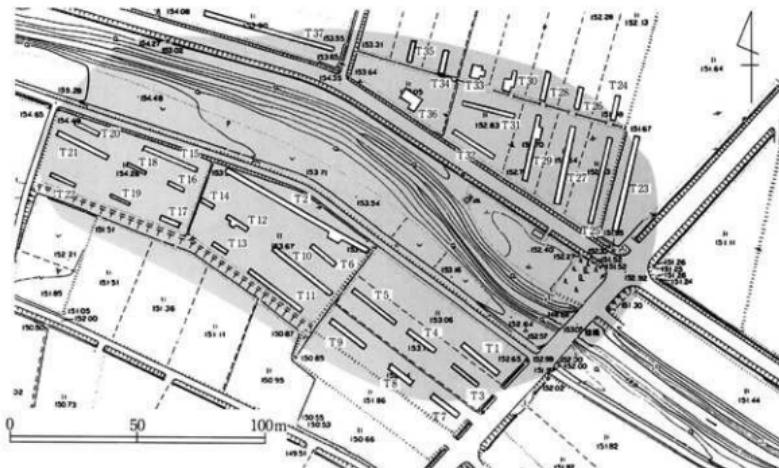
第1層、耕作土（水田土、床土）、層厚20～40cm、第2層、盛土、層厚0～70cm、第3層、黒、黒褐色泥炭、層厚0～100cmで調査地南側の旧沢跡部分で確認、第4層、暗褐色シルト、層厚0～20cm、自然堆積層、第5層、黄褐色土、遺構検出面、層厚不明である。第6層、明黄褐色土、層厚不明となる。

その結果、陥し穴状遺構3基、土坑4基が発見された。T 1では甌を伴う土坑1基、T 2では土坑、T 12、23、30では陥穴、T 33、35では土坑が発見されている。土坑は楕円形を基調とするものが多い。陥し穴状遺構は長さ3.5m、幅0.35mで、埋土は黒色シルトを主体としている。いずれの遺構も上部が削平を受けているものと推定された。

遺物は、T 1から石器1点、T 2、19から縄文時代晚期の土器が出土した。また、T 1、4、5の道路より北側の水路沿いの畑で、石窓を表探した。



第42図 稔橋遺跡位置図



## 5 国営いさわ南部農地整備事業

小田切遺跡（NE34-2397）

所在地；胆沢町小山地内

事業者；東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所

いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成12年11月6日～9日（4日間）

遺跡は、奥羽山脈から東に向かって伸びるなだらかな丘陵上に立地し、標高は124～143mである。現況は主に水田となっており、既に地形改変を受けている。

今回の試掘トレンチは事業予定地内の水路、道路予定地、削平される予定箇所を中心に全面的に入れ、計74カ所設定した。

およそその基本層序は次のとおりである（T5）。第1層、耕作土、層厚18cm、第2層、黒褐色土、層厚12cm、

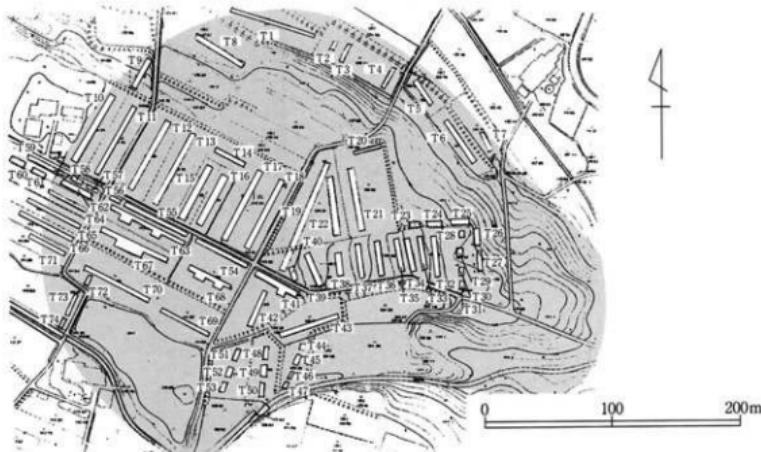
第3層、茶褐色土、層厚10cm、第4層、黒褐色土、層厚28cm、第5層、黄褐色粘土、層厚16cm以上となる。

その結果、陥し穴状遺構3基、土坑1基、焼土1基が発見された。遺物の出土は全くなかった。トレント35、38、69では陥し穴状遺構がそれぞれ1基づつ発見された。T35の陥し穴状遺構は長さ3.1m、幅0.4m、T38の陥し穴状遺構は長さ1.2m、幅0.3m、T69の陥し穴状遺構は長さ2m、幅0.6mの大きさである。T63では焼土が1基発見された。T69では土坑1基が発見された。規模は1.6×0.65mで、橢円形を基調とする。

のことから、この遺跡付近は、縄文時代に狩猟の場、生活の場として利用されたことが判明した。住居跡が発見されなかったこと、遺物の出土がないことから、当時の基幹集落ではないと推定できる。當時滞在して生活するような利用ではなく、比較的の利用密度が低い遺構が残された遺跡と判断できた。既に行われた開田によって遺構が破壊された可能性も高く、今回の試掘調査範囲外に、多数の陥し穴遺構等の遺構が存在するものと考えられる。



第44図 小田切遺跡位置図



第45図 小田切遺跡調査区位置図

## 6 国営いさわ南部農地整備事業関連調査

### 五反町遺跡 (N E 44-0117)

所在地：胆沢郡胆沢町小山地内

事業者：東北農政局いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日：平成12年11月13日～15日（3日間）

本遺跡は、胆沢町役場の南東約6km、胆沢川によって形成された胆沢扇状地の段丘上に立地する。現況は、水田・宅地・牧草地等となっている。標高は165m～158mを測り、町道の北側が平坦面、南側は沢に向かって緩やかに傾斜する面となっている。今回の試掘調査では、国営いさわ南部農地整備事業に伴うもので、この他2遺跡にも同時に試掘調査を行っている。ここ五反町遺跡には全部で36本の試掘トレンチを設定した。

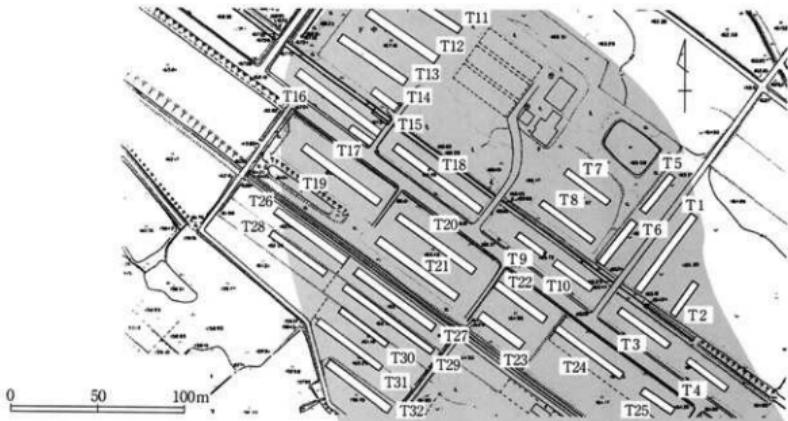
その結果、ほとんどのトレンチにおいて、水田耕作土層の下が直接黄褐色ローム層（地山）となる状況であり、調査区の大半が開田時の地形変化を受けていることが明らかであった。基本層序は、以下のとおりである。第1層：茶褐色砂混シルト（耕作土）、第2層：暗褐色シルト（漸移層）、第3層：黄褐色ローム質シルト（地山）

但し、T15～T18の範囲については旧地形を残しており、遺構・遺物を確認している。T16からは縄文時代の竪穴住居跡1棟、陥し穴状遺構2基が検出された。（検出面、地表から30cm）T15・T17からも住居跡が各1棟、T18から陥し穴状遺構1基が検出された。この範囲からは表土及び遺構検出面から縄文時代中期の土器片が多数出土した。

一方、町道の南側、斜面部分のT27からは、黒褐色土の厚い堆積とともに焼土が1基検出されており（検出面は地表から40cm）、これについては竪穴住居跡の地床炉が残存したものと考えられるが、やはり上部は削平されているものと考えられる。（平成13年度生涯学習文化課本調査予定）



第46図 五反町遺跡位置図



第47図 五反町遺跡調査区位置図

## 7 一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業

仁昌寺遺跡（J F 30-2804）

所在地：二戸郡一戸町大字小鳥谷字仁昌寺33-2外

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成12年6月14日

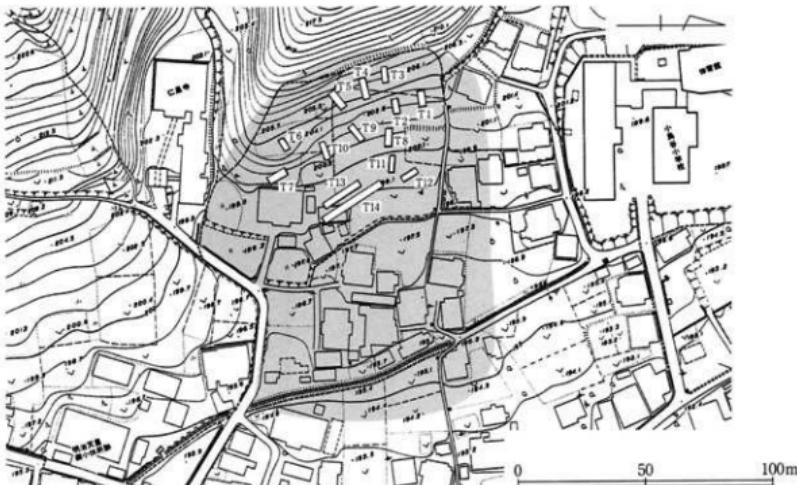
遺跡は、馬淵川と小繁川の合流点付近に広がる平地に張り出す丘陵上及び緩斜面に立地する。現況は宅地と畠地で、標高は197~210mを測る。遺跡内には段状の畠地が顕著に見られることから、若干の地形改変が行われていると思われる。調査は、幅1.5m程のトレンチを14箇所入れた（T 1 ~ T 14）。

遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土・盛土）層厚15~40cm、第2層：黒褐色土（遺物包含層）層厚20~50cm、局所的に同層上位～中位に十和田a火山灰が見られる、第3層：暗褐色土層厚20~30cm、第4層：黄褐色土（地山）層厚不明、八戸火山灰相当である。

その結果、調査地中央部に入れたT 7・T 11では縄文～弥生時代の堅穴住居跡と思われるプランを検出、T 6・T 14では古代の住居跡と思われるプランを検出（十和田a火山灰の広がりにより判断、土器等は出土していない）、T 9では柱穴状の小土坑を検出した。なお、T 14は十和田a火山灰が10m以上の広範囲に層厚10cm程で水平気味に堆積する（なんらかの造構あるいは埋没沢か）。調査地北端に入れたT 12は、現地表面から地山まで2m以上下がることから埋没沢が存在する可能性が高い。斜面上方域に入れたT 3・T 4・T 5は、表土直下で地山が露出することから、斜面上方一帯は旧地形が削平を受けていると判断される。遺物は、T 11で弥生土器、T 13・T 14で縄文土器が第2層黒褐色土より出土した。



第48図 仁昌寺遺跡位置図



第49図 仁昌寺遺跡調査区位置図

## 8 一般国道4号小鳥谷バイパス建設事業

仁昌寺Ⅲ遺跡 (J F 30-2094)

所在地：二戸郡一戸町大字小鳥谷字仁昌寺53-6 外

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査期日：平成12年6月15日

遺跡は、馬淵川と小鰺川の合流点付近に広がる平地に張り出す丘陵裾緩斜面に立地している。現況は畑地と果樹園で、標高は207~221mを測る。一部人工的に切り出され、段丘状を呈する部分もある。調査は、幅1.5m程度のトレンチを17箇所入れた (T1~T17)。

遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土・盛土）層厚15~40cm、第2層：黒褐色土（遺物包含層）層厚20~50cm、第3層：暗褐色土層厚20~30cm、局所的に中摺火

山灰及び南部浮石粒が微量混入する、第4層：褐色土（漸移層）層厚10cm、第5層：黄褐色土（地山）層厚不明、八戸火山灰相当である。

その結果、T4で土坑3基が第5層地山で検出され、T5で堅穴住居跡？2棟、T8で堅穴住居跡の柱穴である可能性がある柱穴状小土坑2基が検出された。また、T9からは旧沢跡が検出された（深さは約190cm）。T7・T15・T16は、表土直下で地山が露出することから、旧地形が削平を受けていると判断される。遺物は、T4・T5・T12・T13で縄文土器が2層黒褐色土より、T14で風倒木痕から剥片石器1点が出土した。



第50図 仁昌寺Ⅲ遺跡位置図



第51図 仁昌寺Ⅲ遺跡調査区位置図

## 9 一般国道45号普代バイパス建設事業関連調査

力持遺跡（J G92-0137）

所在地：下閉伊郡普代村第16地割字天拝坂地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

三陸国道工事事務所

調査日：平成12年6月26日・11月29日

力持遺跡は、三陸鉄道北リアス線白井海岸駅の南約1kmに位置し、力持川左岸に形成された河岸段丘上に立地している。標高は60m前後を測り、現況は荒れ地・畠地である。

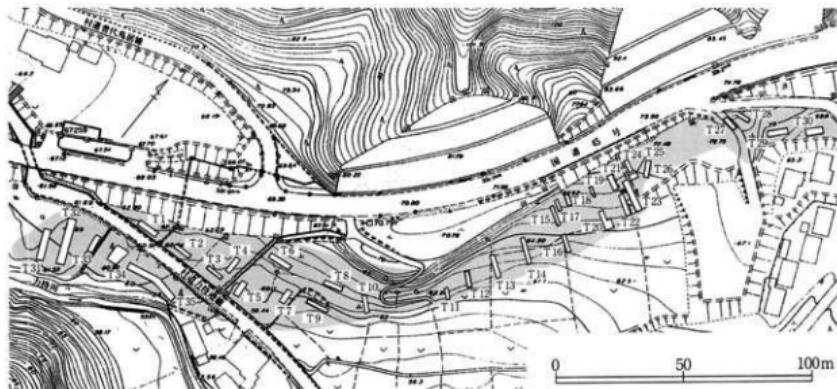
調査では、事業予定区域内の任意の地点に幅2m、長さ3~8mのトレーナーを35本設定した（T1~T35）。T1~T30は11月に調査したもので、残りのT31~T35は6月に調査したものである。

調査の結果、6月に調査した調査区南側の地点では、T34・35の黒褐色土中から縄文土器（後～晩期）が出土し、遺構あるいは遺物包含層が存在するものと推定される。また、T33では土坑と思われる遺構が検出されている。T31・32については、表土直下に地山の褐色砂層があることから、遺物包含層は既に削平されているものと考えられる。11月に試掘調査を行った地点では、調査区北側のT27~30では削平を受けており、遺構・遺物とも確認されなかった。なお、T26とT27の間の地点は4mを超える盛土がなされており、T26で遺物が出土しなかったことと国道に近い部分の表土直下に地山が露出している部分があることから遺構の存在する可能性は低いと思われる。調査区南側のT1・2では厚い黒褐色土中から縄文土器が出土したが、ガラス等のゴミも含まれており、攪乱を受けている可能性が高い。T5・6・21・22では、住居跡と思われる暗褐色土の広がりが確認されている。特にT6では2基の焼土がほぼ同じ高さの面で検出されており、縄文時代の大型の住居跡の可能性もある。T7・11・16では、黒褐色土から多量の土器が出土した。特にT11では表土直下で多数の土器が出土しており、住居跡の埋土あるいは土器の捨て場の可能性が高い。

（平成13年度本調査予定）



第52図 力持遺跡位置図



第53図 力持遺跡調査区位置図

## 10 一般国道340号道路改築事業

永田Ⅲ遺跡（L E29-0161）

所在地：新里村大字刈屋地内

事業者：宮古地方振興局土木部

調査期日：平成12年12月18日～19日（2日間）

遺跡は、刈屋川右岸に形成された東向きの河岸段丘上に立地し、標高は160m程度である。現況は水田、荒れ地となっている。

事業予定地内で遺跡は大きくA、Bの2地区に分けることが可能である。

B地区は、丘陵と斜面からなり、現況は山林、畠となっている。試掘調査の結果、遺構、遺物とも発見されなかつた。B区はA区の南東に位置する。

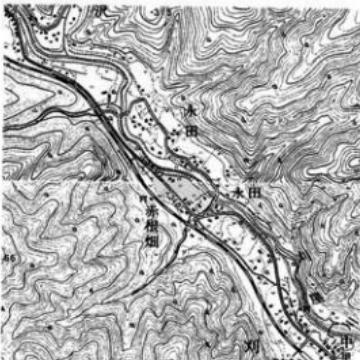
B地区的基本層位は次のようになっている。第1層、表土、層厚15～30cm、第2層、黄褐色土、0～10cm、第3層、砂礫層、層厚不明である。

A地区的基本層位は次のようになっている。第1層、表土、層厚20cm、第2層、暗褐色シルト質土、層厚30～40cm、第3層、褐色シルト質土、層厚0～25cm、遺物包含層であるが包含量は少ない、縄文時代晚期に属する、第4層、黒褐色砂質シルト土、層厚0～10cm、第5層、褐色砂質土、層厚0～15cm、第6層、黒褐色砂質土、0～10cm、第7層、緑灰色砂質土、層厚不明となる。遺構検出面は第3層上面、第7層上面の2面が確認されている。

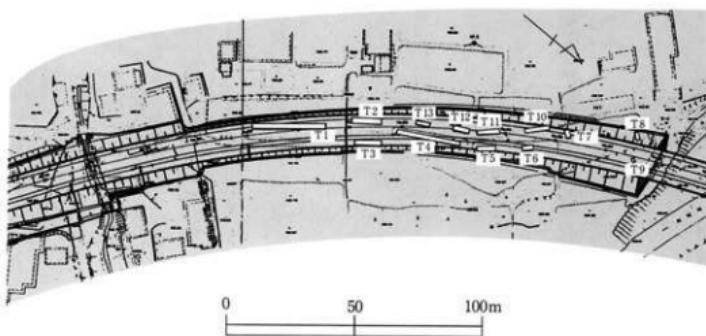
A地区では、T2、4、12、で焼土、T2、3で土坑、T11で溝跡、T4、13において炭化物集中区が発見されている。

焼土は直径0.3cm程度のものが多い。土坑は直径0.6～0.7mで円形プランを基調とする。第3、7層上面で確認されている。溝状遺構は幅0.5mで、南東方向の調査区外に延びる見込みである。炭化物集中区は第3層上面で確認された。遺物はT2、4、7、12で出土している。いずれも縄文晚期のものである。

以上の結果から、少なくとも遺構確認面が2面あり、一つは縄文時代晚期、もう一つは晩期以前と判断できる。



第54図 永田Ⅲ遺跡位置図



第55図 永田Ⅲ遺跡調査区位置図

## 11 胆沢ダム建設事業関連調査

市野々遺跡（N E 22-2116）

所在地；胆沢郡胆沢町若柳字市野々地内

事業者；国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所

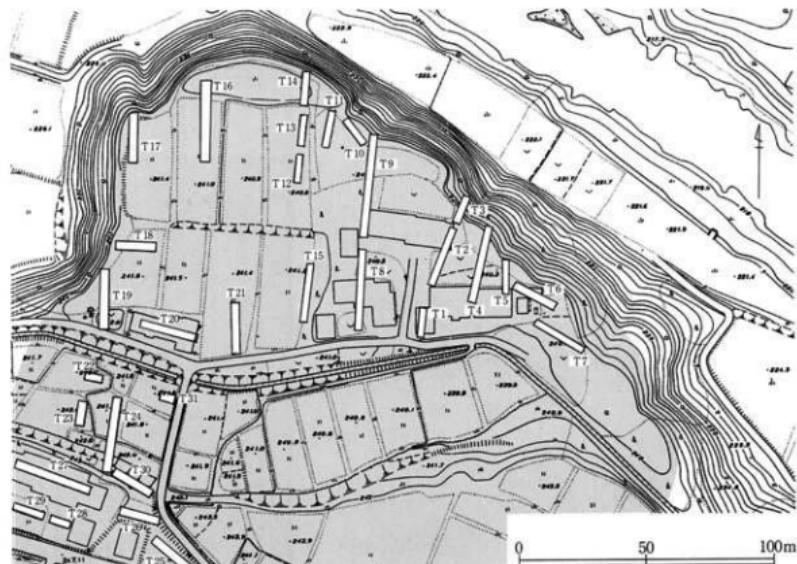
調査期日；平成12年9月5日、

12月25日～12月26日（3日間）

遺跡は胆沢川右岸の河岸段丘の平坦面に位置し、調査地の標高は240～247mである。現況は宅地・休耕田・畑地である。事業予定地の全城に31本の試掘トレチを設定した（T 1～31）。調査地南側については段丘基盤層の砂礫層が露出していた。第1回目の調査では、事業予定地の東半部の調査を行った。検出した土坑類は径1～2mの円形のものが主体である。柱穴状土坑については、各トレチから確認しており、径は40cm前後のものが主体であったが、径が60cmを超えるものもいくらかあった。柱痕跡は明確ではなかったが、埋土に灰白色火山灰ブロックと土器片が含まれていた。これらについては、平安時代の掘立柱建物跡の柱穴群と考えられる。第2回目は西半部を対象に行い、T 16～19で縄文時代の竪穴住居跡と柱穴群、陥し穴状造構を検出した。T 16～17で確認した竪穴住居跡の埋土は、黄褐色シルトに暗褐色土ブロックと炭化物粒を少量含むものであり、縄文時代早期の土器片が伴っていた。一方、T 18・19の竪穴住居跡は晩期の土器片が伴っていた。低湿地部分では、1m近い黒褐色～青灰色粘土層があった。国道沿いの標高の高い部分に設定したT 25～31では、耕作土や盛土層の直下が地山ローム面となっていたり、宅地造成や開田時の削平が推測された。（平成13年度本発掘調査予定）



第56図 市野々遺跡位置図



第57図 市野々遺跡調査区位置図

## 12 東北新幹線建設事業

### 秋浦 I 遺跡

所在地：岩手町大字江刈第6地割字入口地内

事業者：日本鉄道建設公団盛岡支社

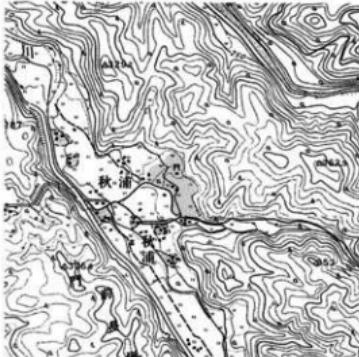
調査期日：平成12年4月13日

遺跡のある岩手町川口地区は、岩手町の南端で玉山村との境近くに位置している。古館川右岸の沖積地に接する南斜面に立地している。現況は畑となっているが、遺跡の中央部はすでに、新幹線用地となり、工事が進んでいる。

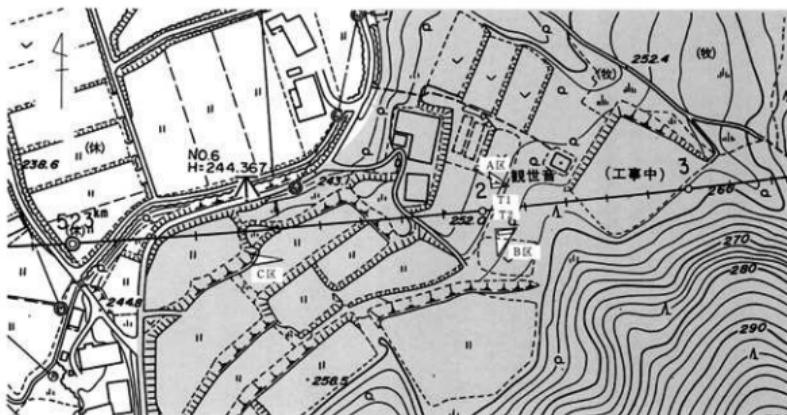
今回の試掘は、新たに工事用地となった追加箇所内の埋蔵文化財の有無を確認するものである。予定地内に3ヵ所のトレンチを設定した。追加箇所はA・B・C区に分けられる。A・B区はC区より標高が高い場所となっており、畑として利用されていた。A・B区にトレンチを各1本づつ入れ、遺構の有無を確認した。その結果、A区では、過去の水田造成時に削平を受け、遺構、遺物は確認できなかった。B区は第1層、表土、層厚25cm、第2層、茶褐色土、層厚35cm、第3層、黒褐色土、層厚45cmの層序が確認できた。第3層直下から直径55cmの焼土1基が確認された。遺物は縄文土器が数点出土している。

C区は現況が水田である。隣接する箇所が以前、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより発掘調査され、多量の遺構、遺物が出土しており、その結果から試掘調査を実施せず本発掘調査することにした。この時の調査では、縄文時代、前期、中期を中心とする夥しい量の遺物が出土した。土器、石器、土製品、石製品等豊富な内容の遺物が確認されている。

調査の結果をまとめると、A区は調査なし、B、C区は発掘調査が必要な範囲とすることができる。この調査は岩手町教育委員会が実施することとなった。



第58図 秋浦 I 遺跡位置図



第59図 秋浦 I 遺跡調査区位置図

### 13 北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業

業

河崎の柵擬定地遺跡（OE9-1099）

所在地：川崎村字門崎地内

事業者：建設省東北地方建設局岩手工事事務所

調査日：平成12年12月8日

遺跡は、北上川左岸の河岸段丘縁に立地し、現況は畑・住宅などで、標高は約15～19mを測る。調査は、事業予定地部分に長さ6～30m、幅約1.8mで15本のトレンチを設定した。

遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土等）層厚20～50cm、第2層：褐色砂質土層厚50～170cm以上、局所的に十和田a火山灰をブロック状に含む、第3層：暗褐色砂質シルト層厚0～70cm、局所的に土器・炭化物を含む、第4層：褐色砂質土層厚不明、2層に類似した土質である。

調査の結果、T9で溝跡1条（十和田a入る）を、T12で竪穴住居跡1棟と土坑1基を、T13で溝跡1条（十和田a入る）を検出した。遺物は、T4・T5から縄文土器片（晩期あるいは弥生土器）を、T7から須恵器片を、T12の土坑からは土師器が出土した。なお、T9付近の東側の畠から白磁四耳壺と思われる破片を表採した。T1～3・T8・T11の西部（北上川側で斜面下方となる）からは、遺構・遺物とともに検出されなかった。なお、県道を挟む東側の飛び地に入れたT14～15からは、遺構・遺物とともに検出されなかった。

上述のことから、北上川に近くなるにつれて遺構・遺物が希薄になり（標高約17mより下）、県道に近くなるにつれて遺構及び遺物包含層が残存する（標高約18mより上）ものと推定される。



第60図 河崎の柵擬定地遺跡位置図



第61図 河崎の柵擬定地遺跡調査区位置図

#### 14 主要地方道盛岡和賀線道路改築事業関連調査

飯岡林崎Ⅱ遺跡 (LE26-1005)

調査期日；平成12年3月8日、4月12日、27日、

5月25日（4日間）

事業者；盛岡地方振興局土木部

所在地；盛岡市下飯岡字新田

遺跡は、盛岡南インターの北西約4kmのところに位置し、零石川によって形成された沖積平野上の微高地に立地する。標高は125m前後を測り、現況は、水田である。今回の調査は、遺跡内を南北に走る主要地方道盛岡和賀線道路改築事業のために実施した。なお、今回の調査区に隣接する地域では数年前に県営は場整備事業が実施されている。この時の確認調査では、須恵器、土師器、円面鏡などの平安時代の遺物と堅穴住居跡などが確認されており、現地は盛土保存されている。そのため、現況では、旧地形をはっきりと確認することはできない。

基本層序は1層：耕作土（40~50cm）、2層：暗褐色土（20~25cm）、3層：黄褐色シルト土（地山）であるが、位置によって層厚等が著しく異なる。

調査の結果、T1、T2、T9、T28において堅穴住居跡が6棟、T4、T27、T28において溝跡が3条、T2、T5、T9、T13、T14、T23、T24、T26、T28において柱穴が10基以上、T6、T9において土坑3基がそれぞれ検出された。T6の土坑とT9の堅穴住居跡、T26の方形状の柱穴、T28の堅穴住居跡、土坑、溝からは土師器片・須恵器片が伴出しており、平安時代頃の造構と推定される。なお、T28の溝跡については、黒色土の下層にある砂層からも土師器等の遺物が確認されている。

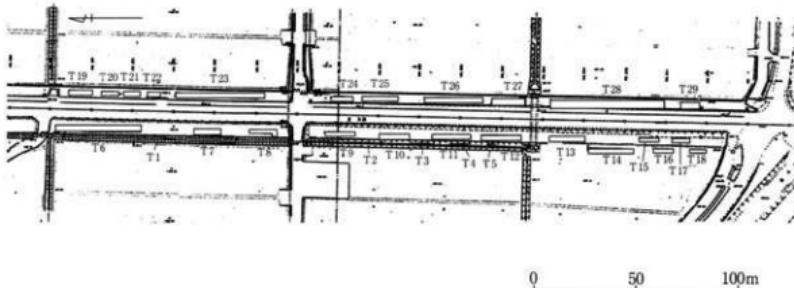
この他に、T6、T14、T23でも土師器・須恵器の出土が確認されている。

T15~T22については、T14までと比べて著しく黒色土が深くしており、かつ青灰色土も確認されていることから、旧河道あるいは湿地状を呈していた可能性が高いと思われる。

T29についても、造構確認面の土層堆積が不安定であること、黒色土の下層に灰色粘土層があることなどから、旧河川の影響を受けているものと思われる。（平成13年度本調査予定）



第62図 飯岡林崎Ⅱ遺跡位置図



第63図 飯岡林崎Ⅱ遺跡調査区位置図

## 15 主要地方道盛岡和賀線道路改築事業関連調査

新井田Ⅱ遺跡（L E 26-2013）

所在地；盛岡市羽場14地割～13地割

事業者；盛岡地方振興局土木部

調査日；平成12年6月30日

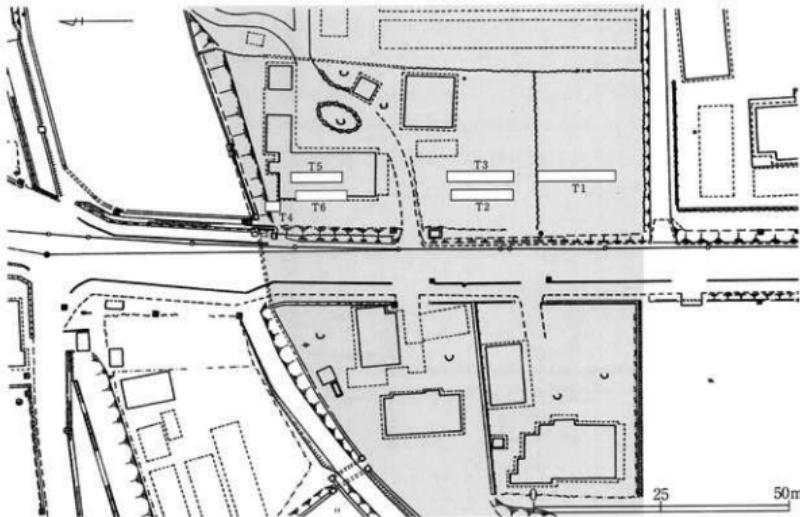
本遺跡は、JH東北自動車道盛岡南インターチェンジの北西約1.2km、河岸段丘の縁辺部に立地する。標高は130m前後を測り、現況は宅地・荒れ地・畠地である。この調査は、主要地方道盛岡～和賀線改築事業のために実施したもので、飯岡林崎Ⅱ遺跡の調査とは同一事業に係るものである。

調査の結果、T5・T6で弥生土器の出土が確認されている。基本層序は以下のとおり。第1層：表土20～30cm、第2層：黒褐色土（遺物包含層）0～40cm、第3層：暗褐色土10～20cm、第4層：黄褐色土（地山、水が湧きやすい）。試掘トレッチは計6本を設定している。弥生土器が確認されたのは、2層の黒褐色土中からである。遺物に伴う造構はこの調査では確認できなかったが、少なくとも遺物包含層が存在すると考えられる。また、T5では柱穴も確認されており、その形状は円形を呈し、直径30cm前後を測る。遺物は確認されていないので具体的な時期については不明であるが、埋土の状況から弥生時代の造構の可能性も考えられる。

調査区南側のT1～T3については、遺物包含層であるとみられる黒褐色土がすでに削平されているか、わずかにしか残っておらず、先述の遺物包含層はすでに削平されているものと考えられる。また、造構についても明確なものは確認できなかった。（平成13年度本調査予定）



第64図 新井田Ⅱ遺跡位置図



第65図 新井田Ⅱ遺跡調査区位置図

## 16 地方特定道路整備事業関連調査

### 新規遺跡（L E42-2052）

所在地：零石町南畠第14地割～第12地割地内

事業者：盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成12年6月12日

遺跡（L E42-2052）はJR東日本田沢湖線零石駅の南南西約10.5kmに位置し、南畠川が形成した段丘の西向き緩斜面に立地している。遺跡の標高は255m前後を測り、現況は水田・畑地である。

今回の調査は地方特定道路整備事業に伴うもので、県道盛岡横手線を拡幅する部分について試掘を行った。

調査では、道路の西側は拡幅部分が道路の法面にあたり、傾斜が急で狭いためトレンチを入れることが困難なことから、道路東側の拡幅部分である畑地と水田に幅90cm、長さ5mほどのトレンチを11本設定した（T1～T11）。

調査区の基本土層は、1層が15～40cmの表土、2層が15～25cmの黒褐色土、3層が10cm前後の暗褐色土、4層が地山の黄褐色土となる。

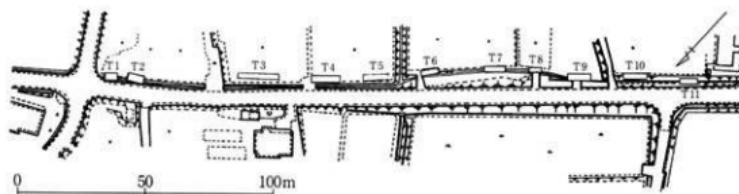
調査の結果、水田より一段高い畑地に入れたT1・T2の3層下位で竪穴住居跡の埋土と思われる黒褐色土の広がりを検出した。T1の黒褐色土からは縄文時代後期の土器片が数点出土しており、竪穴住居跡もこの時期のものと推定される。畑に隣接する水田部分に入れたT3の3層下位から地山の4層上位では、土坑の埋土と思われる黒褐色土の広がりを2基検出した。いずれも円形を呈するものと推定される。南側の水田部分に入れたT4～T11では、水田の床土の下が疊を多量に含む地山の黄褐色土になっており、遺物は出土せず、構造も確認されなかった。

なお、地元地権者からの話によると、T1・T2を入れた畑及び道路を挟んだ西側の宅地付近の畑では、かつて相当量の土器が出土していたこと、T4からT11を入れた水田付近はかつて湿地帯で土器は出土していないことが確認された。このことは今回の試掘調査の結果と一致している。

以上のことから、調査区の北端付近は旧地形が比較的よく残っており、構造・遺物の残存する可能性が高い。（平成13年度本調査予定）



第66図 L E42-2052位置図



第67図 L E42-2052調査区位置図

## 17 地方特定道路整備事業関連調査

早坂平遺跡（J F46-0039）

所在地：九戸郡山形村大字川井地内

事業者：久慈地方振興局土木部

調査期日：平成12年12月6日

本遺跡は、山形村役場から北東へ約1.7km、川井川に向かって舌状に張り出す丘陵の裾部に立地し、標高は230m～233mを測る。現況は北向き斜面を利用した畑地となっている。

今回の調査は、地方特定道路整備事業に伴うもので、南北に伸びる予定の道路部分に幅1m×長さ10～20mのトレンチを計4本任意に入れた。

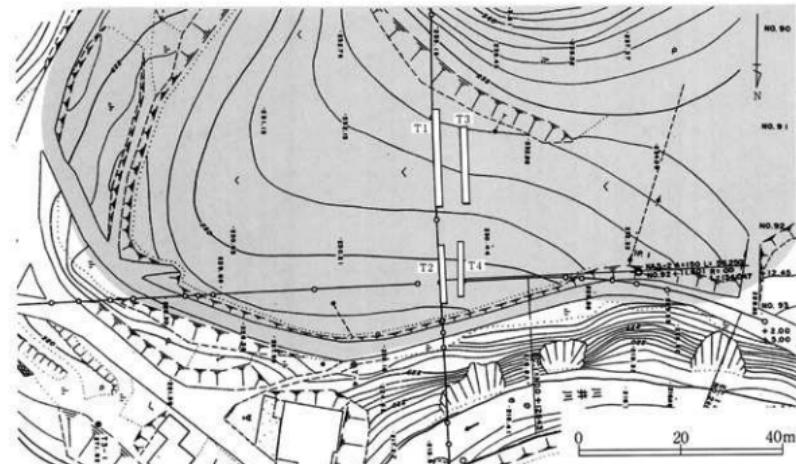
その結果、土層の堆積は山側ほど表土が浅くなっている、川に向かって削平された跡が見受けられた。基本層序は次のとおりである。第1層：表土5～15cm、第2層：暗褐色土15cm、第3層：黄褐色土（地山）層厚不明。

T1からは竪穴住居跡と思われる暗褐色の埋土が検出され、住居壁の立ち上がりを少なくとも3棟分確認した。遺物は、縄文中期の土器が多数出土した。T2の2層からも同様に土器が多数出土しているが、斜面の下位に降りるにつれて、その密度は低くなるようである。T3からも竪穴住居跡と思われる遺構が1棟分検出された。住居跡の検出面は、いづれも地表から15cmのところであった。

なお、この遺跡については、旧石器も過去に出土していることから、今回は検出されなかったが、本調査ではその可能性もあると思われる。（平成13年度本調査予定）



第68図 早坂平遺跡位置図



第69図 早坂平遺跡調査区位置図

## 18 緊急地方道路整備事業

### 浅石遺跡

所在地：二戸市似鳥字浅石地内

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成12年9月13日

遺跡は、二戸市の中心部から南西部に位置する似鳥地区に所在する。背後の丘陵を越えると一戸町に接する地区である。

遺跡は、安比川右岸の河岸段丘面に立地している。標高は140m前後で、安比川に沿って造られた水田より一段高い場所にある。現況は畠、荒れ地となっており、周囲には民家が点在する。

本年度、財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

により発掘調査が行われているが、造構が調査区外の事業予定地に延びる可能性が出たため、試掘調査を実施した。

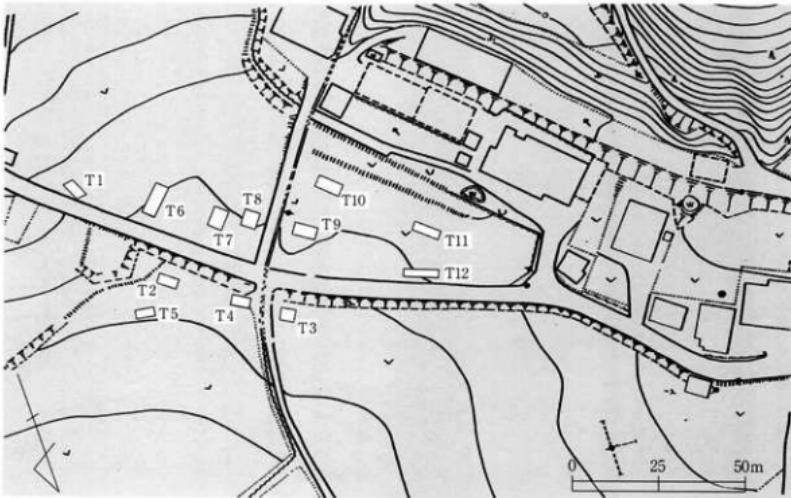
T1から10の基本層位は次のとおりとなる。第1層、表土、層厚20cm、第2層、茶褐色土、層厚0~50cm、第3層、黒褐色土、層厚20~40cm、第4層、黄褐色土、層厚不明となる。

T11、12の基本層位は次のとおりとなる。第1層、表土、層厚60cm、第2層、黒褐色土、層厚40cm、第3層、火山灰ブロックが混じる黒褐色土、層厚20cm、第4層、灰白色火山灰、20cm以上となっている。

試掘の結果、T11、12で造構埋土の可能性がある火山灰層が発見された。T1、5ではピットが2基発見された。T2、4では、縄文時代後期の遺物包含層が確認された。



第70図 浅石遺跡位置図



第71図 浅石遺跡調査区位置図

## 19 緊急地方道路整備事業（交付金A）関連調査

黒岩宿遺跡（ME56-1388）

調査期日：平成12年9月25日

事業者：北上地方振興局土木部

所在地：北上市黒岩地内

遺跡は、北上駅の北東約2.5kmのところに位置し、北上川左岸の沖積地上に形成された自然堤防上に立地する。標高は58m前後を測り、現況は、畑地、水田、果樹園、荒れ地などである。今回の調査は、県道花巻北上線における緊急地方道路整備事業のために実施した。事業予定範囲内に16本のトレーニングを設定した。なお、果樹園部分については、リンゴの収穫前であることから、トレーニングは設定しなかった。

基本層序は、1層：耕作土（25cm前後）、2層：暗褐色粘土質シルト土（10cm前後）、3層：灰白色火山灰ブロックを含む暗褐色粘土質シルト土（0~10cm）、4層：炭化物粒を含んだ褐色粘質土（0~10cm）、5層：褐色シルト質土（地山）となっている。

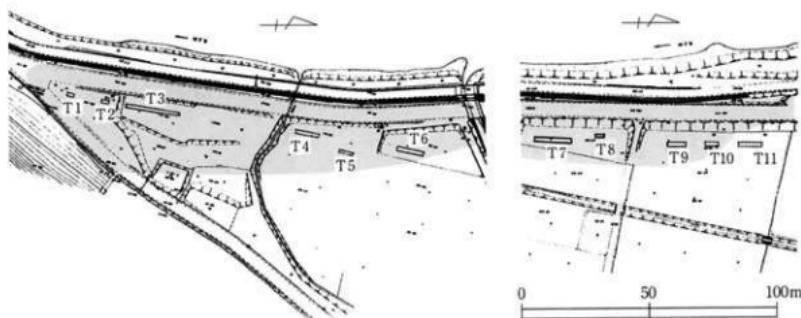
調査の結果、T4~T6及びT9で柱穴及び土坑が多数（20基以上）確認されている。うち、T4については、柱穴が柵列状に4列分確認されている。本遺構が確認されたところでは、3層は確認することはできなかったが、灰白色的火山灰がブロック状に確認されている部分があり、少なくともT9付近までは、遺構が存在することが予想される。なお、共伴する遺物が確認されなかつたために時期の特定はできないが、今回の調査と北上市教育委員会の調査成果等をあわせて考えると、本遺跡は、少なくとも、平安時代及び中世前半期の遺跡になるものと推定される。

遺物は、T11で流れ込みと見られる縄文土器の小破片が1点確認されている。

なお、今回の試掘調査の結果、本遺跡の遺跡範囲が、既周知範囲よりも北上川沿いに南側へ拡大することが明らかになった。（平成13年度本調査予定）



第72図 黒岩宿遺跡位置図



第73図 黒岩宿遺跡調査区位置図

## 20 緊急地方道整備事業（交付金A）

### 新規遺跡（L.F.77-0265）

所在地：下関伊郡川井村江繁地内

事業者：宮古地方振興局土木部

調査期日：平成12年10月27日

遺跡（L F 77-0265）はJR東日本山田線陸中川井駅の南約7kmに位置し、閉伊川の支流である薬師川に沿って延びる丘陵尾根根部に立地している。遺跡の標高は295m前後を測り、現況は原野・畠地である。

本遺跡の西側には中世の城館跡である榎荷森館跡が、北側の丘陵尾根上部には新規遺跡 L F 77-0245が所在する。

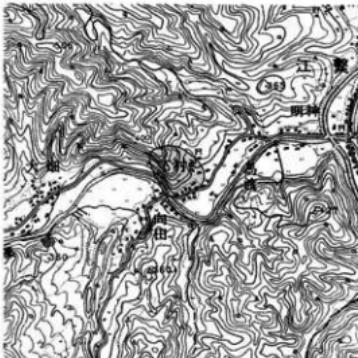
今回の調査は緊急地方道整備事業に伴うもので、県道紫波川井線を改築する部分について試掘を行った。

調査では、道路から今回の調査区域までの畠が作付け中で重機が進入できなかつたため、人力によつて幅1m、長さ2~5mのトレンチを6本設定した。(T1~T6)

調査区の基本土層はどのトレンチでもほぼ同じで、10~15cmの表土の下は小角礫を含む層厚25cm前後の暗褐色土が堆積している。その下の層は暗褐色のシルトとなるが、人力での掘り下げのため層厚を確認することはできなかった。

検出された遺構としては、調査区中央部付近の畠地に入れたT4で、トレーナー西端の、表土から約40cmの深さから焼土を1基検出した。検出された焼土は、1辺が30cmほどの不整形を呈するものである。しっかりと焼成を受けており、現地性のものと思われる。

遺物としては、焼土のはば中央部付近で鉄滓が1点出土しており、この遺構に伴う遺物と考えられる。ただし、他の遺物が出土していないことから、焼土については時代は特定できない。他のトレンチからは遺物



第74図 LE77-0265遺跡位置図



第75図 LE77-0265遺跡調査区位置図

## 21 一般県道東和花巻温泉線緊急地方道路整備事業関連

### 調査

遊子II遺跡（ME 15-1368）

所在地：花巻市西宮野目地内

事業者：花巻地方振興局土木部

調査期日：平成12年5月31日、

6月28日（2日間）

遺跡は、東流する瀬川左岸の沖積平野の微高地に立地する。標高88m前後の平坦地であり、現況は主に水田で周辺に宅地が点在した。試掘調査は未買収地の関係で2回に分けて実施した。1回目の調査では、県道建設予定地の水田面を中心にして12本の試掘トレンチを設定した（T1～T12）。耕作土下層の黄褐色ローム層（地山）が遺構検出面となつたが、場所によっては耕作土と地山面との間に黒色粘質土層が入る。地山のローム層の下層は、厚い砂疊層となっていた。

調査地の南西側に設定したT8で、柱穴8個、T9で炭窯状の遺構1基、土坑1基、柱穴12個を検出した。また、遺構を検出したT8・9に隣接のT10からも、豊穴状の遺構1基、土坑2基、柱穴2個を検出した。各トレンチで確認した柱穴は、径が20～30cm程のものが主体で、埋土は炭化物粒を含む黒色土であった。周辺から土器類の小片が少量出土しており、古代の掘立柱建物を構成する柱穴群の可能性がある。炭窯状の遺構に関しては、一部を確認しただけで全体像は不明であるが、底面に炭化物層のある細長い形状が推測できる。確認された土坑については、埋土が黒色シルト（炭化物粒を含む）のものと、褐色砂質土のものの2種がある。T10の耕作土下の黒色土から縄文土器片（縄文時代中期の土器片）が少量採取されたことから、縄文時代の遺構が存在する可能性が推測できる。

一方、T1～7、T11～12では、黄褐色ローム層が希薄で、旧河道に伴う砂疊層が露出する部分と、地山を切る流路が点在しており、遺構・遺物は確認できなかった。

2回目の試掘調査では、前回の西側部分の調査を行った。T8・9に近接するトレンチで、土坑1基、柱穴10基を確認した。柱穴はいずれも小規模なものであり、出土遺物もなかったが、位置的にみて平安時代の遺構の可能性がある。それよりも西側のトレンチでは、表土下層が旧河道に伴う砂疊層となり、遺構・遺物は確認されなかった。（平成13年度本発掘調査予定）



第76図 遊子II遺跡位置図



第77図 遊子II遺跡調査区位置図

## 22 二級河川雪谷川災害復旧事業関連調査

尾田(2)遺跡 (I F 73-1023)

所在地：九戸郡軽米町大字軽米字尾田地内

事業者：二戸地方振興局土木部

調査期日：平成12年9月18日

遺跡は、雪谷川と支流の郷坂川の間に挟まれた丘陵の緩斜面に立地する。調査地の標高は71~78mであり、現況は葉たばこ栽培を中心とする畑地である。土捨場予定地に試掘トレンチを9本設定した (T 1~9)。

T 6 から、縄文時代の竪穴住居跡を検出した。竪穴住居跡は直径 3.8m の円形を呈し、中央部に石圍炉をもつものである。埋土中から縄文時代後期後葉頃の土器が

出土しており、竪穴住居跡の年代も概ねこの時期と考えられる。また、T 6・8 の東側から検出した4個の柱穴は、直径60cm 程の掘方と明確な柱痕跡をもつもので、竪穴住居跡に関連する遺構（掘立柱建物跡）の一部の可能性がある。さらに、T 4 では2箇所で地震痕跡を確認している。この地震痕跡は、地震による地割れ部分に、十和田 a 火山灰と推定される灰白色の火山灰が入り込んだものである。一方、北東側のやや低い沢に近い部分からは、遺構・遺物は検出されなかった。層位は、耕作土下層に十和田 a 火山灰層を局的に含む黒褐色土層があり、その下層が褐色中摂浮石層となる。この面が縄文時代後期の遺構検出面である。中摂層下層は黒褐色粘質土層を挟んで南部浮石層となり、最終面の褐色～暗褐色の八戸火山灰層となっていた。中摂層より下層からは、遺構・遺物は確認されなかった。

出土遺物については、T 6 の竪穴住居跡付近に縄文時代後期の土器が顕著であったが、全体的には縄文時代前期の土器片が散布するような状況であった。縄文時代前期の遺構は確認していないが、今回の調査地の周辺部に存在しているものと考えられる。



第78図 尾田(2)遺跡位置図



第79図 尾田(2)遺跡調査区位置図

23 山本川山本地地区通常砂防事業

MF91-1028

所在地；江刺市米里字山本地内

事業者；水沢地方振興局土木部

調査期日；平成12年9月27日

遺跡は、人首川と山本川の合流地点付近に発達する沖積地に位置する。標高は270m前後を測り、現況は宅地、水田、原野などで、既周知の中屋敷遺跡（N F01-0114）から西に300m程の位置にある。

今回の調査区は、両河川の合流地点から山本川沿いに150m程上った付近までの範囲が対象である。トレンチT1～T6は、調査区を網羅するように設定した。

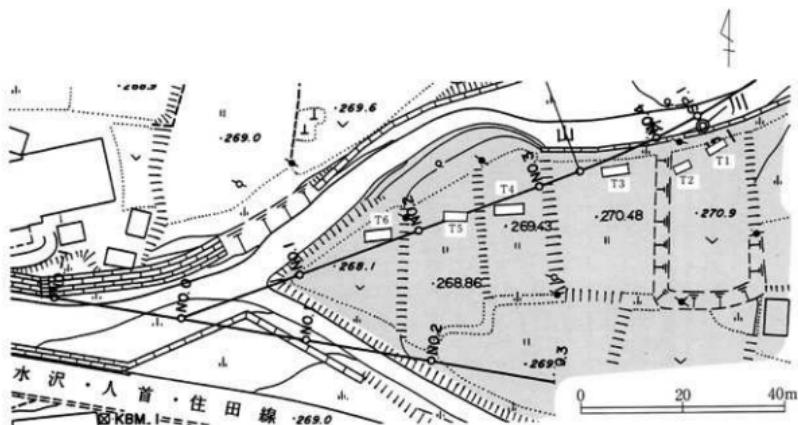
遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土・盛土）層厚

約10cm、第2層：黄褐色砂質シルト（河岸性堆積）層厚0～20cm T2付近に分布、第3層：暗褐色シルト（遺物包含層）層厚0～20cm縄文中期土器を包含、T1付近に分布する、第4層：黒褐色シルト質粘土質土層厚0～20cm、第5層：黄褐色砂礫土（地山）層厚不明である。

その結果、T1は、表土直下で遺物包含層（第3層）が確認され、縄文時代中期末葉の土器が30片程出土した。遺構は確認されなかったが、遺構識別の難しい土層であることから、確認できなかった可能性もある。T2は、河岸性の堆積層と思われる第2層の堆積が見られるが、その下位から第3層と第4層の漸移層的な土層が確認されることから、T1と同様に遺構が存在する可能性がある。T3～T6は遺構・遺物ともに検出されなかった。



第80図 MF91-1028位置図



第81図 MF91-1028調査区位置図

## 24 県営は場整備事業一関第2地区

竜ヶ坂遺跡 (N E 76-0204)

所在地：西磐井郡平泉町長島字竜ヶ坂

事業者：一関地方振興局一関農村整備事務所

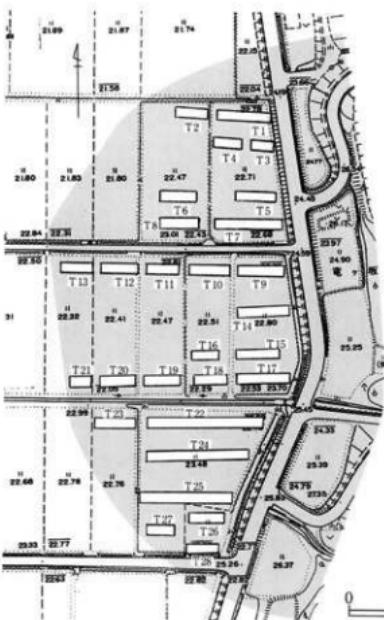
調査期日：平成12年6月6日

遺跡は、北上川左岸の河岸段丘低位面及び沖積地の微高地に立地する。調査地の現況は主に水田であり、標高は22~23mの平坦地である。今回の調査は、は場整備事業に伴い切土予定の田面と排水路部分を中心に28本の試掘トレンチを設定した (T 1~28)。

今回の調査地の大半は、北上川によって形成された沖積平野であり、耕作土あるいは盛土層の下層の暗青灰色土～青灰色砂質土の堆積が厚く、さらにその下層は砂疊層となっていた。その中で、調査地の南側に設定したT 22とT 24~28において、灰白色火山灰層に覆われた水田跡を検出することができた。この部分は段丘寄りの部分で、周辺の水田より1m程高い部分となっていた。検出した灰白色火山灰層は面的な広がりをもっており、灰白色火山灰層の下層は、ほぼ水平の堆積状況を示していた。火山灰層は水性堆積によるものと考えられ、平泉町内の火山灰の検出状況からみて、10世紀初め頃に降下した十和田a火山灰の可能性が高いと考えられる。



第82図 竜ヶ坂遺跡位置図



第83図 竜ヶ坂遺跡調査区位置図

灰白色火山灰層直下の土層（5層）は比較的均質な暗茶褐色を呈しており、土壤化した土層と考えられる。また、各試掘トレンチの灰白色火山灰層と5層上部からは、赤褐色を呈する土器片を採取している。この部分の北側の、T 1~17及び西側のT 23でも、連続する水田面の広がりが存在していたものと考えられるが、耕作土及び盛土層の下層で、灰白色火山灰の小ブロックが稀に確認できる程度であり、開田時に削平を受けたか、流路での浸食を受けたため、火山灰層として確認することはできなかった。水田層の可能性がある造構を確認した試掘トレンチの中でも、比較的明確に確認できたのはT 22であるが、このトレンチの断面観察においてでも、水田跡に伴う畦畔の状況は確認できなかったが面的な調査で明確になるとを考えられる。土壤分析や面的な調査が行われていない現段階では確実なことはいえないが、灰白色火山灰層に覆われた5層の暗茶褐色土層は、平安時代前期の水田層と推定される。

(平成13年度本発掘  
調査予定)

## 25 県営は場整備事業一関第2地区

佐藤屋敷遺跡 (N E 76-0235)

所在地：西磐井郡平泉町長島字新田

事業者：一関地方振興局一関農村整備事務所

調査期日：平成12年6月6日

遺跡は、北上川左岸の舌状に張り出した段丘の先端部及び冲積平野の微高地に立地している。調査地の現況は主に水田であり、標高は21~23mの平坦地である。今回の調査は、は場整備事業に伴い切土予定の田面と排水路部分を中心に試掘調査を実施し、10箇所の試掘トレンチを設定した (T 1~10)。調査地の中央部には水田面に5m近い盛土をした場所があったため、この部分については試掘調査から除外せざるを得なかった。

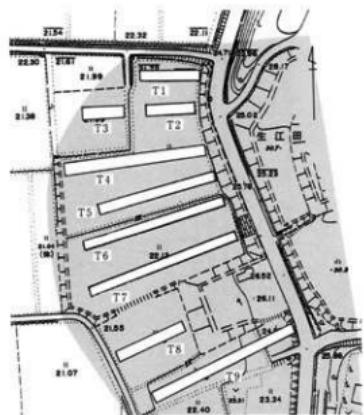
主な遺構が確認されたのは、段丘寄りの場所 (調査地の東側) である。この部分での遺構検出面は、水田耕作

土層の下層の黄褐色粘質土層 (地山) 上面である。T 1~7、T 9 の試掘トレンチの東側部分において南北に延びる溝跡3条を検出した (東から仮に1号溝~3号溝とする)。1号溝は、平均幅3m前後で、埋土が暗茶褐色砂混シルトで砂礫を多く含むものであった。2号溝は、平均幅4m程で、埋土が暗茶褐色砂混シルトであり、埋土下層に層厚10cm前後の水性堆積による灰白色火山灰層を含んでいた。3号溝は、平均幅3m程で、埋土が炭化物を多く含む青灰色粘質土層であった。これら3条の溝跡は、ほぼ並行していると推定される。一方、南端のT 10や西側のT 8では、これらの溝跡を検出できなかつたため、T 9の南側で東側に屈曲している可能性が考えられる。

各トレンチ西側の北上川寄りの部分の調査地北半部では遺構・遺物は検出されなかつたが、T 9 西側部分からは直径3m前後の土坑や柱穴群等を検出した。これらの遺構と、検出された3条の溝跡との関係は不明であるが、T 9からその未調査地の盛土部分にかけて、土坑や柱穴群が広がっている可能性がある。



第84図 佐藤屋敷遺跡位置図



第85図 佐藤屋敷遺跡調査区位置図

出土遺物は、2層茶褐色~褐灰色砂質土中から土師器片が少量出土しており、一部深掘りをした2号溝埋土からフイゴ羽口片が出土している。鍛冶関連の遺構は検出していないが、調査地周辺部 (段丘部分) に平安時代の鍛冶遺構が存在している可能性が考えられる。また、T 9とT 10の間の小高い畠地 (未調査地) についても遺構の存在が想定できる。

試掘結果から、検出された3条の溝跡が同時存在かどうかの判断は困難であるが、3者が同じような形態で、並行することから、大きな時期差はないと推定される。また、2号溝内の灰白色火山灰の存在から、溝跡の年代は平安時代前期頃と考えられる。(平成13年度本發掘調査予定)



## 26 県営は場整備事業一関第2地区関連調査

矢崎I遺跡 (N E 76-0283)

所在地：西磐井郡平泉町長島字新田

事業者：一関地方振興局一関農村整備事務所

調査期日：平成12年6月7日

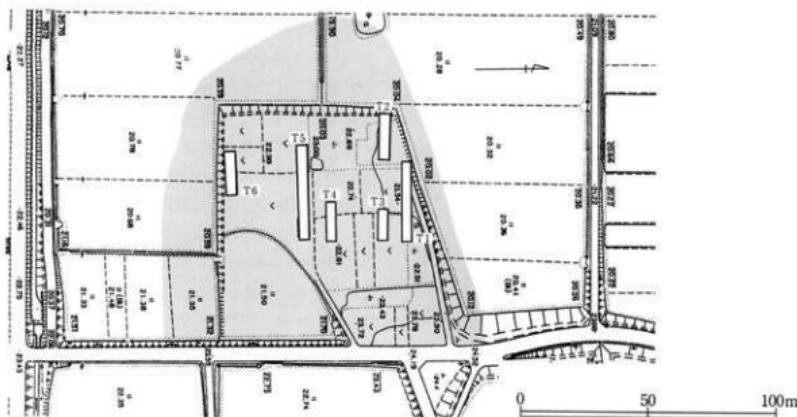
遺跡は、北上川左岸の沖積平野の微高地に立地している。現況は畑・牧草地であり、三方に水田面が広がっている。遺跡の標高は22~23mの平坦地であり、周囲の田面とは2m前後の比高がある。本遺跡は、以前実施された分布調査により12世紀のかわらけ片が採取されており、遺跡東側については平成12年度に財団手取文化振興事業団埋蔵文化財センターで発掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居跡等を調査している。今回の調査は、は場整備事業に伴い実施したものであり、事業による切り土予定の畑地等を対象に6本の試掘トレンチを設定した (T1~6)。

調査対象の畑地は、開田の際に削平を受けておらず、表土から下層については良好な土層の堆積状況を示していると考えられる。各トレンチの明黄褐色シルト面から柱穴状の土坑を検出している。T5とT3では同じ面で、焼土を検出している。耕作土下層の暗茶褐色シルト層の次にある4層明黄褐色シルト上面が主な遺構検出面となると考えられるが、検出された焼土の状況から見て、遺構の大半はかなり削平を受けていると考えられる。4層の面は、畑地部分のはば全域から検出されており、削平の程度の差はあっても面的な遺構の検出は可能であると考えられる。

検出された焼土は、竪穴住居跡の炉ないしカマド部分の残存部の可能性がある。焼土周辺の柱穴は同様に竪穴住居跡の柱穴の可能性がある。柱穴は径20cm前後で、褐色シルトの埋土に炭化物粒を多く含むものであるが、遺構の大部分がその後の流路等の影響で削平されたことが原因と考えられる。(平成13年度本発掘調査予定)



第86図 矢崎I遺跡位置図



第87図 矢崎I遺跡調査区位置図

## 27 県営は場整備事業一関第2地区関連調査

畠中遺跡 (NE 66-2291)

所在地：西磐井郡平泉町長島字畠中

事業者：一関地方振興局一関農村整備事務所

調査期日：平成12年6月7日、

6月13日（2日間）

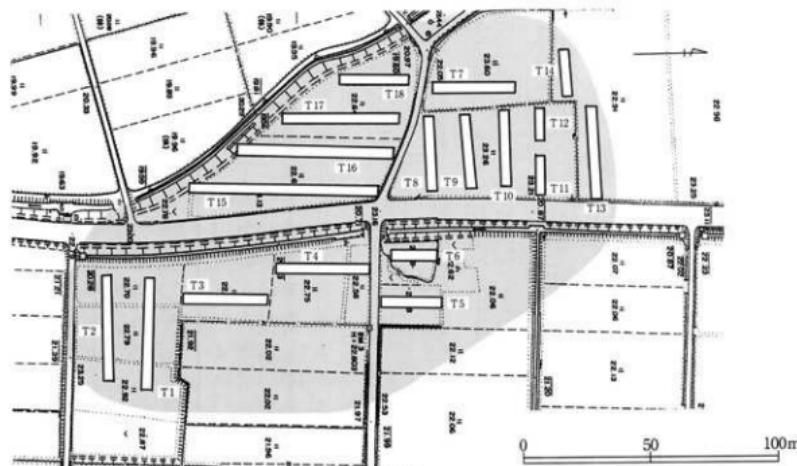
遺跡は、北上川左岸の自然堤防上に立地している。現況は水田・畠地であり北上川遊水地計画以前には、近年まで集落が存在した場所である。田面標高は22~23mで遺跡外の周囲の田面とは2~3m程の比高がある。本遺跡は以前実施された分布調査により、土師器やかわらけ片が採取され、平安時代の散布地とされている。今回の調査は、は場整備事業に伴い実施したもので、切土予定の田面を中心に18本の試掘トレンチを設定した（T1~18）。

道路の西側に設定したT7・8では、宅地造成時の盛土の下に旧耕作土があり、道路の東側の現在の耕作土面と連続する。安定した地山面と考えられるのは、4層黄褐色粘土層である。その下層は旧流路の深い砂層となっていたが、遺物包含層等は確認されなかった。

明確な遺構が確認されたのは、道路の東側である。特に、南側のT1~3からは、平安時代と推定される堅穴住居跡群（住居跡状を含む）と柱穴・溝跡が検出された。また、T3・4では、住居跡状の遺構・柱穴群・土坑・溝跡が検出された。道路の西側は、移転した家屋の基礎やごみ捨て穴等の擾乱が多く、遺構は確認できなかった。出土遺物は、土師器の小片のみであり、検出された住居跡内にはカマド的な施設は認められず、埋土にも遺物は確認できなかった。また、埋土中から灰白色火山灰も認められなかったことから、平安時代後期頃の集落跡の可能性も考えられる。（平成13年度本発掘調査予定）



第88図 畠中遺跡位置図



第89図 畠中遺跡調査区位置図

## 28 県営は場整備事業一関第2地区関連調査

本町II遺跡 (N E 66-2179)

所在地：西磐井郡平泉町長島字本町

事業者：一関地方振興局一関農村整備事務所

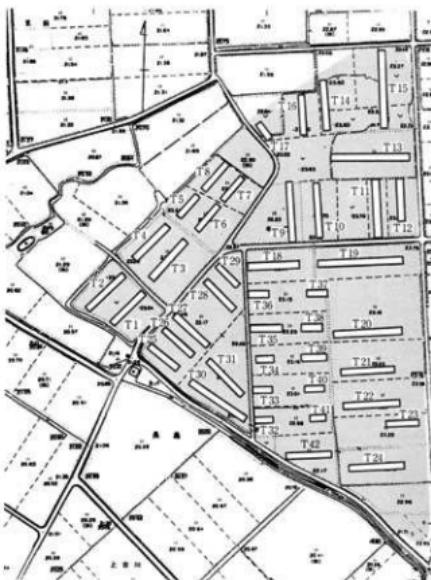
調査期日：平成12年6月13日

遺跡は北上川左岸の自然堤防上に立地している。現況は水田、畑地であり、北上川遊水地計画以前には、近年まで集落が存在した場所である。標高22~23mの平坦地で、遺跡外の周囲の田面とは2~3m程の比高がある。今回の調査はは場整備事業に伴い実施したもので、遺跡全域が切土予定のため、遺跡内のほとんどの田面に42箇所の試掘トレンチを設定した (T 1~42)。

遺跡の西端の畑部分に設定したT 1・2では、層厚15cm程の耕作土直下の黄褐色粘質土上面が遺構検出面で、堅穴住居跡2棟、柱穴群を検出している。検出面の状況から遺構の残存状況は良好であると考えられる。T 3は水田面であるが、西の畑から連続する黄褐色土上面から堅穴住居跡3棟、焼土、柱穴群を検出した。柱穴の埋土に灰白色火山灰ブロックを含み、あかやき土器片が出土していることから、検出された遺構の時期は、大半が10世紀頃と推定される。遺跡西側のT 10~16では、西側よりも遺構密度は低いものの、堅穴住居跡2棟と土坑・柱穴群・炭窯等を検出している。検出面は西側よりも低くなるが、検出面は同じ黄褐色土面である。南西側の水田面のT 27~31では灰白色火山灰層の下層から柱穴群を検出している。その東側のT 35



第90図 本町II遺跡位置図



第91図 本町II遺跡調査区位置図

0 50 100m

~42からは、灰白色火山灰を埋土にする並行する小さな溝跡群を検出しており、それらは歎間状遺構と考えられる。遺跡南側には平安時代初期の住居跡や柱穴群、煙造構等が存在するものと推定される。一方、遺跡南東側のT 19~24では、層位中に火山灰層や黄褐色土層は見られなかった。また、一部深掘りをかけたが、砂層が連続する状況で、最終的に青灰色粘土層になった段階で掘り下げを中止した。いずれの層からも、明確な遺構面（生活面が想定される面）や土器片等の遺物は確認されなかつた。出土遺物は、遺跡西側を中心にあかやき土器を中心とする土師器等が中心であるが、量的には少量であった。今回の試掘調査で、本遺跡は平安時代初期と10世紀以降の時期の集落跡が存在することが明らかになつた。(平成13年度本発掘調査予定)

## 29 県営ほ場整備事業一関第2地区

遺跡 (N E 76-1226)

所在地; 西磐井郡平泉町長島地内

事業者; 一関地方振興局一関農村整備事務所

調査期日; 平成12年10月3日

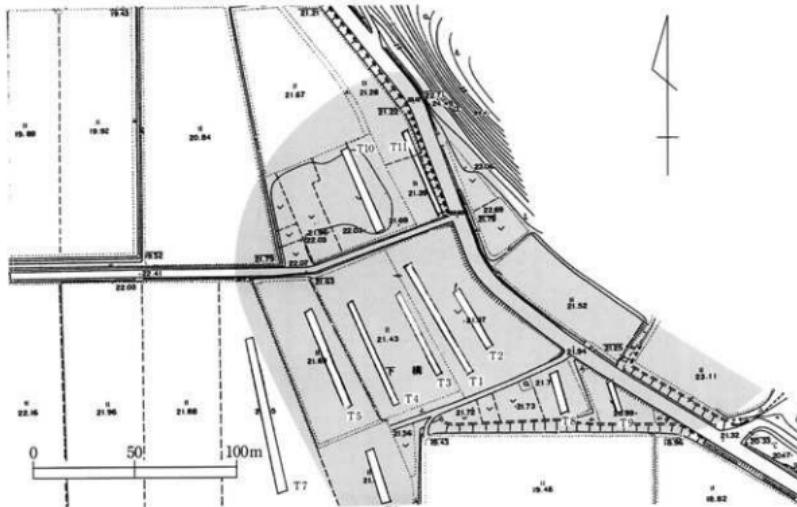
本遺跡は、JR東北本線平泉駅の東約2km、北上川左岸の低位河岸段丘の先端部に立地する。現況は水田・畑地となっているが、以前は宅地があった場所である。調査地の標高は21mほどであり、周辺の水田との比高は2m前後ある。

今回の試掘調査では、ほ場整備の対象となる水田・畑地に11本の試掘トレーナーを設定した。調査区中央の水田面に設定したT1~T3からは、径20~50cmの柱穴状の土坑を多数検出した。埋土は炭化物粒を含む暗褐色~灰褐色で、一部に礫を含むものがあった。T2の遺構内には焼土ブロックを含むものがあった。T1からは径3m程の大きな土坑も検出されている。T2・T3検出の溝は東西方向のものが中心で、埋土中から赤焼き土器片が出土している。T4・T5からも柱穴状土坑が何個か検出されているが、分布状況は西へ行くに従い希薄になるようである。畑地に設定したT8~T10からも柱穴状土坑が検出されているが、遺構数は少ないものの、残存状況は水田面よりも良好である。遺跡範囲外に設定したT6・T7からは、明確な遺構は検出されなかったことから、遺構の広がりはT5から東側の段丘内に収まるものと考えられる。

遺構の検出面は地表から50~60cmのところで、水田床土の下層であるが、出土物は全体に少なく、調査区内の土層及び遺構埋土内からは灰白色火山灰は検出されていない。検出された遺構の時期についての資料は少ないので、10~11世紀頃の可能性が考えられ、掘立柱建物跡が中心になると思われる。(平成14年度本調査予定)



第92図 N E 76-1226位置図



第93図 N E 76-1226調査区位置図

### 30 県営は場整備事業八幡東部地区

島岡Ⅱ遺跡 (L E 96-2343)

所在地：群馬郡石鳥谷町八幡地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成12年10月12日～13日（2日間）

本遺跡は、JR東北本線石鳥谷駅の南約2.5km、北上川右岸に広がる沖積平野に立地し、標高は81m～83mである。

今回の調査は、は場整備事業に伴うもので、小排水路と付帯する道路部分 (T1～T10) 及び区画整理される田面部分 (T11～T26) に試掘トレンチを全部で26本設定した。また、調査は今回本報告書に掲載される島岡Ⅲ遺跡・番屋遺跡その他1遺跡と一緒に行われたものである。

調査の結果、およその基本層序は次のとおりであった。第1層：表土15cm（水田耕作土）、第2層：茶褐色土20cm（水田底土、盛土）、第3層：黄褐色粘土（地山、遺構検出面）層厚不明

調査区西側に設定したT1～T8では住居跡5棟、土坑14基が検出された。住居跡は平安時代のもので、土坑については縄文・平安時代のものと考えられる。出土遺物には、縄文土器・土師器・近世陶磁器がある。これらの遺物はいづれも1・2層から出土している。なお、ここの調査区は幅が狭いためトレンチを広げられない制約がついた。

一方、東側の田面に設定したT19～T21では、縄文時代の土坑が20基発見された。住居跡は伴っていない。出土した遺物には、西側調査区同様、縄文土器・石器・近世陶磁器があり、やはり1・2層から出土した。これ以外のトレンチからは遺構・遺物とも確認されず、また切土を伴うものでないことから、この東側で確認された遺構については、事業者との協議の結果、田面調整をすることで保存が図られることとなっている。西側の遺構については、付帯道路部分も含めて本調査対象範囲となった。（平成13年度本調査予定）



第94図 島岡II遺跡位置図



第95図 島岡II遺跡調査区位置図

### 31 県営は場整備事業八幡東部地区関連調査

島岡Ⅲ遺跡 (L E 96-1368)

所在地：稗貫郡石鳥谷町八幡地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成12年10月12日～13日

本遺跡は、JR東北本線石鳥谷駅の南約2.5km、北上川右岸に広がる沖積平野に立地し、標高は83m前後を測る。

今回の調査は、は場整備事業に伴うもので、他にも島岡Ⅱ遺跡・番屋遺跡等とも同一事業で調査したものである。試掘トレンチは、盛土により遺構が破壊される恐れのない所を除いて事業予定地内に29本設定した。おおよその基本層序は次のとおりである。第1層：耕作土20cm、第2層：茶褐色土3cm（水田の床土）、第3層：茶褐色土35cm（水田造成時の盛土）、第4層：青灰色粘土層（地山、層厚不明）

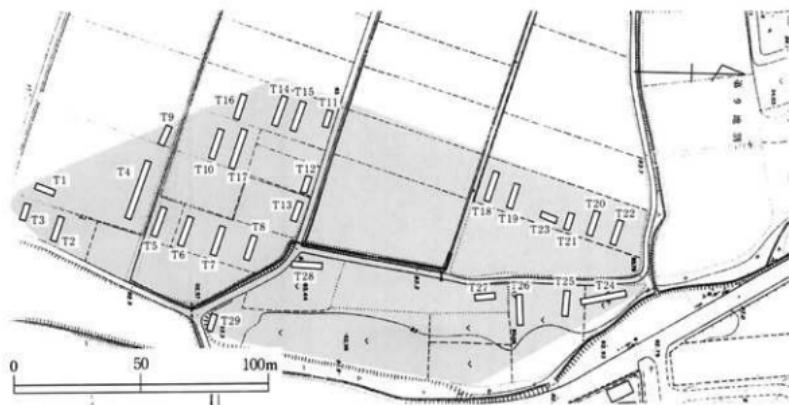
調査の結果、調査区北側に設定したT20・21・23・24から溝跡が確認された。T20・21・23のものは同一のもので、幅30cm、深さ10cmで北西から南東方向へ伸びている。T24検出の溝は幅40cm、深さ15cmで東西方向に伸びている。これらの溝からは遺物は出土していないが、堆積した土層から判断すると平安ないしは中世のものと考えられる。埋土は两者とも黒褐色土である。遺物は、T21の1層からは近世陶磁器が出土している。

一方で、南側に設定したトレンチからは、開田時にかなりの地形変更を伴っていることもあり、明瞭な遺構を確認することはできなかった。遺物については、T1・T2・T4・T7の2・3層から縄文土器、T6の2層・3層からは土器、石器が出土した。T9の3層からは須恵器、T16の2層上面からは12世紀末から13世紀前半代の陶器が、T5では4層上部から縄文土器がやまとまって出土した。遺物の種類こそ多かったが、遺構が確認できなかったことから流れ込みか、地形変更に伴うものと判断された。

北側で確認した遺構については、事業者と協議の結果、盛土による工法変更がなされることになった。



第96図 島岡Ⅲ遺跡位置図



第97図 島岡Ⅲ遺跡調査区位置図

### 32 県営ほ場整備事業八幡東部地区関連調査

番屋遺跡（L E96-1372）

所在地：群馬郡石鳥谷町八幡地内

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査日：平成12年10月12日～13日

本遺跡は、JR東北本線石鳥谷駅の約2.5km、北上川右岸に広がる冲積平野に立地し、標高は85m前後を測る。

今回の調査は、ほ場整備事業八幡東部地区に伴うもので、他にも島岡Ⅱ遺跡・島岡Ⅲ遺跡等と一緒に調査に及んだものである。試掘トレンチは事業予定地内に12本設定した。およそその基本層序は次のとおりである。

第1層：表土、耕作土10cm、第2層：褐灰色粘土層10cm、第3層：赤褐色+褐灰色土35cm（遺構検出面）、第4層：灰白色粘土40cm以上（酸化鉄混じる）

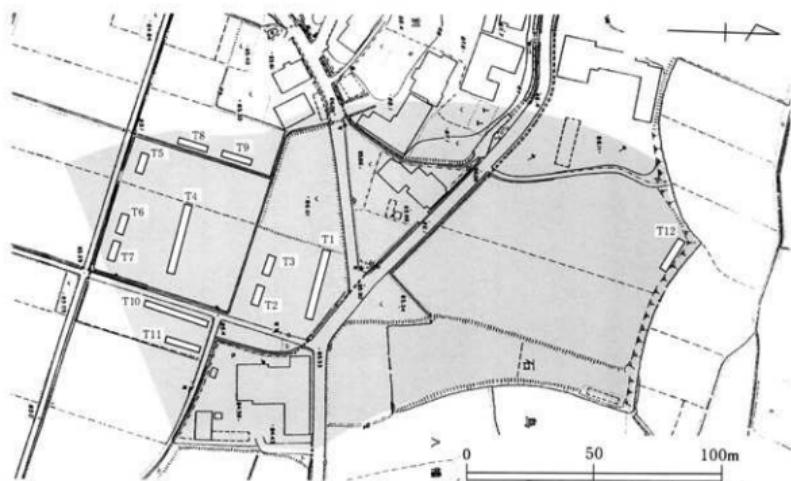
調査の結果、T4から溝跡1条と土坑1基が発見された。溝の幅は40cm、土坑は一辺40cmの方形状を呈している。検出面は、いずれも表土から35cmであった。

また、T1・T5の3層より绳文土器、土師器が各1点出土したが、遺構は伴わなかった。T5～T8までは排水路を伴う箇所で、トレンチを入れたものだが、T7の2層からは12～13世紀のものと思われる常滑の陶器片が1片出土した。遺構を伴うものではなかったので、なぜここから出土したかは不明である。

T10・T11からは旧暗渠のものと思われる砂利層が表土下に入っていた。調査区北側に設定したT12は、盛土工法がとられる田面を除いて排水路と付帯する道路部分に設定したものだが、遺跡の縁辺部に当たるこの場所からは遺物・遺構とも確認できなかった。なお、この遺跡で確認された遺構については、事業者との協議の結果、盛土により保存が図られることとなった。



第98図 番屋遺跡位置図



第99図 番屋遺跡調査区位置図

### 33 は場整備事業姉帯地区

#### 水ノ口前東遺跡

所在地：水沢市字水ノ口地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成12年11月17日

遺跡は水沢市中心部から南東に行った姉帯町地区にある。北上川右岸に接する沖積平野中の微高地に立地し、標高はおよそ35~36mである。

試掘トレンチは事業予定地内の水路、削平される範囲に設定した。計6カ所のトレンチのうち、遺構の確認ができたのは、T1、2である。ここからは、豊穴住居跡に伴うと推定される土坑が確認された。

周辺からは土師器、須恵器破片が数点出土した。遺構の残存状況から、遺構の上部はすでに削平を受けていたものと判断することができた。埋土は茶褐色、黒褐色の土でしまりが強い。このトレンチの基本層位は第1層、耕作土、層厚25cm、第2層、黄褐色粘土層、層厚不明となっている。つまり、表土直下が遺構確認面である。遺構はこれらのトレンチ以外からは確認できず、事業予定地の削平範囲に広がらないことが判明した。

トレンチ3の表土から土師器が1点出土したが、遺構に伴うものではなかった。T5、6等は、厚い盛土の下に黄褐色粘土層が堆積していた。遺跡の中心は、現在民家の建っている下の標高が若干高い箇所に存在しているものと推定できる。



第100図 水ノ口前東遺跡位置図



第101図 水ノ口前東遺跡調査区位置図

### 34 県営は場整備事業姉体地区関連調査

寺ヶ前 I 遺跡 (NE37-0093)

所在地：水沢市真城字谷地田地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成12年11月16日・17日

寺ヶ前 I 遺跡はJR東日本東北本線陸中折居駅の南約7kmに位置し、北上川右岸の沖積地の微高地に立地している。遺跡の標高は36m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。

今回の調査はは場整備事業に伴うものである。

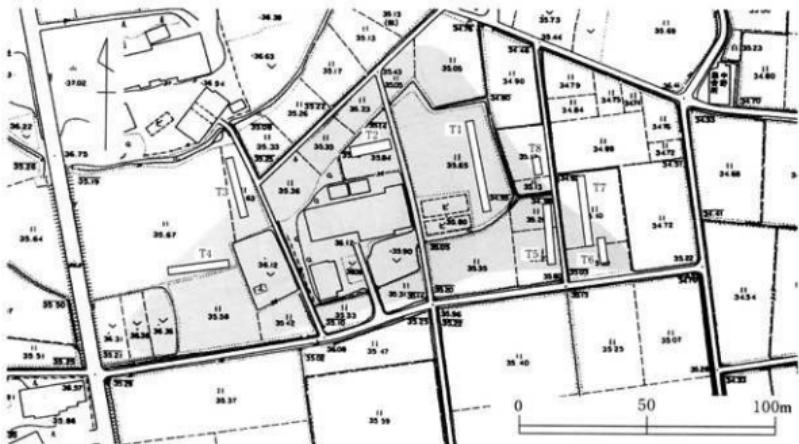
調査では用排水路が入るため掘削される部分と田面が切り土になって削平される部分に任意にトレンチを設定して行った。トレンチは幅1.5m、長さ3~10mほどの規模で8本設定した。(T 1~T 8)

調査の結果、付近より高くなっている水田に入れたT 1では、地山直上で古代の堅穴住居跡4棟と土坑1基、柱穴状土坑が数基検出され、土師器・須恵器が出土している。畑部分に入れたT 2では、溝跡が2条検出され、陶磁器片も出土した。排水路として掘削される部分に入れたT 3及び東側の水田に入れたT 6では、柱穴状土坑が検出されている。T 6からは縄文時代晚期の土器も出土したが、風倒木痕から出土していることから二次堆積によって埋まったものと推定される。また、西側の田面のT 4と東側の田面のT 5からは溝跡がそれぞれ1条検出された。この溝跡からは遺物は出土しておらず、時期は不明である。

今回の調査で、ほぼ遺跡範囲全面にわたり遺構が存在することが確認された。特に標高の高い宅地周辺部については、上部が開田により多少削平されているものの、平安時代の遺構が多数残存している可能性が高い。(平成13年度本調査予定)



第102図 寺ヶ前 I 遺跡位置図



第103図 寺ヶ前 I 遺跡調査区位置図

### 35 県営は場整備事業姉体地区

寺ヶ前II遺跡 (NE37-0072)

所在地：水沢市姉体地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成12年11月17日・11月30日（2日）

遺跡は、北上川右岸に広がる河岸平野に位置し、標高は35~37mを測る。現況は水田（休耕田含む）・畠地・果樹園である。今回の調査は、は場整備事業に伴う田面切土部分・排水路部分・道路部分の試掘調査を実施した。遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土）層厚15~30cm、第2層：暗褐色シルト層厚0~25cm、第3層：黒褐色シルト層厚0~20cm、第4層：黄褐色粘土質土（地山）層厚不明である。

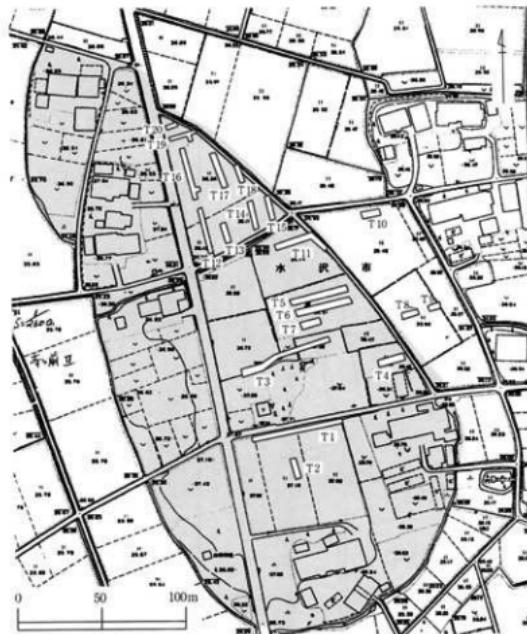
その結果、T1では竪穴住居跡3棟・土坑1基・溝跡3条を、T2では竪穴住居跡2棟・溝跡1条・柱穴3基を、T4では柱穴2基を、T5では土坑1基・溝跡1条を、T6では竪穴住居跡1棟を、T11では竪穴住居跡3棟・溝跡2条を、T16では溝跡1条を、T19では溝跡1条を検出した。遺構の埋土には、竪穴住居跡・土坑・柱穴の埋土は何れも黒褐色土で、溝跡の埋土は黒褐色土と暗褐色



第104図 寺ヶ前II遺跡位置図

土の両者があり、埋土の違いが遺構の廃絶時期に関係する可能性が考えられる。なお、一段低い面に入れたT8~T10は、表土直下で泥炭層が見られ、遺構・遺物は検出されなかった。旧河跡部分と推定される。遺物は、T2の竪穴住居跡より土器器坏の口縁部片が出土している以外に確認されなかった。

以上、本遺跡からは奈良・平安時代と推定される遺構・遺物を検出した。また、T12~T20は、溝跡以外の遺構が検出されていないことから、集落の中心はT1~3付近と推定される。



第105図 寺ヶ前II遺跡調査区位置図

### 36 県営は場整備事業跡地地区関連調査

寺ヶ前Ⅲ遺跡（NE37-0074）

調査期日：平成12年11月16日～17日（2日間）

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

所在地：水沢市真城字谷地田

遺跡は、陸中折居駅の北東約2kmに位置し、北上川右岸の低位段丘である水沢段丘上に立地する。標高は34～35m前後を測り、現況は水田・畑地・荒地である。今回の調査は、水沢市跡地内におけるは場整備事業のため実施した。用排水路、道路が入る部分及び水田で切土になる部分に任意に37本のトレーニングを設定した。

基本層序は、1層：表土（10～40cm）、2層：暗褐色粘土（0～5cm）、3層：黄褐色粘土（地山）である。

調査の結果、T3～T5、T12、T15～T17、T26において、堅穴住居跡1棟、溝跡3条、柱穴を含む土坑類が20基以上確認された。うち、T16の土坑1基と溝跡、T17の土坑からは須恵器・土器が出土していたことから、平安時代の遺構と考えられる。周辺の遺物が出土しなかった遺構についても、平安時代の遺構であると考えられる。

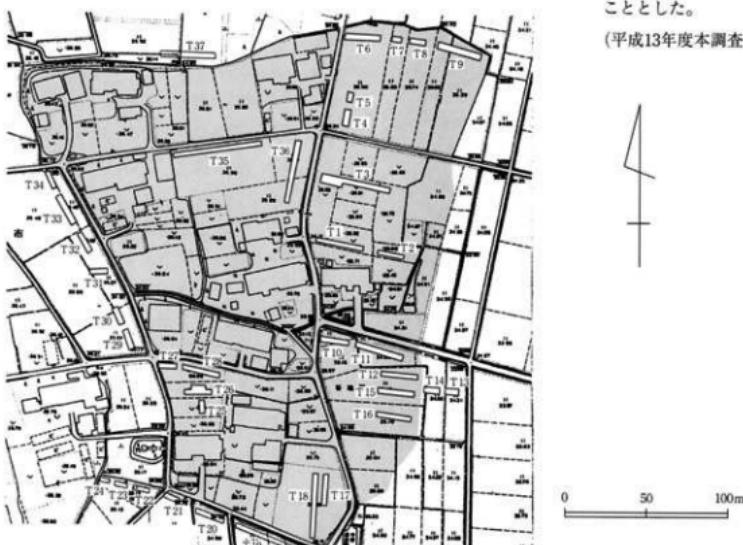
なお、T12、T15、T16を設定した結果、遺跡範囲が若干東側に拡大することも明らかになった。

本遺跡の扱いについては、基本的には盛土をすることによって遺構の保護を図ったが、T12、T15の入っている第37号支線道路と両側の排水路部分の一部については、工法変更は難しいことから、記録保存を行うこととした。

（平成13年度本調査予定）



第106図 寺ヶ前Ⅲ遺跡位置図



第107図 寺ヶ前Ⅲ遺跡調査区位置図

37 県営は場整備事業（担い手育成・区画整理型）奥玉  
地区関連調査

宿下遺跡（N F81-2334）

所在地：東磐井郡千厩町奥玉字宿下地内

事業者：千厩地方振興局千厩農村整備事務所

調査期日：平成12年10月25日

遺跡は、千厩川左岸の河岸段丘に立地する。現況は主に水田であり、宅地・畑地が点在する。遺跡の標高は、130~142mで、段丘上の平坦地と東側の緩斜面部からなる。今回の試掘調査では、は場整備予定の田面及び用排水路予定の3地点に16箇所の試掘トレーニングを設定した（T 1~16）。

遺跡北側の休耕田に設定したT 1・2では、水田床土の直下が削平された地山ローム層となっており、開田時に大きく削平を受けている場所と考えられた。本来の地形はすぐ南側の畑地と連続する緩斜面であると推定される。遺跡東側の水田面に設定したT 3~6においても、水田床土直下は削平された時山面か盛土粘土層であった。開田時の地形改変が著しいが、本来の地形は千厩川に面した段丘崖状の斜面地であったと推定される。遺跡南東側に設定したT 7~16の中で、T 10の一部で遺物包含層を検出した。T 10は西側の段丘上位面である平坦地に近い場所に設定したトレーニングで、水田床土下にあった層厚20cm程の黒褐色粘質土層の下層から、褐色砂質土に多くの縄文土器や石器、有機物を含む包含層を検出したものである。土層中では、主に磨耗度の低い比較的大きな縄文時代前期の土器片を確認しており、土器に混じって完形の石匙も出土している。遺物の検出状況と土層の在り方から、この包含層は縄文時代のうちに沢あるいは自然の窪地状の場所に堆積し、そのままバックされた良好な残存状況を示す遺物廃棄層と考えられる。T 10以外のトレーニングからは、遺構・遺物は確認されなかったが、既に開田時の地形改変を受けてたためと考えられる。T 10の遺物包含層については、縄文時代の集落の中心が西側の段丘上位面に存在したことによると推定される。



第108図 宿下遺跡位置図



第109図 宿下遺跡調査区位置図

### 38 県営は場整備事業八重畠地区関連調査

稲荷遺跡 (ME 07-2078)

所在地：神奈川県石巻谷町八重畠地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

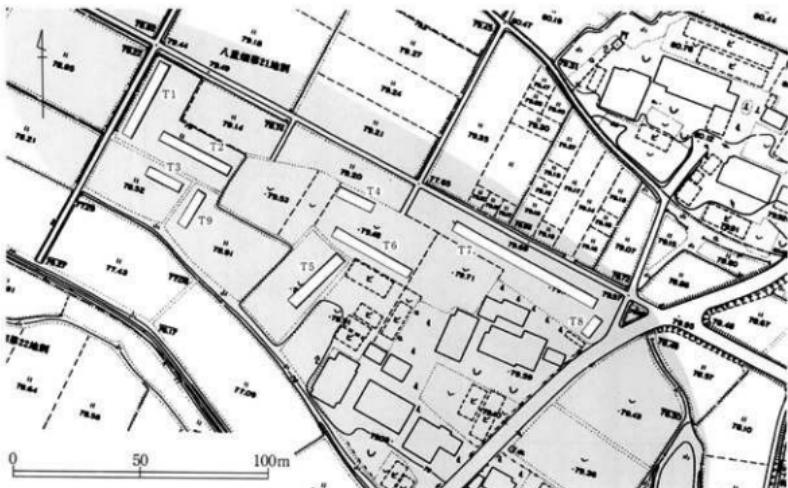
調査日；平成12年11月30日

遺跡は、北上川が形成した沖積平野の微高地に立地し、北東側と南西側は河川による小規模な段丘崖を呈している。遺跡の標高は78~79mの平坦地であり、現況は水田・宅地・畑地である。平成10年に実施した試掘調査で平安時代の竪穴住居跡等を検出しており、今回の調査では、前回確認した遺構の広がりを確認するために試掘トレンチを8本設定した (T 1 ~ 8)。

水田部分に設定したT 2~3、T 9では、耕作土直下で砂質シルト面となるが遺構は検出されなかった。一方、T 1では、耕作土下層に黒褐色粘土質土等が厚く堆積し、旧河道部分であったと考えられる。畑地部分について設定したT 4~6では、耕作土層の下層に黒褐色シルト層が厚く堆積していたが、それぞれのトレンチから遺構と若干の遺物が確認された。T 4からは、竪穴住居跡1棟、土坑2基、柱穴3個、T 5からは、柱穴10個、T 6からは溝跡2条を検出した。遺構の検出面の埋土は黒褐色シルトで、土師器片と灰白色火山灰小ブロックを少量含むだけである。土坑は埋土に地山ブロックを含む人為堆積の遺構であり、墓壙の可能性が考えられる。検出された柱穴の中には、径70cm程の明確な掘方をもつものがあり、掘立柱建物の柱穴と考えられる。2条の溝跡については、幅4mと幅2mのほぼ並行するものであり、竪穴住居跡と同様の時期が想定される。トレンチの断面観察から、各遺構は3層暗褐色粘土質シルト層を掘り込む形であることがわかった。各トレンチからの出土遺物は、平安時代前期の土師器片のみであり、T 4~6の周辺の2層黒褐色土層中から出土している。



第110図 稲荷遺跡位置図



第111図 稲荷遺跡調査区位置図

### 39 県営ほ場整備事業猫川左岸地区

林崎 I 遺跡 (MF 66-2158)

所在地：遠野市上郷町地内

事業者：遠野地方振興局遠野農村整備事務所

調査期日：平成12年11月21日

遺跡は、猫川と早瀬川に挟まれた河岸平野と傎森山裾部の地形変換点付近に位置し、遺跡は南東向きの緩斜面地に広がる。標高は372～385mを測り、現況は水田・畑地・牧草地等である。今回の調査は、ほ場整備事業に伴う切土部分・排水路部分・道路部分の試掘調査 (T1～T19) を実施した。

遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土等）層厚25

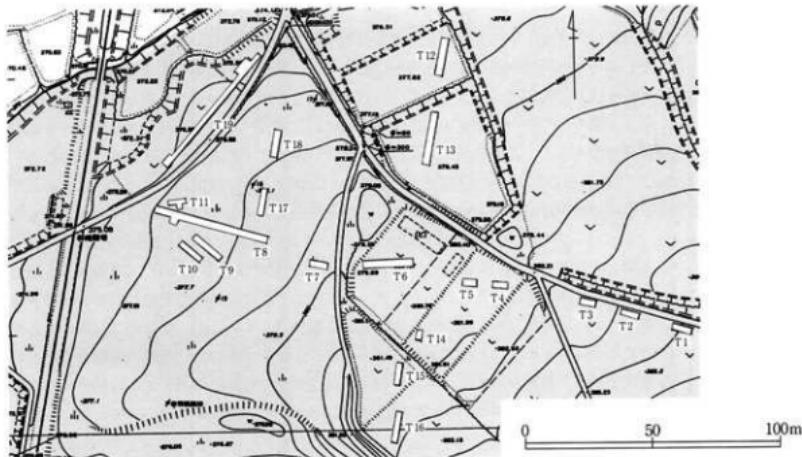
～50cm、第2層：黒褐色シルト層厚0～40cm、第3層：

黄褐色粘土（地山）層厚不明、局所的に浅黄橙色で砂質を呈する地点やマサ土を含む地点がある。

調査の結果、JR釜石線に接する調査区西側のT8、T19より遺構を確認した。T8からは、土坑1基を検出した。形状は楕円形を呈し、規模は90×60cm程で、埋土は暗褐色土である。遺構の種類としては、陥し穴状遺構である可能性もある。T19からは、竪穴住居跡の可能性がある直径260cm程の黒褐色土の広がりを検出した。遺物の出土がなかったことから、遺構の時期は特定できないが、縄文時代と思われる。



第112図 林崎 I 遺跡位置図



第113図 林崎 I 遺跡調査区位置図

#### 40 県営は場整備事業姥沢上野地区

明後沢遺跡群 (N E36-2175・N E36-2211)

所在地：前沢町古城姥沢上野地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成12年10月25日・10月26日・11月10日・

15日・12月6日・7日・22日 (7日間)

遺跡は、北上川右岸に広がる胆沢扇状地の中位段丘縁部に位置する。この中位段丘は、北側を松ノ木沢川、南側を明後沢川に開析され、舌状台地を呈する。明後沢遺跡群とは、この舌状台地内部に含まれる7遺跡（明後沢遺跡、八郎館遺跡、宗角館遺跡、熊野遺跡、鳥子沢遺跡、幅遺跡、前堀遺跡）の総称である。今回の調査範囲は、明後沢遺跡、幅遺跡、及びそれらの隣接地に相当するが、現況は過去の水田造成などにより、平坦的な地形となっていることから、遺跡同士の境界は明瞭ではない。よって、明後沢遺跡群として報告する。調査地の現況は水田・畑地などで、標高は70~75mを測る。

調査は、は場整備事業に伴い掘削の必要となる計画道路・田面のうちの切土部分・排水路部分を対象とし、試掘を実施した (T 1 ~ T 141)。遺跡の基本層序は以下のとおりである。

第1層；表土（耕作土）層厚25~40cm (平均30cm) 第2層；黒褐色土層厚0~80cm 第3層；黄褐色粘土（地山）層厚不明

今回検出された遺構数は推定も含め、堅穴住居跡10棟、ピット類36基、陥し穴状遺構6基、溝跡76条、井戸跡1基、歎間状遺構1箇所、柱穴30基以上である。今回は、調査地が広範囲であることと、調査が複数日にわたったことから、トレンチ数は141本と多く、またアトランダムな配置となっている（トレンチNOの若い方ほど調査期日が早い）。よって、調査地を大きく①~⑥に区分し、区分した調査地毎にその概要あるいは特記事項を記述する。

①調査地北部（段丘縁）は、T60~T62付近より、過去の明後沢遺跡群の調査からは希薄であった堅穴住居跡が密に検出された。検出された堅穴住居跡は、全般に径3~4mの小形が主体のようであり、また比較的土器（土師器壺など）を伴う場合が多い。併せてこの付近からは、方形気味のピット類など特殊性が窺える遺構も検出している。②調査地中央からやや北西に寄った地点は、T67~T91で時期不詳の溝跡が多数検出された。出土遺物は皆無であった。推測の域はでないが、古代~現代までのものが存在すると思われる。③調査地中央付近は、T102~T117を中心く溝跡やピット類を少数検出した。遺構からは出土遺物を確認できなかったことから、時期の特定はできないが、T31から須恵器片、T37から土師器片（高杯）が何れも第2層黒褐色土より出土していることから、遺構も概ね平安時代と推定される。また、T35・T41・T106で縄文時代と推定される陥し穴状遺構を検出している。なお、T31・T119・T121・T123・T125は、土層の様相から判断して、旧河道跡の可能性が考えられ、大凡西~東に向かって流れていたと思われる。④調査地中央からやや南西に寄った地点は、T127~T139より溝跡を若干数検出しているが、全体的に遺構の希薄な地点であった。⑤調査地南部は、T15で十和田a火山灰の小溝状の広がりが見られ、歎間状遺構と推定される。また、T52より堅穴住居跡と思われるプランを、T44より道路側溝の可能性がある2条の平行する溝跡を検出した。⑥調査地南西端部は、T141で溝跡を若干数検出した。なお、溝跡より古代の布目瓦片が出土している。

今回の調査結果をまとめると、この台地全体に人の生活の痕跡を確認できたが、古代人の居住空間は台地縁部、縄文時代と思われる狩場の空間は中央付近を中心とする様相であることがわかった。



第114図 明後沢遺跡群位置図



第115図 明後沢遺跡群調査区位置図

#### 41 土地改良総合整備事業（一般）

久田遺跡（NE09-1329）

所在地：江刺市伊手地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日：平成12年10月24日

遺跡は、伊手川の右岸に突き出た丘陵の西側斜面に立地し、標高は130～134mである。

試掘トレンチは予定地内に22カ所設定した。おおよそその基本層序は、第1層、耕作土、層厚23cm、第2層、黒色土、層厚23cm、第3層、黄褐色土層、層厚40cm以上で、第3層上面が遺構確認面である。

試掘の結果、T1・2層（黒色土）から縄文土器、T10では竪穴住居跡1棟が発見された。T11、12から縄文時代後期の遺物包含層1カ所、T13・3層（黒色土）から石窓、T14・15・16の3層（黒色土）から縄文土器が出土した。T15から幅0.3mの溝が発見された。T18からは土坑2基、T19からは、竪穴住居跡2棟、土坑2基が確認された。T22からは竪穴住居跡1棟が発見された。T10の竪穴住居跡は深さ15cm程度と判断された。全体的に見て、遺物は遺構を除くと、それ程多く出土していない。

出土した遺物は、縄文時代後期中葉の土器が主体となる。出土事例が多くない單孔土器が出土しており、この地域における後期中葉の基幹集落跡が存在する可能性が高い。遺跡の構造は住居跡を取り囲んで、遺物包含層が存在する形と推定される。

しかし、T10の結果から遺構の残存状況は良いとは言えず、遺構上部はすでに削平を受けたものと考えられた。周囲の地形との比較から、今回の事業区は過去の削平により一部改変されているものの、遺構が残存する範囲を中心に発掘調査を実施することとした。



第116図 久田遺跡位置図



第117図 久田遺跡調査区位置図

## 42 新交流ネットワーク道路整備事業関連調査

館遺跡 (N F 14-0159)

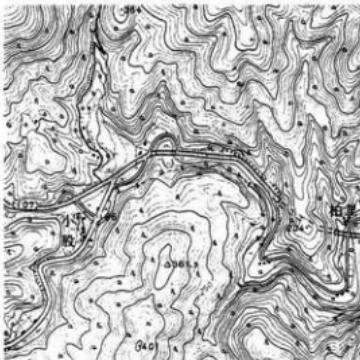
所在地；気仙郡住田町世田米字小股地内

事業者；大船渡地方振興局土木部

調査期日；平成12年4月20日

遺跡は、大股川とその北からの支流の小股川の合流点に挟まれた丘陵部とその裾部の河岸段丘部に立地している。遺跡全体の現況は山林・水田・畑地であり、丘陵裾部の道路近くに宅地が点在する。今回の試掘調査は国道397号建設予定地（小股地区）を対象とし、国道から分岐する丘陵部の水田・畑地等を中心に、10本の試掘トレンドチを設定した（T 1～10）。

T 1・2は、調査地西側の大股川に近い低い部分に設定したトレンドチであり、地形的に遺構の存在が見込まれた場所であった。2つのトレンドチでは、畑作耕土下層に黒褐色土が認められたが、遺構・遺物は確認されなかった。T 1・2から一段上の標高183～186mの水田面に設定したT 3～5では、水田床土下層は水田北側で削平された地山面（黄褐色ローム面）、水田南側で地山粘土による盛土層があり、その下層に一部黒褐色土が認められたが、遺構・遺物は確認されなかった。T 6・7は道路部分に設定したトレンドチであるが、表土下から黒色土層が認められたものの、そのまま斜面状態の地山面となった。T 8～10は、さらに一段高い水田面に設定したトレンドチであり、標高は187～189mである。T 8の部分においては、水田床土直下が地山面となっていたが、縄文土器片は水田耕作土に混入する形で出土した。出土した土器は厚手のもので縄文前期から中期頃と考えられる。T 9では、水田床土下層の地山面から焼土が1基確認されている。同じ地形面であることから、焼土についてはT 8で出土した土器と同様の時期が推定される。水田造成による削平を受けているとすれば、竪穴住居跡の炉跡の残存したものと解釈することもできるだろう。T 8～10の斜面下の水田面は未調査だが縄文時代の集落遺構の広がりが想定できる場所であり、残存状況が良好である可能性がある。（平成13年度本発掘調査予定）



第118図 館遺跡位置図



第119図 館遺跡調査区位置図

#### 43 中山間地域総合整備事業

平清水 I 遺跡 (J G 60-0241)

所在地：九戸郡野田村大字野田地内

事業者：久慈地方振興局久慈農村整備事務所

調査期日：平成12年6月9日

平清水 I 遺跡は三陸鉄道北リアス線陸中野田駅の南西約2.5kmに位置し、北上山地から張り出す尾根の先端部付近に立地している。遺跡の現況は、水田・畑地・山林である。

今回の調査は中山間地域総合整備事業における地域活性化施設を整備するために行ったものである。

調査では調査対象区域が未買取地であり立ち木があることから、重機が入ることができる北側のみを調査した。調査にあたっては、立ち木を避けながら2×3mほどのトレーナーを6本設定した (T 1 ~ T 6)。

調査区の基本土層は1層が表土で層厚20~25cm、2層が暗褐色土で層厚15~35cm、3層は地山の褐色土である。

調査の結果、T 1・T 5からは褐色土上面で焼土がそれぞれ1基検出された。焼土はいずれも幅40cmほどの不整形のもので、現地性のものと思われる。また、T 2からは褐色土上面で暗褐色土の広がりが確認されており、住居跡の可能性が高い。T 3からは径50cmほどの円形の土坑が1基検出された。遺物は、T 4から土器が1点出土している。小片で摩滅しているため時期は特定できないが、縄文土器と推定されるものである。

以上のことから、尾根の先端部付近の調査区域内には、縄文時代の遺構が多数存在する可能性が高い。



第120図 平清水 I 遺跡位置図



第121図 平清水 I 遺跡調査区位置図

#### 44 中山間地域総合整備事業黒岩地区関連調査

四十九里遺跡 (ME57-2028)

所在地：北上市黒岩地内

事業者：北上地方振興局北上農村整備事務所

調査期日：平成12年10月4日～5日、

12月11日～12日（4日間）

本遺跡は、国道107号線の北上川にかかる日高見橋から北東へ約2.3km、北上川左岸の低位段丘（微高地）及び、沢で開析された緩斜面に立地する。標高は72m～81m前後を測り、現況は水田・畑地・果樹園等である。今回の調査区は、ほ場整備事業に伴う切土部分・排水路部分で、調査は2回にわたりて計4日間調査した。

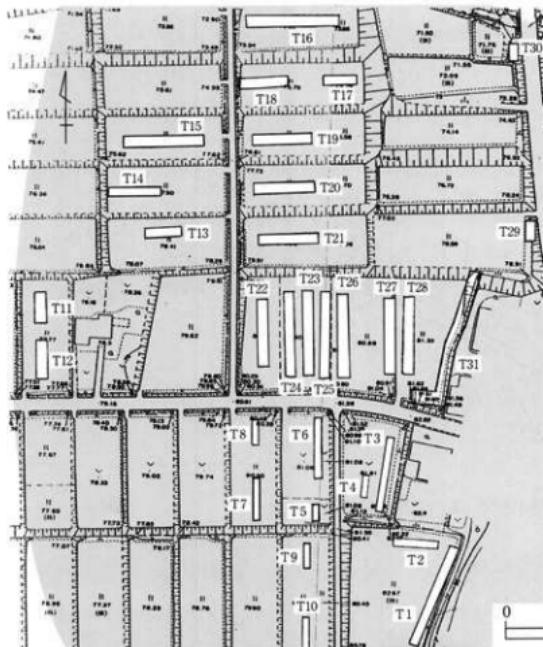
その結果、T23～T28・T31で縄文時代と平安時代の遺構及び遺物を確認した。T23では土坑3基と柱穴1基（焼土を伴う）及び土師器を、T24では柱穴4基、T25では平安時代の竪穴住居跡1棟と土坑1基・柱穴1基をそれぞれ確認した。また、T26では平安時代の住居跡1棟と土坑1基・柱穴3基を、T27では柱穴4基（内、1基から石匙出土）、T28からは縄文時代の住居跡1棟と土坑2基、さら

にT31からは土坑2基（1基は方形基調で墓壙の可能性有り）と柱穴1基をそれぞれ検出した。（一部は平成13年度生涯学習文化課本調査予定）

なお、2次調査でのT1～T10からは特段、遺構・遺物は確認されていない。



第122図 四十九里遺跡位置図



第123図 四十九里遺跡調査区位置図

#### 45 ふるさと農道緊急整備事業黒内地区

黒内遺跡（K E 06-0214）

所在地；岩手郡岩手町大字黒川第2地割9-58

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日；平成12年5月25~26日（2日間）

遺跡は、木谷内沢に接する東側にある丘陵上に位置する。現況は畑地を中心とした宅地、牧草地、水田、山林となっている。

試掘調査は、農道に沿って1m×3~5m程のトレンチを12本（T14~T25）入れた。

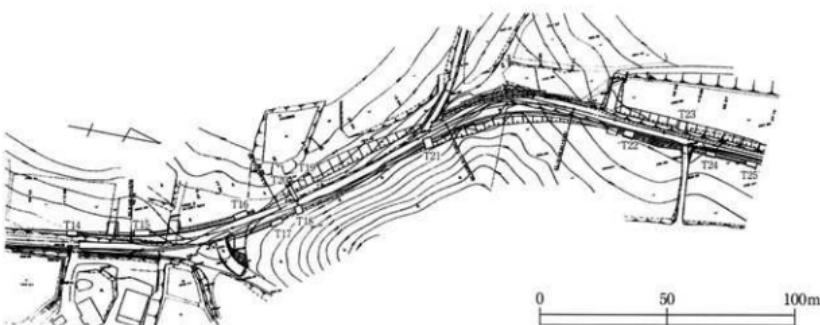
基本土層は、第1層：表土（耕作土・盛土）層厚10~50cm、第2層：暗褐色土層厚20~40cm、第3層：黒~黒褐色土層厚20~50cm、縄文時代中期土器出土、第4層：褐色土層厚0~30cm、第5層：黄褐色土（地山遺構検出面）層厚不明である。

その結果、T15の第3層黒褐色土下位より縄文時代中期の土器片が10点程出土したが、他のトレンチからは遺物・遺構とともに検出されなかった。

土器の出土したT15は、東向きの緩斜面地で、地形的に見て縄文の集落立地には最適と思われる。また、土器は耕作土から50cm程下位で出土していることから、地形の変更（現況は畑地）による埋蔵文化財への影響はほとんどないと判断され、その部分で遺構が検出される可能性が高いと思われる。



第124図 黒内遺跡位置図



第125図 黒内遺跡調査区位置図

#### 46 ふるさと農道緊急整備事業ヶ平地区関連調査

野黒沢Ⅷ遺跡（J E 25-2237）隣接地

所在地：二戸郡淨法寺町淨法寺地内

事業者：二戸地方振興局二戸農村整備事務所

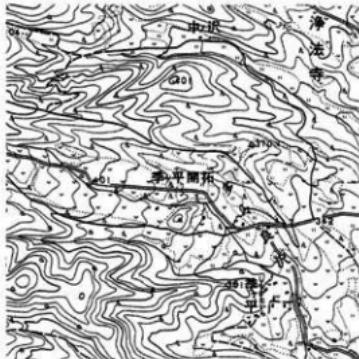
調査期日：平成12年10月17日

野黒沢Ⅷ遺跡は、日本道路公団八戸自動車道淨法寺インターチェンジの西約7kmに位置し、北上山地から張り出す尾根の先端部付近に立地している。遺跡の標高は355m前後を測り、現況は畠地である。

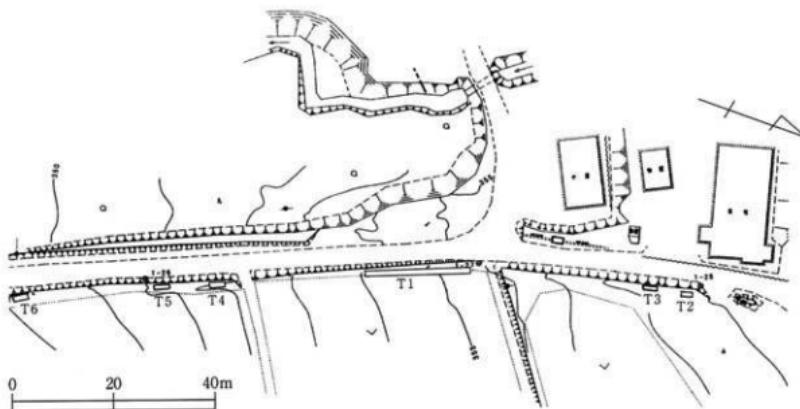
今回の調査はふるさと農道緊急整備事業に伴うもので、現道拡幅部分について試掘を行った。なお、今回試掘した地点は、野黒沢Ⅷ遺跡の南側に隣接する部分であるが、地形が連続するところから調査を行った。調査においては道路拡幅部分に幅70cm、長さ1.5~15mのトレーナーを7本設定した。

調査の結果、調査区中央部付近に長く入れたT1では、地山である黄褐色土の上面で陥れ穴状遺構4基と柱穴状の土坑6基が検出された。検出された陥れ穴状遺構は、平面形が溝状を呈するもので、埋土の黒褐色土には炭化物が少量混入する。1基の埋土から縄文土器が出土している。柱穴状土坑は径が20cm前後のもので、ほぼ円形を呈する。調査区の北端に入れたT2では径30cmほどの柱穴状土坑が検出され、埋土上部から縄文土器が出土している。T2の南側の現道の土手部分に入れたT3では、竪穴住居跡と思われる黒褐色土の広がりが確認された。この住居跡の埋土上部からも縄文土器が出土している。T1の南側に入れたT4からT7では、遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。

以上のことから、調査区の北側の部分には遺構が集中する可能性が高く、野黒沢Ⅷ遺跡の範囲が拡大するものと考えられる。（平成13年度本調査予定）



第126図 野黒沢Ⅷ遺跡隣接地位置図



第127図 野黒沢Ⅷ遺跡隣接地調査区位置図

#### 47 ふるさと農道緊急整備事業関連調査

平清水Ⅱ遺跡（J G60-0224）

調査期日：平成12年10月30日

事業者：久慈地方振興局久慈農村整備事務所

所在地：九戸郡野田村大字第22地割（通称平清水）

遺跡は、陸中野田駅の南西約2.5kmの所に位置し、明内川左岸の河岸段丘面に立地する。標高は65m前後を測り、現況は、水田・道路・荒地などである。今回の調査は、野田地区におけるふるさと農道緊急整備事業のために実施した。道路を含む事業予定地内に任意に3本のトレンチ（T1～T3）を設定した。

調査の結果、T3において遺構が確認された。

T3の層序は、1層：道路基盤層としての盛土（70cm前後）、2層：黒褐色土（10cm前後）、3層：遺物包含層となる暗褐色土（15cm前後）、4層：遺構検出面となる黄褐色粘土（地山）となっている。

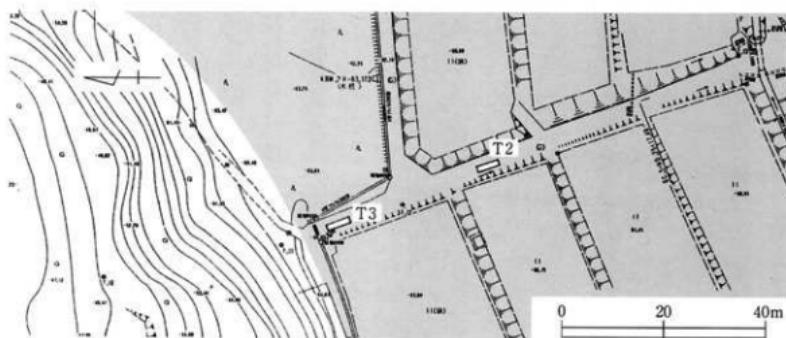
遺構としては、堅穴住居跡と考えられる遺構が少なくとも3棟、さらに土坑が1基確認されている。堅穴住居跡1と堅穴住居跡2、堅穴住居跡3と土坑1はそれぞれ切り合っている。新旧関係については、堅穴住居跡1と堅穴住居跡2については今回の調査では判断できなかったが、堅穴住居跡3と土坑1については土坑のほうが新しいことが判明した。いずれの遺構についても、縄文時代の土器・石器が覆土中より出土していることから、遺構の時期も同時期のものと推定される。

T1、T2については、T3とは土層堆積の様相及び土質が著しく異なること、開田の際に多くの土器類を採取することができたという地元の方の話などから、開田の際に影響を受けていた地域であると考えられる。

なお、本遺跡は岩手県遺跡台帳では、度重なる開田により遺跡自体が壊滅したこととなっていたが、今回の調査によって、遺跡全体が壊滅しておらず、一部残っていることが明らかになった。（平成13年度本調査予定）



第128図 平清水Ⅱ遺跡位置図



第129図 平清水Ⅱ遺跡調査区位置図

#### 48 ふるさと農道緊急整備事業根岸地区関連調査

宝性寺跡 (ME97-1048)

所在地：江刺市岩谷堂字根岸地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査日：平成12年11月2日

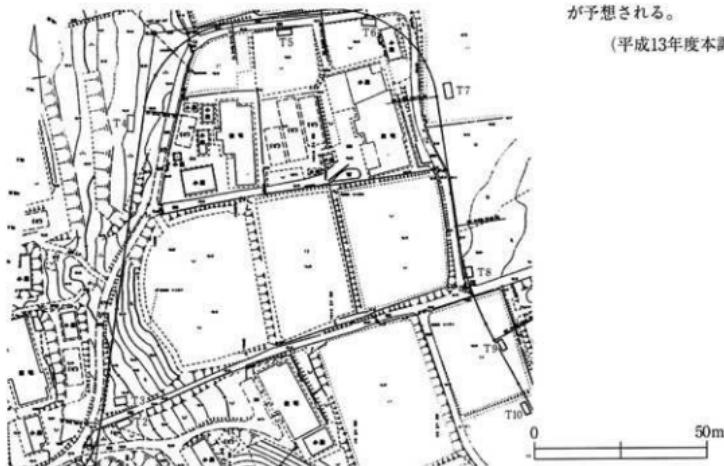
宝性寺跡は、JR東日本東北新幹線水沢江刺駅の北北西約7kmに位置し、広瀬川に沿って延びる丘陵尾根の緩斜面に立地している。遺跡の標高は80m前後を測り、現況は畑地・水田・山林・宅地である。

今回の調査はふるさと農道緊急整備事業に伴うもので、現道拡幅部分について試掘を行った。調査においては道路拡幅部分に幅160cm、長さ2~4mのトレンチを17本設定した (T1~T17)。

調査の結果、道路際の1.5mほど高くなっている林に入れたT3では、表土直下の暗褐色土から多量の縄文土器が出土し、遺物包含層の可能性が高い。包含層の厚さは1.2m前後はありそうで、道路を挟んだ畑部分にも土器が散布していることから遺物量はかなり多いと思われる。T4では、暗褐色土から縄文土器が出土し、表土から40cmの深さで焼土を1基検出した。T5では土器と石器が出土したほか、表土から40cmの深さで土坑と思われる径1.4mほどの暗褐色土の円形の広がりと、柱穴状土坑がそれぞれ1基検出された。T6~T8でも土器・石器が出土し、T7・T8では表土から80cmの深さで住居跡と思われる暗褐色土の広がりが見られた。現況が水田と山林であるT9~T17からは遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。また、本遺跡は寺社跡となっているが、寺社に係わるような遺物・遺構は確認されなかった。

以上のことから、調査区の西側の道路拡幅部分及び現道部分には縄文時代の遺構が集中する可能性が高く、多量の遺物が出土することが予想される。

(平成13年度本調査予定)



第131図 宝性寺跡調査区位置図

49 ふるさと農道緊急整備事業黒川乙部地区関連調査

沢川目遺跡 (L E48-1011)

所在地：盛岡市大ヶ生11、沢川目

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

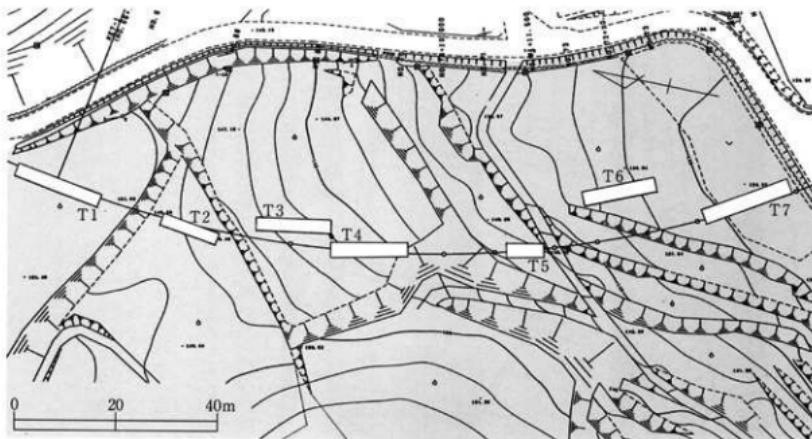
調査期日：平成12年12月13日

遺跡は、北上川左岸の河岸段丘上に立地しており、遺跡の南端及び北端は、北上川と合流する小河川の開析により段丘崖を形成している。遺跡の標高は、136~155mである。遺跡の大半は斜面地となっており、尾根上と段丘裾部に平坦部及び緩斜面部があるだけである。遺跡の現況は山林・果樹園・畑地である。今回の調査地は主として果樹園であるが、現況から既に大きな地形変化を受けていることが予想された。

今回の調査では農道建設予定地内に7本の試掘トレンチを設定した (T 1 ~ 7)。調査地内で最も高い地点のT 1では、表土下に70cm程の盛土がなされ、その下層は削平された地山面であった。T 2では、表土下に黒褐色土層が存在したが、遺構・遺物は確認されなかった。T 3北側からは、竪穴住居跡を褐色ローム層上面で検出した。住居跡は一辺4.4mの方形を呈し、埋土に土器片・焼土ブロック・灰白色火山灰小ブロックが少量含まれていた。T 3北側にも一部黒褐色土層が存在したが、土層の状況から果樹園造成に伴う土層と考えられる。T 4~5では、薄い表土直下に削平された地山面となっていた。調査区で最も低い地点の緩斜面に設定したT 6~7では、表土下に黒褐色土層が見られたが、その下層は削平を受けた地山面となっており、包含層等は存在しなかった。遺構・遺物が確認されたのはT 3北側のみである。この部分については、本来の地形をある程度残しているものと考えられる。確認された遺構の時期としては、竪穴住居跡の埋土内にあった土器片がロクロ使用の坏であること、埋土内に灰白色火山灰ブロックを含むことから、平安時代前期の遺構であると推定され、遺跡の西方の徳丹城跡との関連も想定できる。



第132図 沢川目遺跡位置図



第133図 沢川目遺跡調査区位置図

## 50 一般農道整備事業向川西地区関連調査

新規遺跡（N E 65-1163）

所在地：胆沢郡衣川村大字下衣川字金成地内

事業者：水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査日：平成12年7月24日

遺跡N E 65-1163は、JR東日本東北本線平泉駅の北西約5kmに位置し、滝ノ沢川に向かって延びる丘陵尾根の裾部に立地している。遺跡の標高は60m前後を測り、現況は水田・山林である。

今回の調査は一般農道整備事業に伴うもので、農道新設部分について試掘を行った。調査においては道路新設部分に幅160cmのトレンチを14本設定した（T 1～T 14）。なお、調査区の南側は休耕田ではあるが、重機の進入路がなく、水を抜いた直後であったため調査ができなかつたが、この部分については山林部分との間に沢と水路があり、標高も5～7m下がることから遺構の検出される可能性は低いと考えられる。

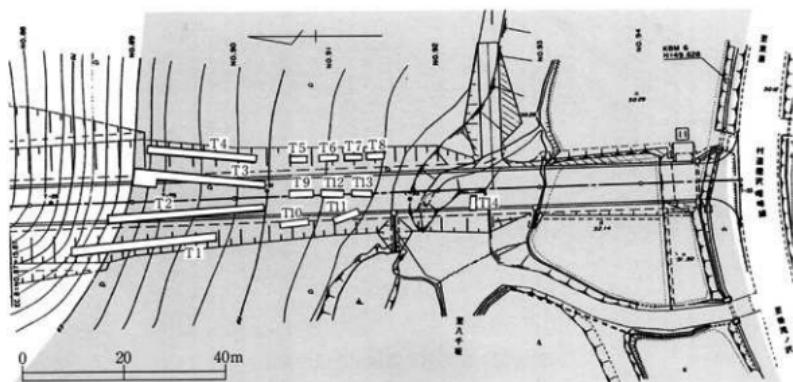
調査区の基本土層は、1層が表土で層厚20cm前後、2層が暗褐色土で層厚は30～40cm、3層が黒褐色土で層厚は15～20cm、4層は黄褐色土で地山となる。

調査の結果、T 1とT 3の尾根斜面部の2層上面で焼土の広がりが検出されたが、これは元地権者の話から昭和初期の炭窯の跡と確認された。T 1の南側では土坑が1基検出された。この土坑は平面形が楕円形で、規模は90×80cm前後と推定される。その埋土には少量の焼土と炭化物が含まれ、土師器片が数点出土したことから平安時代の遺構と推定される。

以上のことから、調査区の尾根の下部西側付近では平安時代の遺構が検出される可能性が高い。（平成13年度本調査予定）



第134図 N E 65-1163位置図



第135図 N E 65-1163調査区位置図

## 51 広域農道整備事業盛岡西部地区

### 田の沢D遺跡

所在地：玉山村渋民字田ノ沢

事業者：盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日：平成12年11月24日

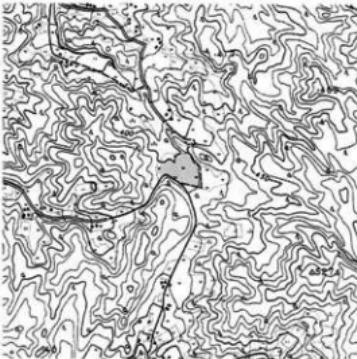
遺跡は、玉山村の東部の渋民地区に所在する。姫神山の北西山麓斜面上に立地し、標高は405m前後である。

現況はならだかな傾斜の牧草地となっており、地形の観察から、かつての草地造成時に地形変更を受けていることがわかる。

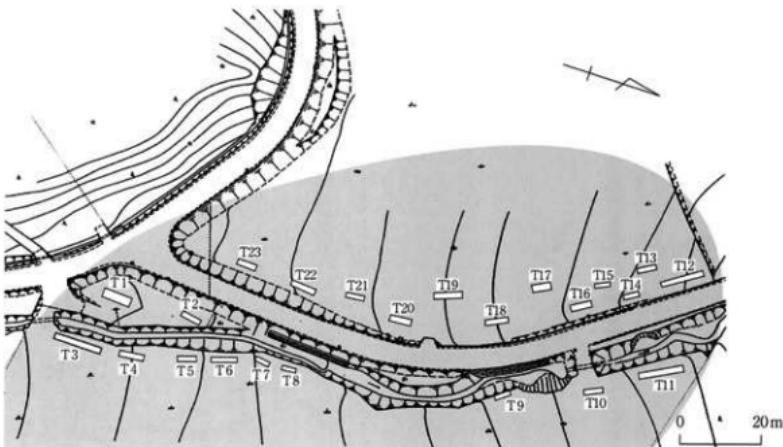
試掘トレンチは事業予定地に計23カ所設定した。基本層位は次のようにになっている。第1層、表土、層厚20~30cm、第2層、暗茶褐色土、0~15cm、第3層、黒色土、遺物包含層、層厚20~40cm、第4層、茶褐色土、層厚不明、T1, 2, 6以外では、黄褐色土（花崗岩巨礫が入る）、層厚不明が地山となる。

T1, 2, 6では縄文土器、石器が出土した。特にT1, 2では縄文時代晩期の遺物包含層が発見された。土器は器面の保存状態が良く、遺物包含層も擾乱が少ないとから、良好な遺物の出土が想定される。

この他のトレンチでも、黒色土層は確認できたものの、遺物が包含されておらず、遺構の確認もできなかった。草地造成時に削平を受けているものと考えられた。



第136図 田の沢D遺跡位置図



第137図 田の沢D遺跡調査区位置図

## 52 広域農道整備事業東磐井地区興田地区

奈良崎Ⅱ遺跡 (N F 51-1312)

所在地：大東町興田字八日町

事業者：千葉地方振興局千葉農村整備事務所

調査期日：平成12年12月20日

遺跡は、砂鉄川の支流である興田川の左岸に広がる丘陵地の南向き緩斜面地に立地する。標高は170m前後を測り、現況は畑地である。

今回の調査は、広域農道整備事業伴い、農道予定路線の試掘調査を実施した。

遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土）層厚15~25cm、第2層：黒褐色シルト層厚0~25cm、第3層：

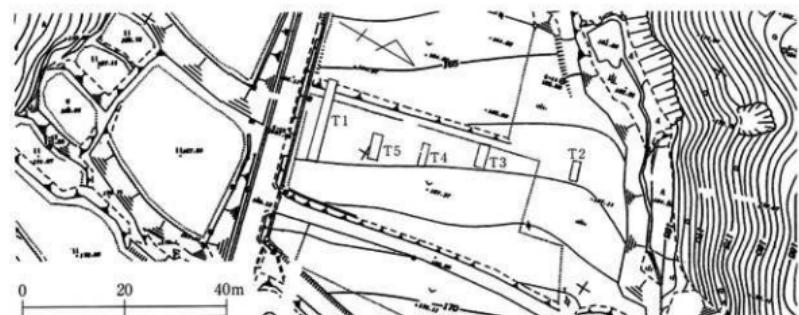
黄橙色中揮火山灰層厚0~8cm、T2・T3付近に分

布、第4層：黒褐色シルト層厚0~30cm、下位にはマサ土粒が5%混入、縄文土器混入、第5層：暗褐色粘土質シルト層厚20~30cm、マサ土粒が10%混入、第6層：黄褐色粘土質シルト層厚不明である。

その結果、T2・T3で、現地表面（畑）から約40cm下で中揮火山灰の広がりを検出し、その下位の黒褐色土（基本土層の第4層）より縄文土器が出土した。出土した土器の胎土中には、纖維を確認できることから、縄文時代前期前半期の土器と推定される。なお、遺物の出土した第4層黒褐色土は、マサ土粒の混入具合で上下層に区分される可能があり、同層下位はマサ土粒の混入率が高くなり、無遺物層と思われる。黒土中のため、明確には遺構を特定できなかったが、第3層中揮火山灰層は遺構（住居跡など）の埋土上位層で、第4層上位層（マサ土粒の入らない部分）は遺構埋土中位～下位層である可能性がある。T1は、第3・4層の堆積がなく、遺物も出土していない。T1とT3の中間地点に設定したT4は、遺物は出土しなかったが、第4層上位層が確認できることから、遺構の検出される可能性がある。



第138図 奈良崎Ⅱ遺跡位置図



第139図 奈良崎Ⅱ遺跡調査区位置図

### 53 広域農道整備事業東磐井地区興田地区

鳥海II遺跡 (N F 51-0316)

所在地：大東町興田鳥海字菖蒲沢

事業者：千葉地方振興局千葉農村整備事務所

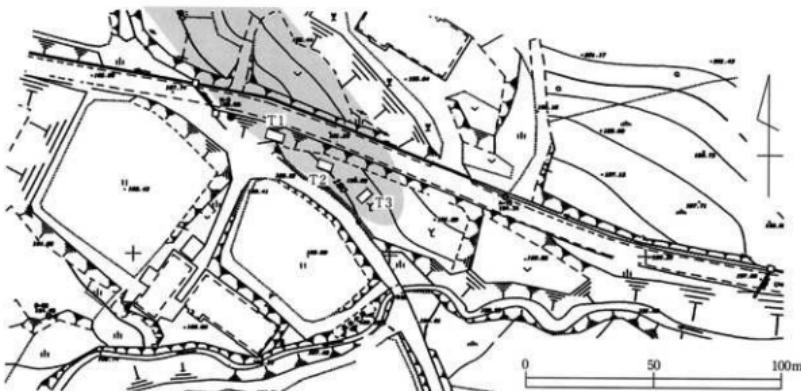
調査期日：平成12年12月20日

遺跡は、砂鉄川の支流である興田川の左岸に広がる丘陵地の南向き斜面地に立地する。標高は190～191m前後を測り、現況は道路及び畑である。今回の調査は、広域農道整備事業伴い、農道の改築部分の試掘調査を実施した。遺跡の基本層序は、第1層：表土（耕作土）層厚15～30cm、第2層：盛土 層厚0～90cm、第3層：暗褐～黒褐色土層厚10～50cm、遺物包含層、第4層：黄褐色粘土（地山）層厚不明である。

その結果、現道脇に設定したT1は、表土直下から約90cmの盛土層が確認され、その下から地山が表れる。T2・3は、傾斜地形変換点に相当する部分で、表土下約30cmに見られる暗褐～黒褐色土層から、繩文土器が出土した。遺物の出土量はそれほど多くはないが、捨て場の縁辺である可能性がある。



第140図 鳥海II遺跡位置図



第141図 鳥海II遺跡調査区位置図

## 54 森林保全整備事業関連調査

中ノ館跡 (LE 20-0227)

調査期日：平成12年8月21日

事業者：盛岡地方振興局林務部

所在地：岩手郡雫石町御明神字清水川、志戸前

遺跡は、赤渕駅の南西約5kmのところに位置し、標高682mの方丈山の西側、荒沢と志戸前川の合流点付近に立地する。標高は310m前後を測り、現況は道路及び林地である。

今回の調査は森林保全整備事業における広域基幹林道志戸前川線整備のためのものである。事業予定地内に6本のトレンチ (T1～T6) を設定した。

基本層序は、郭部分と郭周辺部で著しく異なる。郭部分の基本層序は、1層：表土（0～5cm）、2層：岩盤層（地山）である。郭周辺部の基本層序は、1層：暗褐色砂質土（20～30cm）、2層：褐色砂質土（50～100cm）、3層：青灰色砂質土（60～70cm）、4層：泥炭を含んだ暗褐色シルト質土（40～100cm）、5層：湧水のある岩盤層（地山）となっている。

調査の結果、郭と考えられる部分の南側 (T5～T6) については、土層堆積の状況から、湿地状を呈していたところに、褐色砂質土が堆積したものと考えられ、遺構・遺物が存在した可能性は低いものと考えられる。北側 (T1～T2) については、岩盤層があること、T1部分で青灰色粘土層上層にラミナ状の暗青灰色砂層が確認されており、志戸前川が増水した際の堆積層であると考えられる。郭部分 (T3～T4) に関しては、表土直下で岩盤層が確認されている。一部堀跡かと見られたところにも下層から岩盤が確認されており、柱穴などの遺構の存在する可能性は低いものと考えられる。また、遺物については、全トレンチで確認されなかった。

本遺跡の取り扱いについては、郭の南西側斜面に工事を行うということで、工事着手前に現況について20cm間隔の等高線の入る地形図を作成し、記録保存することとした。



## 55 遠野第二ダム建設事業

九重沢遺跡 (MF 55-0082)

所在地：遠野市遠野町九重沢地内

事業者：遠野地方振興局土木部

調査期日：平成12年9月28日、11月13日

遺跡は、米内川沿いの河岸段丘上に立地し、標高は283m前後である。川沿いのほぼ平坦な場所にある。

試掘トレンチは予定地内に9カ所設定した。現況が林である。各トレンチの基本層序は次のとおりであるが、トレンチにより基本層位がだいぶ異なる。

トレンチ1では第1層、表土、層厚45cm、縄文前期の土器が出土、第2層、黄褐色砂礫層、層厚40cm、花崗岩巨礫が含まれている。トレンチ2は、第1層、表土、層厚10cm、第2層、黄褐色砂礫層、層厚53cm、第3層、黒色土層、層厚24cm、第4層、黄褐色粘土層、層厚10cm以上、この層上面に直径30cmの焼土が確認された。トレン

チ3北側は、第1層、表土、層厚40cm、第2層、黄褐色砂質粘土層、層厚20cm以上、この層上面で竪穴住居跡、焼土を確認した。トレンチ3南側、第1層、表土、層厚30cm、第2層、黒褐色土層、層厚50cm以上で縄文時代早期の遺物包含層である。第3層、黄褐色砂層、花崗岩巨礫を含んでいる。

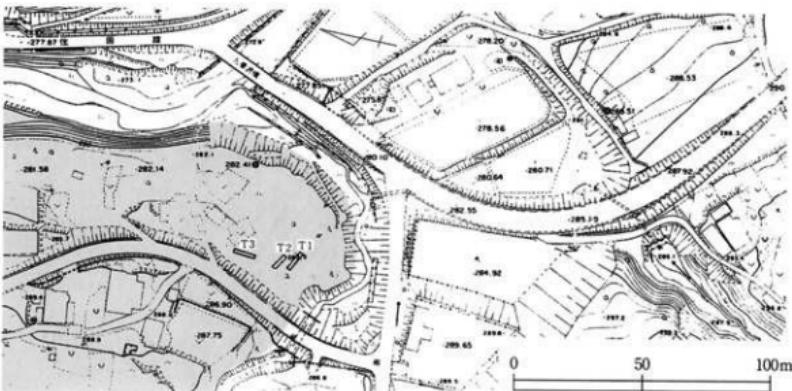
各トレンチに見られる黄褐色砂礫層の堆積から、遺跡は、たびたび砂礫層に覆われる状況にあり、河川堆積物の影響を受けていたと考えられた。よって現地表下より深い場所に遺構の存在があるものと推定される。

出土した土器は、早期末の表裏縄文土器、貝殻腹縁文土器があり、縄文時代早期の遺構が存在するものと考えられた。トレンチ2とトレンチ3の遺構確認面のレベル差が1m程あり、遺構面が2枚存在する可能性が高い。

発掘調査が必要な範囲は遺跡の南側を中心とした範囲であることが判明した。この他、発掘調査が必要な範囲の北側にもトレンチを9カ所設定し、試掘調査を実施したが、遺構、遺物は確認できなかった。現水田下の場所であったが、表土の下には黄褐色砂礫層やシルト粘土層が堆積していた。層中には花崗岩巨礫が混入している状況であった。



第144図 九重沢遺跡位置図



## 56 遠野第二ダム建設事業関連調査

柄洞II遺跡（MF55-0082）

所在地：遠野市遠野町地内

事業者：遠野地方振興局土木部

調査期日：平成12年9月27日、11月13日（2日間）

本遺跡は、遠野市役所から南へ約2km、来内川沿いの河岸段丘上に立地し、標高は278m前後を測る。現況は、道路を挟んで畠地と果樹園が広がっている。

今回の試掘調査は、遠野第二ダム建設事業に伴うもので、同事業関連の九重沢遺跡・夫婦石袖高野遺跡と一緒に実施したものである。

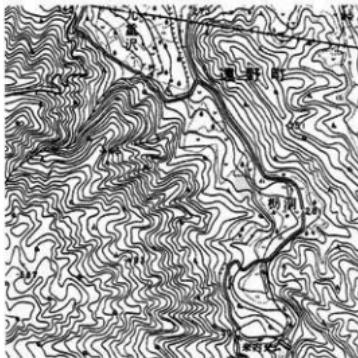
試掘のトレンチは事業予定地内に10本設定した。各トレンチの基本層序は次のとおりである。

第1層：表土30~40cm、第2層：灰白色砂層30cm（T3でのみ検出）、第3層：黒色土層30~50cm、第4層：黄褐色土層10~30cm、第5層：明黄褐色土層、地山・層厚不明。

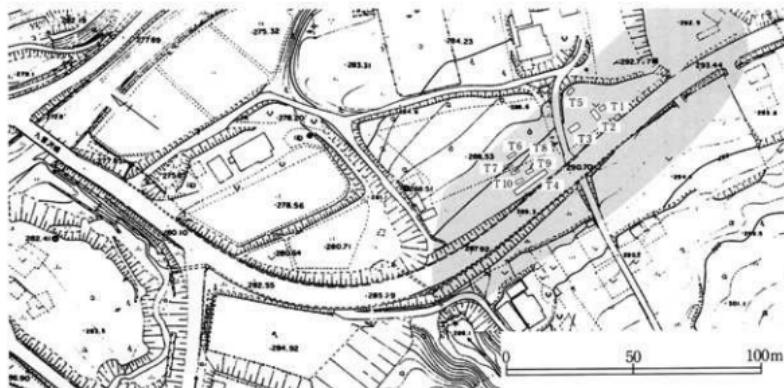
調査の結果、T1~T3付近では縄文土器が表採されたが、遺構は確認できず、一段低くなった畠地に設定したT5からは遺構・遺物は確認されなかったので、調査区東側は事業に影響のないことが判った。一方、西側道路沿いに設定したT4からは3層と4層の間から埋設土器2基、土坑1基が出土し、縄文時代中後期の遺構が存在することが判った。

また、調査未了であった調査区西側の果樹園に改めて入った調査では、T6で竪穴住居跡、T7~T10で遺物包含層が確認された。この果樹園部分の基本層序は、前回のT1からT5に比べ、表土が薄く、黒色土の上に暗褐色砂質土・粘土が堆積しており、遺物包含層である黒色土が20cm堆積する下に褐色粘土・シルト層が続いている。この遺構の広がりはさらに東側の果樹園に広がるものと思われ、遺跡範囲からはずれる部分について再度の試掘調査が必要になると判断した。

（平成13年度本調査予定、対象範囲確定に際して改めて試掘調査が必要）



第146図 柄洞II遺跡位置図



第147図 柄洞II遺跡調査区位置図

## 57 梶川ダム建設事務所造成工事

沢田遺跡（LE 17-2230）

所在地：盛岡市東中野字沢田

事業者：盛岡地方振興局梶川ダム建設事務所

調査期日：平成12年6月1日、2日

遺跡は、北に向かって傾斜する丘陵上に立地し、梶川に面し、現況は畑となっている。

試掘調査では28カ所のトレンチを設定した。

基本層位は、トレンチ9；第1層、耕作土、層厚30cm、第2層、茶褐色土層、層厚20cm、第3層、明黄褐色土層、層厚50cm、第4層、茶褐色土層、層厚10cm、第5層、暗褐色土層、層厚15cm、第6層、明黄褐色土層、層厚5cm以上となる。

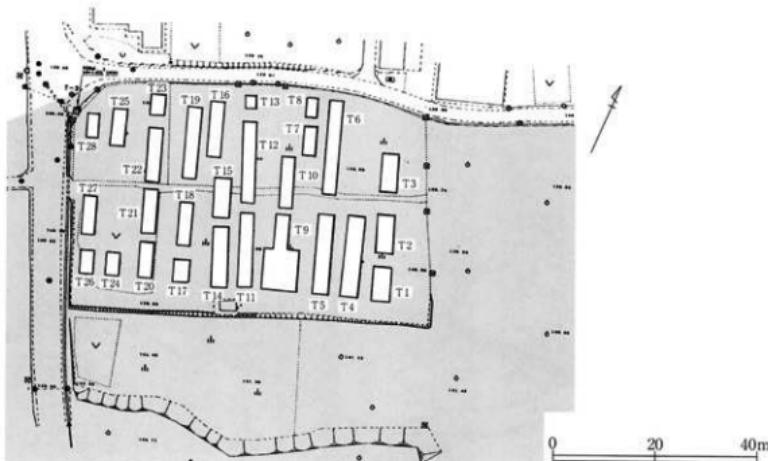
調査の結果、縄文時代早期の包含層が1カ所発見された。T5、T9、T14での所見からすると包含層の範囲は東西長さ28m、南北幅5m、厚さ0.2m程の規模と推定され、事業地外に延びると考えられる。縄文早期の土器が出土している遺物包含層は、岩手山起源と推定される火山灰（基本層位第3、4層）の下に形成されたものである。

表土等からは、19世紀後半の陶器、縄文時代前期、晚期の土器、鉄滓が出土した。遺物は表土から比較的多く出土するものの、早期包含層を除いて、出土量は少なく、遺構は確認できなかった。

なお、事務所建設にあたっては遺物包含層を保護する建物の配置、工法を採用することとした。



第148図 沢田遺跡位置図



第149図 沢田遺跡調査区位置図

## 58 特定環境保全公共下水道（代行）事業関連調査

### 和野 I 遺跡（K G23-1047）

所在地：下閉伊郡田野畠村西和野地内

事業者：宮古地方振興局岩泉土木事務所

調査期日：平成12年6月29日

和野 I 遺跡は、三陸鉄道北リアス線田野畠駅の西南西約1kmに位置し、三陸海岸の海岸段丘上に立地している。遺跡の標高は185m前後を測り、現況は畑地・山林である。

今回の調査は特定環境保全公共下水道（代行）事業における下水処理場建設に伴つて行ったものである。調査では、施設建設予定地と管理用道路部分に幅1.2m、長さ2~3mのトレンチを9本設定した（T1~T9）。

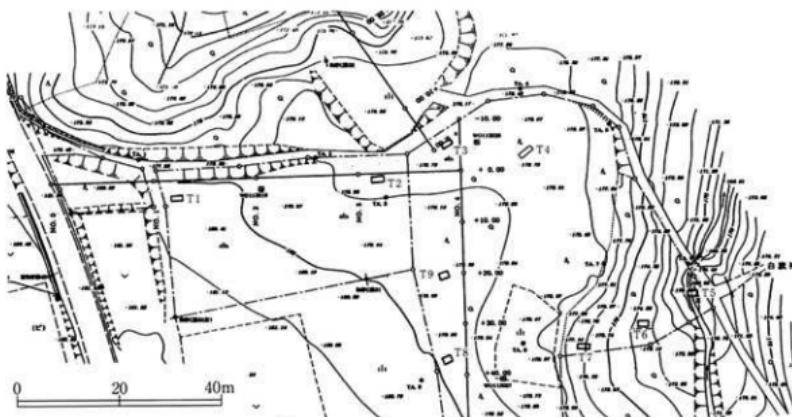
なお、今回の調査区には重機の進入路がなく、立ち木もあったため、人力によって掘り下げを行った。

調査の結果、管理用道路部分に入れたT1・T2では、表土直下の暗褐色土中から多量の土器が出土した。T1では暗褐色土の層の中で焼土が検出されたが、多量の遺物を含み木根も混入し、人力での掘り下げであるため詳細は不明であるが、住居跡に伴う可能性が高い。T2では、暗褐色土が1m以上堆積しているが、土器は主に上面で出土し、下方では出土しなかった。下水処理施設予定地に入れたT3からT9では、T3・T7~T9で少量の土器が出土した。T9では磨石の欠損品が1点出土している。この部分は暗褐色土の層が薄くなっている。調査区南側に入れたT4~T6では、薄い表土の下がすぐ黄褐色あるいは灰黃褐色の地山になっており、遺物・遺構は確認されなかった。

以上のことから、遺跡の主体部は調査区北側の畑と思われ、管理用道路予定地と処理場予定地の南側では遺構が集中する可能性が高い。（平成13年度本調査予定）



第150図 和野 I 遺跡位置図



第151図 和野 I 遺跡調査区位置図

## 59 一級河川伊手川伊手地区河川局部改良事業関連調査

新田遺跡 (N E 09-1252)

所在地：江刺市伊手字沢田地内

事業者：水沢地方振興局土木部

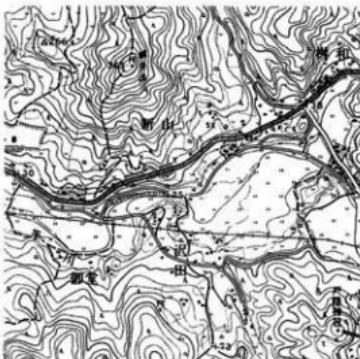
調査期日：平成12年10月20日

新田遺跡は、JR東日本東北新幹線水沢江刺駅の東北東約8.5kmに位置し、伊手川左岸に舌状に張り出した丘陵尾根の頂部付近に立地している。遺跡の標高は135m前後を測り、現況は畑地・原野・山林である。

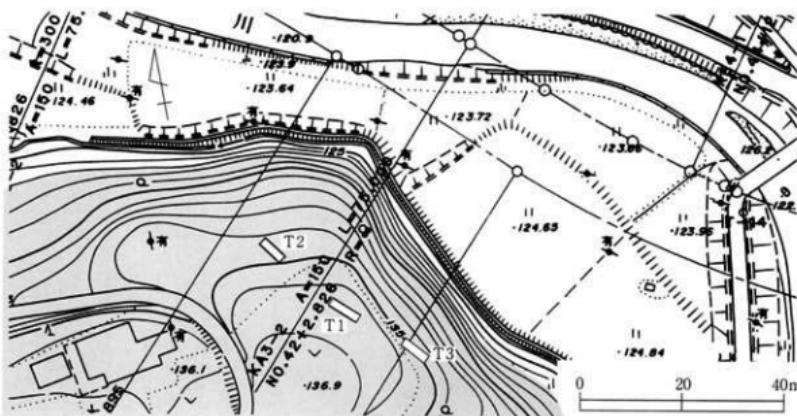
今回の調査は、一級河川伊手川の河川改修に伴って遺跡の一部が消滅することから行ったものである。調査では、調査区域の畑脇で過去に表土を若干掘削した形跡が見られ、土器が散布していたため、その部分を中心として河川改修によって掘削され法面となる部分に幅1.5m、長さ5mほどのトレーナチを3本設定した(T1～T3)。

調査の結果、最も高い部分に入れたT1では表土直下の暗褐色土から縄文時代中期の土器が出土し、その下の黄褐色土の上面で炭化物が混入する暗褐色土の広がりが見られた。T1の東側では少量の焼土も確認されたことから、この部分には少なくとも2棟の住居跡が重複して存在するものと推定される。T1から少し下がった原野に入れたT2では暗褐色土の下に径10～25cmの円窓の層が確認され、その下は砂礫層であった。T2からは遺物は出土していない。もっとも東側に入れたT3ではT1と同様に黄褐色土上面で暗褐色土の広がりが確認されており、住居跡と思われる。T3からも中期の土器が出土している。

以上のことから、今回の調査区域の中で、尾根の頂部付近から尾根が伊手川に向かって急激に落ち込む手前の部分かけては、縄文時代の遺構が集中している可能性が高く、遺物の量も多いことが予想される。(平成13年度本調査予定)



第152図 新田遺跡位置図



第153図 新田遺跡調査区位置図

## 60 荒廃砂防事業関連調査

### 梅の木沢遺跡（J F 15-0344）

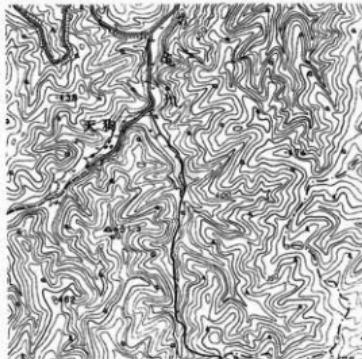
所在地；九戸郡軽米町大字小軽米第17地割字玉川向平  
事業者；二戸地方振興局土木部

調査期日；平成12年10月30日～31日（2日間）

遺跡は、ウチナイ沢とそれに合流する小規模な2つの沢の合流点付近の谷部に立地する。遺跡の標高は348～356mで、現況は山林・原野である。今回の試掘調査では、砂防ダム建設により埋没するダム上流部分を対象に26本の試掘トレンチを設定した（T 1～26）。

製鉄炉のあった場所（高殿）が予想される小高い平場に設定したT 4では、表土、黒色粘質土層の下に、炭化物や鉄滓が集中する部分と、焼土と炉壁の一部が残存する部分、炭化物のみが集中する部分を確認した。炭化物のみの部分は、製鉄炉の地下施設の可能性が考えられる。また、事業予定地外であるが、T 1からも良好な焼土面が確認されており、この場所についても製鉄炉が営まれていた可能性がある。T 7からは、炭窯の可能性がある楕円形の土坑を検出した。一方、沢寄りの斜面部のT 3・T 5・T 6からは、排滓場に関わる排滓層を検出している。最も厚いT 5の排滓層は、炉壁廃棄層を挟んで大きく3層に分かれ、全体の層厚は170cm程度であった。また、北東側の沢沿いに盛り上がっている部分でも、多くの鉄滓が表採できる状況であり、この部分はT 5他の部分と同一の排滓場をなしているものと考えられる。T 10～15においては、鉄滓の分布は希薄であるが、表土下の地山面から、柱穴や土坑等の遺構を検出している。柱穴は直径25～60cm程度であり、鉄生産に関わる居住施設等の存在が考えられる。またT 13では灰白色火山灰層を検出しておらず、この部分については遺構は存在せず、低地状の地形であったと考えられる。T 16～22からも遺構は確認されず、部分的に沢跡や低湿地の状況であったと考えられる。遺跡外ながら、沢下流の小高い緩斜面部にも関連遺構の可能性が考えられたので、遺跡寄りの部分にT 23～26を設定したが、この場所からは遺構及び鉄滓等は確認されなかった。

出土遺物は、主として鉄滓と炉壁である。年代を推測できる陶磁器類や鉄製品は出土していない。出土した鉄滓は暗青灰色の流状滓であり、調査範囲においては製鉄のみを行った場所であると考えられ、その立地と大量の鉄滓等から、近世の鉄山跡であると推測される。（平成13年度本発掘調査予定）



第154図 梅の木沢遺跡位置図



第155図 梅の木沢遺跡調査区位置図

## 61 低コスト化水田農業大区画は場整備事業徳田第一地区関連調査

岡村遺跡（L E57-0181）

所在地；紫波郡矢巾町大字間野々岡村地内

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査日；平成13年3月6日～7日（2日間）

本遺跡は、JR東北本線古館駅の東約1.2km、北上川支流の岩崎川流域に広がる微高地に立地する。現況は水田が中心で、標高は101m～103mである。今回の調査は、暗渠排水パイプ取り付けに伴い、実施したものである。調査区は2地点に分かれることから、南部をA区、北部をB区と呼ぶこととする。A区・B区ともそれぞれ12本ずつ（T1～T12）（T13～T24）のトレーンチを設定した。

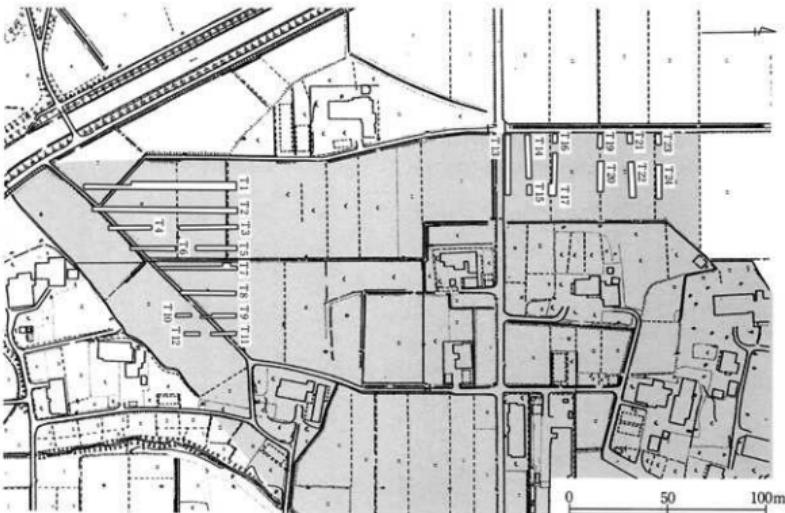
その結果、検出された遺構はA・B区併せて竪穴住居跡5棟、周溝墓3基、土坑9基、溝跡10条、焼土1基、柱穴15基等で、主に4層の黒褐色シルト（層厚0～15cm）から確認された。出土した遺物は、平安時代の土器（主に甕と壺）が竪穴住居跡1・4号（T1・T9）、土坑2・5・7・8号（T7・T9・T17）及びT9の柱穴群から出土している。

また、溝跡2・3・5・8号（T1～T3・T5、幅90～110cm）の同一の溝跡で南西から北東に伸びる）と溝跡9号（T7で検出、幅90cm）は伸びる方向や規模等から、直角に交わる一連の溝跡である可能性があることが特筆される。

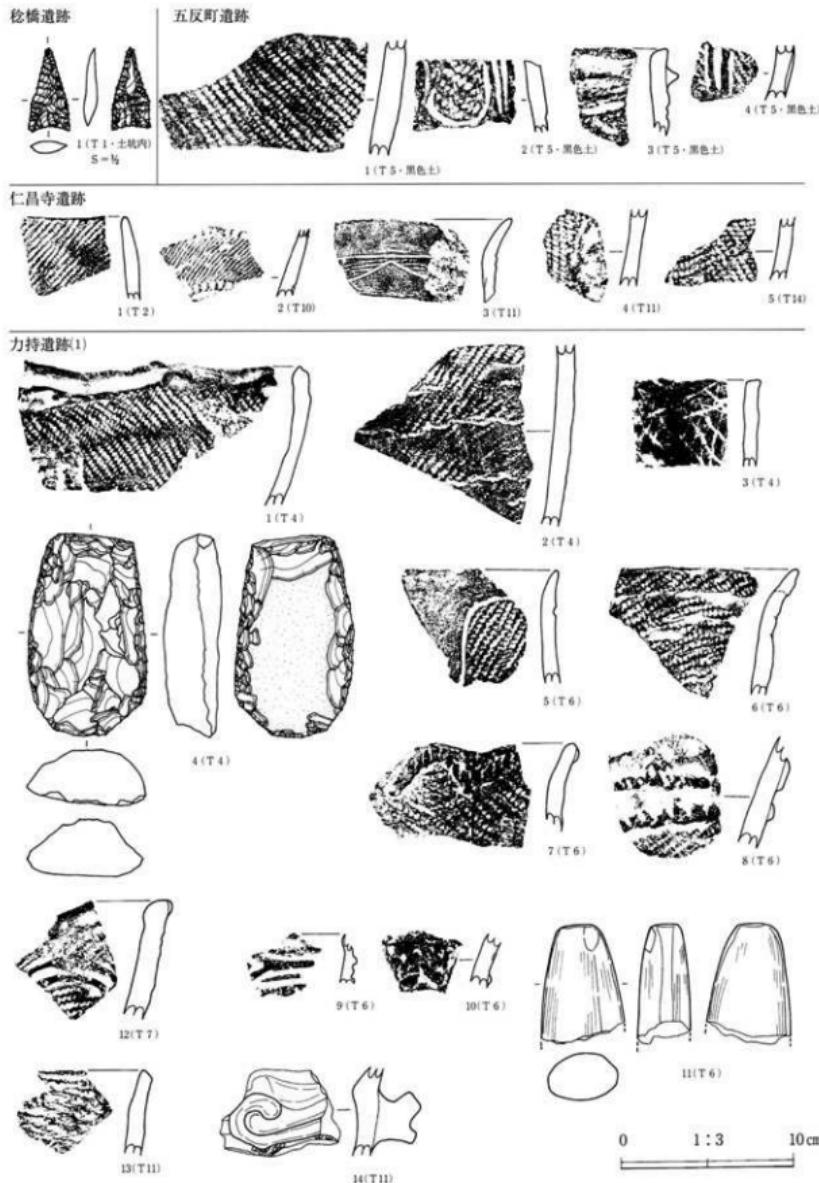
また、土坑5号（T7）出土の土器壺は、内外面とも黒色処理がなされている等の特徴が見られた。これら一連の遺構については、事業者と協議の結果、工法変更により保存が図られることとなった。



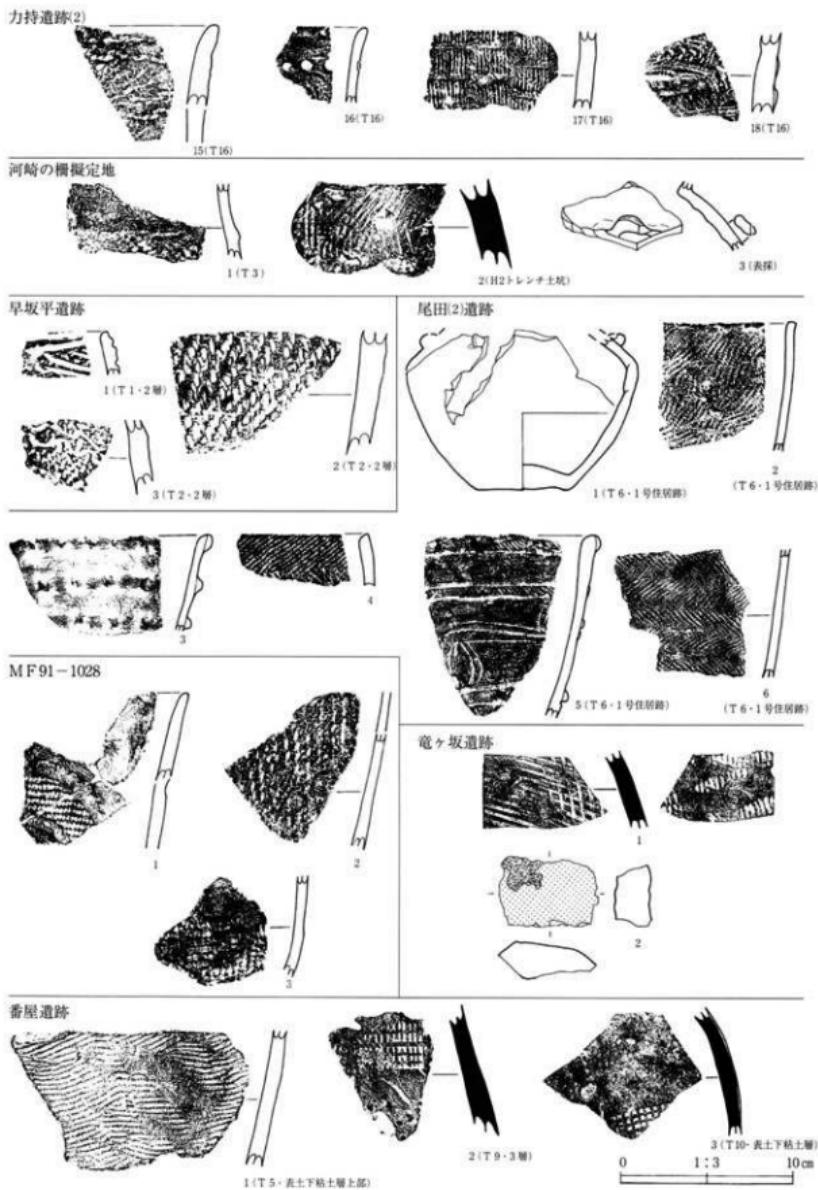
第156図 岡村遺跡位置図



第157図 岡村遺跡調査区位置図



第158図 県内遺跡試掘調査出土遺物 1

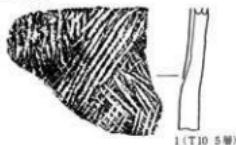


第159図 県内遺跡試掘調査出土遺物 2

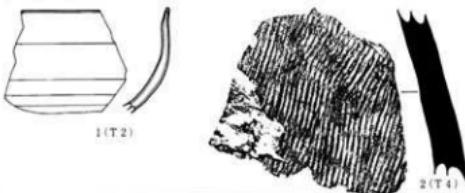
水ノ口前東遺跡



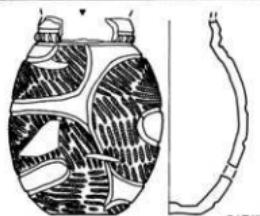
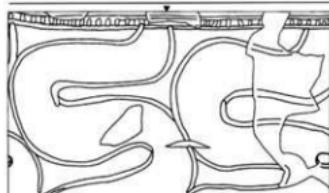
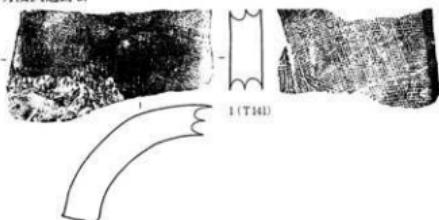
宿下遺跡



寺ヶ前 I 遺跡



明後沢遺跡群



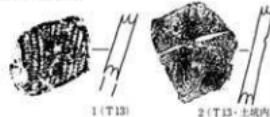
久田遺跡



船遺跡



四十九里遺跡



野黒沢遺跡隣接地

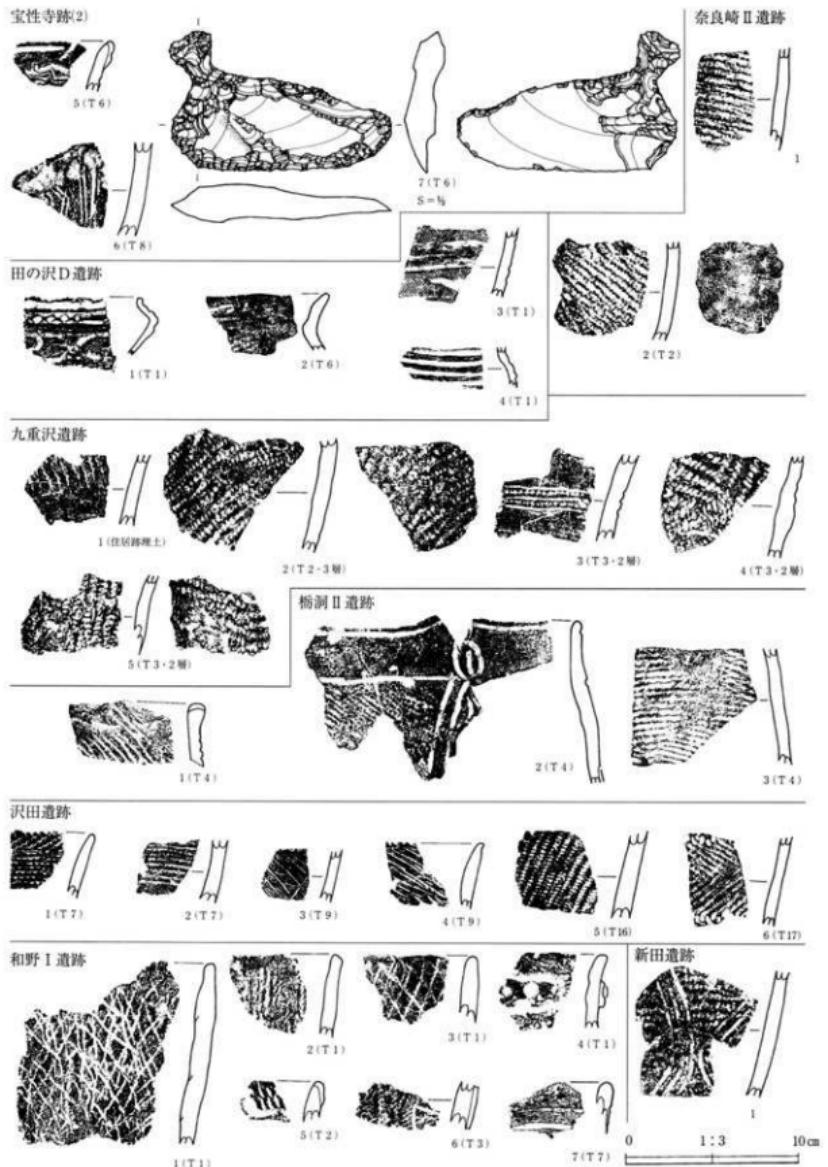


宝性寺跡



0      1:3      10cm

第160図 県内遺跡試掘調査出土遺物 3



第161図 県内遺跡試掘調査出土遺物 4

平成12年度試掘調査一覧



No	調査年月日	事案名	調査名	所在地
91	平成12年10月5日	中山間地域社会整備事業岩谷地区 一般道路107号線沿い地質災害工事	北上・奥村整備事務所 M257-2029	北上・市
92	平成12年10月5日	山崩地盤災害(地盤侵食)造成削除工事	北上・市	
93	平成12年10月6日	山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	北上・市	
94	平成12年10月6日	山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	北上・市	
95	平成12年10月6日	山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	北上・市	
96	平成12年10月10日	山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	北上・市	
97	平成12年10月10日	山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	北上・市	
98	平成12年10月10日	山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	北上・市	
99	平成12年10月11日	土地改良組合連携事業及び石巻市計画公明事業 盛岡市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	北上・市	
100	平成12年10月11日	盛岡市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	盛岡市	
101	平成12年10月11日	盛岡市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	盛岡市	
102	平成12年10月12日	盛岡市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	盛岡市	
103	平成12年10月12日	盛岡市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	盛岡市	
104	平成12年10月13日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
105	平成12年10月13日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
106	平成12年10月13日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
107	平成12年10月13日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
108	平成12年10月16日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
109	平成12年10月16日～17日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
110	平成12年10月17日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
111	平成12年10月17日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
112	平成12年10月17日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
113	平成12年10月17日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
114	平成12年10月17日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
115	平成12年10月18日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
116	平成12年10月18日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
117	平成12年10月18日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
118	平成12年10月18日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
119	平成12年10月18日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
120	平成12年10月19日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
121	平成12年10月20日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
122	平成12年10月23日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
123	平成12年10月23日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
124	平成12年10月23日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
125	平成12年10月23日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
126	平成12年10月23日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
127	平成12年10月23日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
128	平成12年10月23日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
129	平成12年10月24日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
130	平成12年10月24日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
131	平成12年10月24日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	石鳥谷町	
132	平成12年10月25日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	千葉町	
133	平成12年10月25日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	千葉町	
134	平成12年10月25日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	千葉町	
135	平成12年10月26日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	千葉町	
136	平成12年10月27日	相馬市域山崩地盤災害(地盤侵食)削除工事	千葉町	

No	調査年月日	調査年月日	事業者名	事業種別	所在場所
137	平成25年10月27日		緊急地方整備(交付金)事業	宮古地方整備局 土木部MP77-0245	川井村
138	平成25年10月27日		緊急地方整備(交付金)事業	宮古地方整備局 土木部MP77-0265	川井村
139	平成25年10月27日		緊急地方整備事業	宮古地方整備局 土木部新規工事課	鏡岡市
140	平成25年10月27日		緊急地方整備(交付金)事業	宮古地方整備局 土木部新規工事課	鏡岡市
141	平成25年10月30日		緊急地方整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野田村
142	平成25年10月30日	31日	緊急地方整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野田村
143	平成25年10月31日		緊急地方整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野田村
144	平成25年10月31日		農地免事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野代村
145	平成25年10月31日		農地免事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野代村
146	平成25年10月31日		農地免事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野代村
147	平成25年10月31日		農地免事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野代村
148	平成25年10月31日		緊急地方整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野代村
149	平成25年10月31日		緊急地方整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	野代村
150	平成25年11月1日		緊急道路整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	久慈町
151	平成25年11月1日		緊急道路整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	久慈町
152	平成25年11月1日		緊急道路整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	久慈町
153	平成25年11月1日		緊急道路整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	久慈町
154	平成25年11月1日		緊急道路整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	久慈町
155	平成25年11月2日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	江朝市
156	平成25年11月6日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	江朝市
157	平成25年11月6日	~9日	小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	北上市
158	平成25年11月11日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	北上市
159	平成25年11月11日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	北上市
160	平成25年11月7日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	金ヶ崎町
161	平成25年11月7日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	金ヶ崎町
162	平成25年11月7日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	金ヶ崎町
163	平成25年11月7日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	金ヶ崎町
164	平成25年11月9日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	金ヶ崎町
165	平成25年11月9日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	金ヶ崎町
166	平成25年11月9日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	金ヶ崎町
167	平成25年11月10日		小字と員村整備事業	久慈員村整備事業所下水工事課	金ヶ崎町
168	平成25年11月10日		道路改善事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
169	平成25年11月13日		生活支援施設整備事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
170	平成25年11月13日		生活支援施設整備事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
171	平成25年11月13日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
172	平成25年11月13日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
173	平成25年11月13日~14日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
174	平成25年11月14日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
175	平成25年11月15日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
176	平成25年11月14日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
177	平成25年11月15日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
178	平成25年11月16日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
179	平成25年11月16日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
180	平成25年11月16日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
181	平成25年11月16日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市
182	平成25年11月16日		道路第一ダム設置事業	大船渡方整備局 土木部新規工事課	大船渡市

No	調査年月日	事業者名	事業種別	所在地
183	平成12年11月17日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 始体地区	木炭市
184	平成12年11月17日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 始体地区	木炭市
185	平成12年11月16日～17日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 始体地区	木炭市
186	平成12年11月17日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 始体地区	木炭市
187	平成12年11月17日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 始体地区	木炭市
188	平成12年11月17日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 始体地区	木炭市
189	平成12年11月17日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 始体地区	木炭市
190	平成12年11月17日	文化施設整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 始体地区	木炭市
191	平成12年11月20日	流域下水道工事(組)、手作成(林野整理型) 鳴川左岸地区	保育委員会事業 手作成下水道工事所 鳴川左岸地区	花龜市
192	平成12年11月20日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 鳴川左岸地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 鳴川左岸地区	花龜市
193	平成12年11月20日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 鳴川左岸地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 鳴川左岸地区	花龜市
194	平成12年11月20日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 鳴川左岸地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 鳴川左岸地区	花龜市
195	平成12年11月21日	流域下水道工事(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成下水道工事所 始体地区	鳴門市
196	平成12年11月21日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 新里地区	鳴門市
197	平成12年11月21日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 新里地区	鳴門市
198	平成12年11月21日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 新里地区	鳴門市
199	平成12年11月21日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 新里地区	鳴門市
200	平成12年11月21日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 新里地区	鳴門市
201	平成12年11月21日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 新里地区	鳴門市
202	平成12年11月21日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	木炭販賣事業 手作成林野整理型 新里地区	鳴門市
203	平成12年11月21日	一般道路22号仙人道路	一般道路22号仙人道路	釜石市
204	平成12年11月21日	渠系整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	渠系整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
205	平成12年11月21日	渠系整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	渠系整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
206	平成12年11月21日	文化施設整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	文化施設整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
207	平成12年11月21日	一般道路整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	一般道路整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
208	平成12年11月21日	一般道路整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	一般道路整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
209	平成12年11月21日	一般道路整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	一般道路整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
210	平成12年11月28日	農業整備事業	農業整備事業	釜石市
211	平成12年11月28日	農地保全事業	農地保全事業	釜石市
212	平成12年11月28日	農地保全事業	農地保全事業	釜石市
213	平成12年11月29日	一般道路整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	一般道路整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
214	平成12年11月29日	土壤改良整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	土壤改良整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
215	平成12年11月30日	土壤改良整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	土壤改良整備事業(組)、手作成(林野整理型) 新里地区	釜石市
216	平成12年11月30日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	花龜市
217	平成12年12月1日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	花龜市
218	平成12年12月1日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	花龜市
219	平成12年11月20日～12月1日	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	山地整備事業(組)、手作成(林野整理型) 始体地区	花龜市
220	平成12年12月1日	地方特定道路整備	地方特定道路整備	衣川村
221	平成12年12月1日	木炭販賣事業 手作成(林野整理型) 始体地区	木炭販賣事業 手作成(林野整理型) 始体地区	鸣門市
222	平成12年12月4日	鳴門市土木建設課所管区域	鳴門市土木建設課所管区域	鸣門市
223	平成12年12月4日～5日	12号整備事業(子地区)	12号整備事業(子地区)	鸣門市
224	平成12年12月5日	13号整備事業(子地区)	13号整備事業(子地区)	鸣門市
225	平成12年12月5日	13号整備事業(子地区)	13号整備事業(子地区)	鸣門市
226	平成12年12月5日	13号整備事業(子地区)	13号整備事業(子地区)	鸣門市
227	平成12年12月5日	交通安全等整備事業	交通安全等整備事業	鸣門市
228	平成12年12月6日	地方交通安全整備事業(由町代行)	地方交通安全整備事業(由町代行)	山形村

No	年 月 日	月 日	周 期	事 業 名	事 業 性 質	管 理 者	通 報 名	所 在 地
229	平成29年12月 6日			[注]場警備事業 (自社・子会社、[民営契約]) 錦糸町上野池地区	本 社 役 員 官 古 占 市	役 員 官 古 占 市	鳥 居 正 裕 君	前 記 野 口 市
230	平成29年12月 6日			中山間地域合意整備事業(計画地)	官 古 占 市	官 古 占 市	鳥 居 正 裕 君	官 古 市
231	平成29年12月 6日			中山間地域合意整備事業長尺地(区)	官 古 占 市	官 古 占 市	鳥 居 正 裕 君	官 古 市
232	平成29年12月 7日			中山間地域合意整備事業長尺地(区)	官 古 占 市	官 古 占 市	鳥 居 正 裕 君	官 古 市
233	平成29年12月 7日			中山間地域合意整備事業長尺地(区)	官 古 占 市	官 古 占 市	鳥 居 正 裕 君	官 古 市
234	平成29年12月 7日			中山間地域合意整備事業長尺地(区)	官 古 占 市	官 古 占 市	鳥 居 正 裕 君	官 古 市
235	平成29年12月 7日			北端河川局改修事業	本 社 役 員 官 古 占 市	役 員 官 古 占 市	鳥 居 正 裕 君	官 古 市
236	平成29年12月 7日			北端河川局改修事業	本 社 役 員 官 古 占 市	役 員 官 古 占 市	鳥 居 正 裕 君	官 古 市
237	平成29年12月 8日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
238	平成29年12月 8日			北上川改修工事(水道局) 水本対策特別緊急事業	建設省東北地方整備局土木事務所	建設省東北地方整備局土木事務所	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
239	平成29年12月 8日			堅急地防護整備工事	堅急地防護整備工事	堅急地防護整備工事	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
240	平成29年12月 11日			堅急地防護整備工事	堅急地防護整備工事	堅急地防護整備工事	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
241	平成29年12月 11日			一関水害事業 管理用道路工事	一 關 水 害 事 業 管 理 用 道 路 工 事	一 關 水 害 事 業 管 理 用 道 路 工 事	鳥 居 正 裕 君	平 原 町
242	平成29年12月 11日			弘常山開地治山整備事業	弘常山開地治山整備事業	弘常山開地治山整備事業	鳥 居 正 裕 君	平 原 町
243	平成29年12月 11日			弘宮中岡地合意整備事業	弘宮中岡地合意整備事業	弘宮中岡地合意整備事業	鳥 居 正 裕 君	平 原 町
244	平成29年12月 11日～12日			第1回中岡地合意整備事業	第1回中岡地合意整備事業	第1回中岡地合意整備事業	鳥 居 正 裕 君	平 原 町
245	平成29年12月 12日			弘宮中岡地合意整備事業	弘宮中岡地合意整備事業	弘宮中岡地合意整備事業	鳥 居 正 裕 君	平 原 町
246	平成29年12月 12日			弘宮中岡地合意整備事業	弘宮中岡地合意整備事業	弘宮中岡地合意整備事業	鳥 居 正 裕 君	平 原 町
247	平成29年12月 12日			東北工業(工場)施設設備事業	東北工業(工場)施設設備事業	東北工業(工場)施設設備事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
248	平成29年12月 12日～14日			東北工業(工場)施設設備事業	東北工業(工場)施設設備事業	東北工業(工場)施設設備事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
249	平成29年12月 13日			土地改良合意整備事業 太田地区整備工事	土地改良合意整備事業 太田地区整備工事	土地改良合意整備事業 太田地区整備工事	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
250	平成29年12月 13日			花巻農整備事業	花巻農整備事業	花巻農整備事業	鳥 居 正 裕 君	花 巻 市
251	平成29年12月 13日			ふるさと農整備事業 黒川乙原地区	ふるさと農整備事業 黒川乙原地区	ふるさと農整備事業 黒川乙原地区	鳥 居 正 裕 君	花 巻 市
252	平成29年12月 13日			11場警備事業 (自社・子会社、[民営契約]) 新潟県(区)	11場警備事業 (自社・子会社、[民営契約]) 新潟県(区)	11場警備事業 (自社・子会社、[民営契約]) 新潟県(区)	鳥 居 正 裕 君	越 後 湯 川 市
253	平成29年12月 14日			第1回防災整備事業	第1回防灾整備事業	第1回防灾整備事業	鳥 居 正 裕 君	新 潟 市
254	平成29年12月 15日			磐梯南面防災(公民活動協定負担事業)	磐梯南面防災(公民活動協定負担事業)	磐梯南面防災(公民活動協定負担事業)	鳥 居 正 裕 君	磐 梯 郡 市
255	平成29年12月 15日			磐梯山周辺河川下水流地内河川沿岸整備事業	磐梯山周辺河川下水流地内河川沿岸整備事業	磐梯山周辺河川下水流地内河川沿岸整備事業	鳥 居 正 裕 君	磐 梯 郡 市
256	平成29年12月 18日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
257	平成29年12月 18日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
258	平成29年12月 18日～19日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
259	平成29年12月 19日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
260	平成29年12月 19日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
261	平成29年12月 19日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
262	平成29年12月 20日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
263	平成29年12月 20日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
264	平成29年12月 20日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
265	平成29年12月 20日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
266	平成29年12月 20日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
267	平成29年12月 20日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
268	平成29年12月 20日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
269	平成29年12月 20日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
270	平成29年12月 21日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
271	平成29年12月 21日			11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	11場警備事業 (組手・手荷役・手荷役) [民間整理]	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
272	平成29年12月 23日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
273	平成29年12月 26日			一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	一般排水渠工事(水道局) 岩槻急水害警報(白石地区) 事業	鳥 居 正 裕 君	北 上 土 地 方 施 工 事 務 所
274	平成30年 1月 11日			巡河警戒整備(付機荷存候) 事業	巡河警戒整備(付機荷存候) 事業	巡河警戒整備(付機荷存候) 事業	鳥 居 正 裕 君	豊 岡 市



## 51 平成12年度分布調査一覧

ふるさと創造活動推進事務所				事業者：久慈農村整備事務所				調査期日：平成12年4月13日～14日			
No.	通路コード	通路名	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	人野村本沢	道場なし		
<b>一般道整備事務所地区</b>											
1	JF48-2341	通路	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	久慈市大川町	道場なし		
<b>中山間地域企画整備事業事務所地区</b>											
1	JG40-0211	平原木・通路	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	野田村大字野田第22地割	道場なし		
<b>災害被災復興整備急行扶桑事業</b>											
1	1G34-2123	礫浜冲溝路	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	中津船？・近世台場区占領地一丁目	道場なし		
<b>私用道路新設工事</b>											
1	通路コード	通路名	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	吉良町金田字三田日	道場なし		
<b>ふるさと創造緊急整備事業地区</b>											
1	JE56-2365	通路	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	岩手町大字一方井字森林田	道場なし		
2	KE06-0214	室内通路	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	岩手町大字黒川第2・3地割	道場なし		
3	JE56-2365	通路	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	岩手町大字一方井字森林田	道場なし		
<b>国営八千草園所建設事業</b>											
1	ME06-2345	通路	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	林木町今市崎山字曾日	道場なし		
2	ME32-1381	自角・久保V通路	時代	道場・平安	道場	植物	所在地	林木町今市崎山字曾日保	道場なし		
3	ME32-2325	新田通路	時代	道場・古代	道場	植物	所在地	林木町今市崎山字曾日	道場なし		
4	ME32-2342	新谷・通路	時代	道場・平安	道場	植物	所在地	林木町今市長谷子・新谷	道場なし		
5	ME32-2344	通路	時代	道場・アラベラン	道場	植物	所在地	林木町今市長谷子・新谷	道場なし		
<b>海岸保全施設整備事業</b>											
1	通路コード	通路名	時代	道場・植物	道場	植物	所在地	釜石市丸子町下釜川	道場なし		
<b>中山間地域総合整備事業地区</b>											
1	MGII-2382	白石通路	時代	道場・石塀	道場	石塀	所在地	大槌町大槻第3・地割	道場なし		
2	MGII-2330	地割通路	時代	道場・平安	道場	植物	所在地	大槌町大槻第3・地割	道場なし		
3	MGII-1352	通路	時代	道場	道場	植物	所在地	大槌町大槻第3・地割	道場なし		
4	MGII-0363	通路	時代	道場	道場	植物	所在地	大槌町大槻第2・地割	道場なし		

## 中山間地帯介織編事業者石地区

No.	通路名	道跡名	時代	遺物	備考
1	NE38-1228	碑文	碑文	水呑古石町字下家 水呑古石町字下家	新規発見
2	NE38-1247	碑文	碑文	水呑古石町字下家	新規発見
3	NE38-1254	碑文	碑文	水呑古石町字下家	新規発見
4	NE38-0965	古代	土印芯	水呑古石町字下家	新規発見
5	NE37-2308	大久保道路	碑文	水呑古石町字下家	新規発見

## 注: さと農業整備事務所(江別市農業課)

No.	通路名	道跡名	時代	遺物	備考
1	ME38-2208	昭ノ・道路	碑文	碑文	新規発見
2	ME36-2272	北人1・道路	古代	土印芯	新規発見

## 注: さと農業整備事務所(平地区)

No.	通路名	道跡名	時代	遺物	備考
1	J-E25-2309	野尻川右道跡	碑文	碑文	新規発見
2	J-E25-2341	野尻川左道跡	碑文	碑文	新規発見
3	J-E25-2348	野尻川右道跡	碑文	碑文	新規発見
4	J-E25-2347	野尻川左道跡	碑文	碑文	新規発見
5	J-E25-2333	野尻川左道跡	碑文	碑文	新規発見
6	J-E25-2311	野尻川左道跡	碑文	碑文	新規発見

## 注: 総合農業整備事務所(小谷)

No.	通路名	道跡名	時代	遺物	備考
1	OF10-1258	東立石道路	碑文	土器	新規発見
2	OF10-1257	笠置原・道路	碑文	土器	新規発見
3	OF10-2282	十文字谷の森道路	碑文	土器	新規発見
4	OF10-2292	十文字谷	碑文	石頭・石棒・土器	新規発見
5	OF20-0000	大深路	碑文	土器	新規発見
6	OF20-0171	平洋道路	碑文	土器・土器	新規発見
7	OF20-1171	玉崎道路	中世	土器	新規発見
8	OF10-2157	六十里道路	碑文	土器	新規発見
9	OF11-160	碑文	碑文	土器	新規発見
10	OF10-0584	碑文	碑文	土器芯	新規発見
11	OF10-2394	古代	土印芯	土器	新規発見
12	OF11-2825	碑文	碑文	土器	新規発見
13	OF20-0141	碑ノ11號	碑文	土器	新規発見
14	OF20-1102	碑文	碑文	土器	新規発見
15	OF20-1122	碑文	碑文	土器	新規発見
16	OF20-0393	碑文	碑文	土器	新規発見

## 事業者: 千穂農村整備事務所

No.	通路名	道跡名	時代	遺物	備考
1	通路2-1	通路名	時代	遺物	新規発見

## 満倉期日: 平成12年4月24日-25日

No.	道跡名	時代	遺物	備考
1	木呑古石町字下家	新規発見	水呑古石町字下家	新規発見
2	木呑古石町字下家	新規発見	水呑古石町字下家	新規発見
3	木呑古石町字下家	新規発見	水呑古石町字下家	新規発見
4	木呑古石町字下家	新規発見	水呑古石町字下家	新規発見
5	木呑古石町字下家	新規発見	水呑古石町字下家	新規発見

## 満倉期日: 平成12年4月24日-25日

No.	道跡名	時代	遺物	備考
1	江別市立石字沼ノ上	新規発見	江別市立石字沼ノ上	新規発見
2	江別市立石字沼ノ上	新規発見	江別市立石字沼ノ上	新規発見

## 満倉期日: 平成12年5月19日

No.	道跡名	時代	遺物	備考
1	二戸農村整備事務所	新規発見	二戸農村整備事務所	新規発見
2	二戸農村整備事務所	新規発見	二戸農村整備事務所	新規発見
3	二戸農村整備事務所	新規発見	二戸農村整備事務所	新規発見
4	二戸農村整備事務所	新規発見	二戸農村整備事務所	新規発見

## 満倉期日: 平成12年5月16日

No.	道跡名	時代	遺物	備考
1	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
2	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
3	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
4	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
5	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
6	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
7	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
8	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
9	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
10	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
11	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
12	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
13	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
14	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
15	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見
16	新規発見	新規発見	新規発見	新規発見

## 満倉期日: 平成12年5月17日

No.	道跡名	時代	遺物	備考
1	西明町人見	新規発見	西明町人見	新規発見

## 事業者: 水呑古石町整備事務所

No.	道跡名	時代	遺物	備考
1	水呑古石町字白石	新規発見	水呑古石町字白石	新規発見
2	水呑古石町字白石	新規発見	水呑古石町字白石	新規発見

## 事業者: 佐野農村整備事務所

No.	道跡名	時代	遺物	備考
1	佐野農村整備事務所	新規発見	佐野農村整備事務所	新規発見

## 事業者: 佐野農村整備事務所

No.	道跡名	時代	遺物	備考
1	佐野農村整備事務所	新規発見	佐野農村整備事務所	新規発見
2	佐野農村整備事務所	新規発見	佐野農村整備事務所	新規発見

3	MF6-L20	國文	漢文+語	發送地	住田町上り住字赤穂	新規免見
三條員自傳山田道路						
No	通路名	時代	道標・植物	新規	所在地	備考
1	LGS4-070 櫛狀1重棒	昭文	平安・中後	住地	住地	
2	LGS4-067 櫛狀1重棒	國文	平安・中後	住地	住地	
大樹園林園田笠林苗跡						
No	通路名	時代	道標・植物	新規	所在地	備考
1	JF60-0242 東引通路	昭文	平安	住地	住地	
2	JF60-1254 合合通路	國文	平安	住地	住地	
中田園地浅谷整備事業いそい地区						
No	通路名	時代	道標・植物	新規	所在地	備考
1	通路コ-下 通路名	平安	道標・植物	住地	住地	新規なし
2						
13号整備事業(田代、千石有川区西整埋型) 原产地区						
No	通路名	時代	道標・植物	新規	所在地	備考
1	NE08-1194 筋荷通路	平安	須芒草	住地	住地	
2	NE08-1132 山崩通路	昭文	平安	住地	住地	
3	NE08-1029 空守通路	古代	土砂器	住地	住地	
4	NE08-1094 空守通路	古代	土砂器	住地	住地	
14号整備事業(田代、千石有川区西整埋型) 東本町地区						
No	通路名	時代	道標・植物	新規	所在地	備考
1	ME6-1222 平安	平安	土砂器	住地	住地	
2	ME6-1220 平安	平安	陶器	住地	住地	
3	ME6-1343 活板	平安	土砂器	住地	住地	
4	ME6-1364 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
5	ME6-1376 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
6	ME6-1370 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
7						
8	ME6-1287 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
9	ME6-2300 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
10	ME6-2302 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
11	ME6-2305 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
12	ME6-1366 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
13	ME6-2306 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
14	ME6-2361 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
15	ME6-0318 平安	昭文	土砂器	住地	住地	
住田畜舍含筑紫整備事業						
No	通路コ-下 通路名	時代	道標・植物	新規	所在地	備考
1						
12号整備事業(田代、千石有川区西整埋型) 江野子地区						
No	通路コ-下 通路名	時代	道標・植物	新規	所在地	備考
1	ME64-0309 筋荷通路	昭文	平安	住地	住地	

2	MES5-0001	新平道路	碑文・平安 陶器	北上山江野子子野平2地附 古代聚落定地
3	MES5-0002	新平道路	河床	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
4	MES5-2085	海日道路	平安	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
5	MES5-0008	月光道路	碑文・器・土器・磨器・須芒器	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
6	MES5-1115	礁源1道路	碑文・奈良・平安	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
7	MES5-1155	礁源2道路	平安	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
8	MES5-1160	下礁源1道路	江井	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
9	MES5-1160	下礁源2道路	碑文・平安	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
10	MES5-2066	稻野道路	奈良	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
11	MES5-2313	田代道路	平安	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
12	MES5-2293	下行道路	平安	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
13	MES5-1186	鬼见町	平安・中世	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
14	MES5-1253	鬼见町二崩道路	平安・中世	北上山江野子子野平2地附 古代聚落
特定古坟全施主整备事務				
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：北上地方振興局土木部 道耕・植物
1	通路コ-1	道路名	時代	特例 所在地 北上山立花24地附 可燃性なし
特定古跡特別保護地区				
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：水沢農村整備事務所 道耕・植物
1	通路コ-1	道路名	時代	特例 所在地 北上山立花24地附 道耕なし
清水寺跡特別保護地区				
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：水沢農村整備事務所 道耕・植物
1	通路コ-1	道路名	時代	特例 所在地 本山出羽田町 道耕なし
大の池等特別保護地区				
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：水沢農村整備事務所 道耕・植物
1	通路コ-1	道路名	時代	特例 所在地 本山出羽田町 道耕なし
中山間地域合整備事業中之小川地区				
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：水沢農村整備事務所 道耕・植物
1	通路コ-1	道路名	時代	特例 所在地 相馬郡石巻町 道耕なし
沼平又は安全地帯設置事務				
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：水沢農村整備事務所 道耕・植物
1	通路コ-1	道路名	時代	特例 所在地 南会津郡土泽 道耕なし
中山間地域合整備事業黒石地区				
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：水沢農村整備事務所 道耕・植物
1	NES5-10557	大森野保	中・近世	特例 所在地 本山出羽石巻子下郷 道耕なし
ふるさと農業整備事業豊田地区				
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：久慈農村整備事務所 道耕・植物
1	1050-10557	大森野保	古代	特例 所在地 野田村野田 道耕なし
No	通路コ-1	道路名	時代	事業者：久慈農村整備事務所 道耕・植物
1	1050-10557	大森野保	古代	特例 所在地 野田村野田 道耕なし

佐賀市在地動植物事業者登録				調査期日：平成12年6月12日			
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
<b>伝統的農業生産事業者登録</b>							
1	NF51-1312	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
2	NF51-0371	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
3							
4	NF51-0316	鳥居Ⅱ通路	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
5	NF51-0338	鳥居Ⅲ通路	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
6	NF51-0306	鳥居Ⅳ通路	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
7	NF51-0327	鳥居Ⅴ通路	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
8							
9							
<b>河川沿岸通事業</b>							
1	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
<b>一般55分類1地(く)地(じ)化(か)支援道地(じ)整(せい)理(り)事(じ)</b>							
No.	道路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
1	MED7-0067	日の道Ⅰ通路	時代	遺文・古代	所在地	種別	備考
<b>河川沿岸通事業</b>							
1	通路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
<b>柱脚柱活用整備事業(施作無)</b>							
No.	道路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
1							
<b>一般道路東側(左)半面整地(左)方(右)面整地(右)</b>							
No.	道路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
1	M126-2319	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
<b>田地整備事業(田)</b>							
No.	道路コード	通路名	時代	遺構・遺物	所在地	種別	備考
1	M126-2339	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
2	M126-2342	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
3	M126-2343	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
4	M126-2371	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
5	M126-2394	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
6	M126-0222	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
7	M126-0225	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
8	M126-0343	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
9	M126-0353	平安・近世	土師器	所在地	種別	備考	新規発見
10	M126-0361	平安	土師器	所在地	種別	備考	新規発見



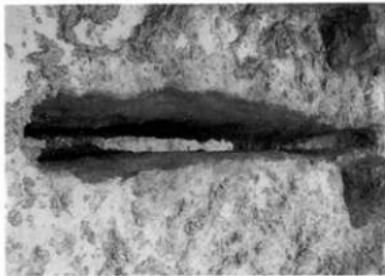
6 L.1590-1193 光林寺前道路			碑文・古代・中世			城内路・敷石路			石造行灯中寺林		
<b>周防郡光林寺前道路</b>											
No.	通路口-下	道路名	時代	事業者・在来農村整備事務所		調査日：平成12年9月13日-22日					
1	L.1597-0312	人来道路	時代	道場・道物 碑文・土器・土物器	備考	道場 所在地					
2	L.1597-0322	浦原道路	時代	碑文・平安		道場 所在地	行灯行灯保				
3	L.1597-2254	川床道路	時代	碑文・古代		道場 所在地	行灯行灯保				
4	L.1597-2387	高屋寺前道路	時代	碑文・平安		道場 所在地	行灯行灯保				
<b>高屋寺前道路事業資源管理会</b>											
No.	通路口-下	道路名	時代	事業者・在来農村整備事務所		調査日：平成12年1月18日-19日					
1	OF07-2301	山川道路	時代	道場・道物 碑文	備考	道場 所在地	高屋寺前道路事業資源管				
2	OF07-2388		時代	碑文		道場 所在地	高屋寺前道路事業資源管				
<b>中山間道路合併協議事業</b>											
No.	通路口-上	道路名	時代	事業者・在来農村整備事務所		調査日：平成12年9月12日					
1	MF2-1318	泡瀬道路	時代	道場・道物 碑文・平安	備考	道場 所在地	宮子町野尻字泡瀬				
2	MF2-1396	山川道路	時代	碑文・平安		道場 所在地	宮子町野尻字山川				
<b>14号螢塙原大明神地蔵</b>											
No.	通路口-下	道路名	時代	事業者・在来農村整備事務所		調査日：平成12年9月12日					
1	L.1597-3967	白木道路	時代	道場・道物 碑文・平安	備考	道場 所在地	石鳥居新規				
2	L.1597-0067	11(7)道 1 道路	時代	碑文・古代		道場 所在地	石鳥居新規				
3	L.1597-0250	11(7)道 2 道路	時代	碑文・平安		道場 所在地	石鳥居新規				
4	L.1597-2160	上野今道路	時代	碑文・平安		道場 所在地	石鳥居新規				
5	L.1597-0038	保の山道路	時代	碑文・平安		道場 所在地	石鳥居新規				
6	L.1597-0037	人来道路	時代	碑文・古代		道場 所在地	石鳥居新規				
7	L.1597-0038		時代	土物器		道場 所在地	石鳥居新規				
<b>佐賀鍋山(民家付近)地蔵</b>											
No.	通路口-下	道路名	時代	事業者・在来農村整備事務所		調査日：平成12年9月12日					
1	L.1590-0069	山川道路	時代	道場・道物 碑文	備考	道場 所在地	山川村大字山川				
<b>地元住民文化振興道路整備事業</b>											
No.	通路口-下	道路名	時代	事業者・在来農村整備事務所		調査日：平成12年9月12日					
1			時代	道場・道物	備考	道場 所在地	高麗町小笠				
<b>上石成村整備事業</b>											
No.	通路口-下	道路名	時代	事業者・在来農村整備事務所		調査日：平成12年10月10日					
1			時代	道場・道物	備考	道場 所在地	色見元長				
<b>相地郡合併後多賀町整備地区</b>											
No.	通路口-下	道路名	時代	事業者・在来農村整備事務所		調査日：平成12年10月12日					
1	OF19-0023	保溝	時代	道場・道物 碑文	備考	道場 所在地	川崎勝呂衣笠見沢				
2	OF19-0023	十一人保道路	時代	碑文		道場 所在地	川崎勝呂衣笠見沢				
3	OF19-0067		人来保道路	時代		道場 所在地	川崎勝呂衣笠見沢				

井場橋編集事務(相馬・千葉南区浜野町四丁目)六郷地区	事業者：本民族村農事組合	調査期日：平成12年10月25日		
No. 道路コード 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 金ヶ崎町六郷		
1	通路コード-1 道路名	時代	道場・道物	権利 有地 所在地 金ヶ崎町六郷
平成13年改本道場(千葉南区浜野町山事業)	事業者：久慈地方整備局林務部	調査期日：平成12年10月31日		
No. 道路コード 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
1	通路コード-1 道路名	時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし
一般国道5号北側(千葉南区浜野町山事業)	事業者：笠置山地方整備局土木部	調査期日：平成12年10月1日		
No. 道路コード 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
1	通路コード-1 道路名	時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし
中山間地域合整編事務組合(千葉南区浜野町山事業)	事業者：本民族村農事組合所	調査期日：平成12年11月1日		
No. 道路コード-1 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
地方特定道路整備事業(主要地方道・県道新潟線)	事業者：千葉地方整備局土木部	調査期日：平成12年11月9日		
No. 道路コード-1 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
1 NE79-072 県道新潟・内船線 中世	道場・道物・上部 二の筋	東山町長嶺字船台		
地方特定道路整備事業	事業者：大財地方整備局土木部	調査期日：平成12年11月22日		
No. 道路コード-1 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
沼野火除田除草事業(曳挽歩道設置工事)	事業者：大財地方整備局土木部	調査期日：平成13年1月12日		
No. 道路コード-1 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
8.17.2.11... 5種整備事業	事業者：千葉地方整備局土木部	調査期日：平成13年2月20日		
No. 道路コード-1 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
1	通路コード-1 道路名	時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし
一般河川山形川改良事業	事業者：佐野地方整備局土木部	調査期日：平成13年2月21日		
No. 道路コード-1 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
1	通路コード-1 道路名	時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし
新令宿泊沿路整備事業 手取川区	事業者：(主)地方整備局土木部	調査期日：平成12年2月21日		
No. 道路コード-1 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
1	通路コード-1 道路名	時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし
花色並バイパス	事業者：国土交通省北地方整備局岩手事務所	調査期日：平成13年3月16日		
No. 道路コード-1 道路名 時代	道場・道物	権利 有地 所在地 通路なし		
1 ME26-201 山の神道跡 国文	道場・道物	権利 有地 所在地 在毛山山の神		
2 ME26-117 外竹川道跡 古代	道場・道物	権利 有地 所在地 在毛山外竹川		
3 ME26-0263 長根日道跡 古代	道場・道物	権利 有地 所在地 在毛山東十一丁目第6地溝		
4 ME26-1213 長根1道跡 古代	道場・道物	権利 有地 所在地 在毛山東十一丁目第7地溝		
5 ME26-0274 大根道跡 古代	道場・道物	権利 有地 所在地 在毛山東十一丁目第7地溝		
6 ME26-0218 高木中道跡 古代	道場・道物	権利 有地 所在地 在毛山東十一丁目第22地溝		
7 ME26-2080 高木古道跡 中世・近世	道場・道物	権利 有地 所在地 在毛山高木古道跡		

						编文上器	狂龟市高木第1地所	
8	MEG26-2240	上台目通跡	编文	散布地	事發者：千葉県村野町役所	調査日：平成13年3月22日	備考	
No.	通路-2	通跡名	時代	遺物・遺跡	所在場所	所在場所	所在場所	所見
1	OF21-0394	圓文	圓文	行當	井田町池田	行當	行當	行當
香代村八代バス								
No.	通路-2	通跡名	時代	遺物・遺跡	事發者：久慈地方振興局土木部	調査日：平成13年3月22日	備考	
1	KGZC-0106	中村通跡	昭文	陶文	遺物・遺跡	井代村第2地所新字中村	行當	行當
2	JGZ-2572	音代通跡	昭文	陶文	陶文上器	井代村第3地所新字音代	行當	行當
3	JGZ-1526	手留原目通跡	昭文	陶文	陶文上器	井代村第8地所太子田原延	行當	行當
4	JGZ-1119	宇宿原目通跡	昭文	陶文	陶文上器	井代村第14地所宇宿原延	行當	行當
地主特定道路整備費								
No.	通路-2	通跡名	時代	遺物・遺跡	事發者：当野地方振興局土木部	調査日：平成13年3月27日	備考	
1					江宇村下宮子第23地所	江宇村下宮子第23地所	江宇村下宮子第23地所	通路なし

### III 写真図版

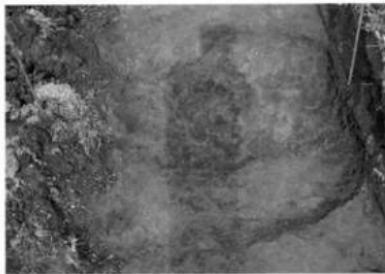




胆沢町 下中沢Ⅱ遺跡陥し穴状遺構 平面



胆沢町 下中沢Ⅱ遺跡陥し穴状遺構 断面



石鳥谷町 大西遺跡土坑 平面



石鳥谷町 大西遺跡土坑 断面



江刺市 東館遺跡堀跡(A'-A') 断面



江刺市 東館遺跡堀跡(B'-B') 断面



花巻市 上畠遺跡1号住居路 平面



花巻市 上畠遺跡1・3号住居路 平面

写真図版 1 県内遺跡調査状況 1



花巻市 上幅遺跡 1号住居跡 断面



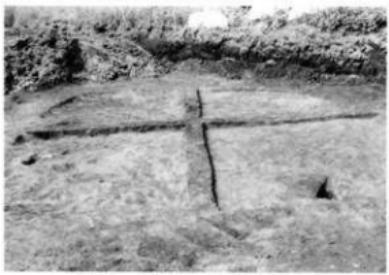
花巻市 上幅遺跡 1号住居跡 断面



花巻市 上幅遺跡土坑 断面



花巻市 上幅遺跡土坑 遺物出土状況



花巻市 上幅遺跡 2号住居跡 平面



花巻市 上幅遺跡 2号住居跡 断面

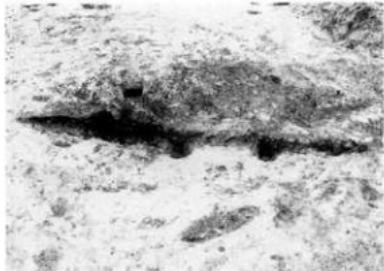


遠野市 深沢遺跡住居跡 平面

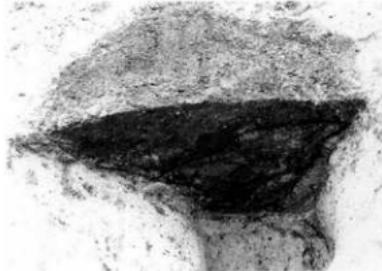


遠野市 深沢遺跡住居跡 断面

写真図版2 県内遺跡調査状況2



遠野市 深沢遺跡焼跡 断面



遠野市 深沢遺跡土坑 断面



千厩町 烏喰III遺跡焼土 平面



千厩町 烏喰III遺跡焼土 断面



遠野村 砂込III遺跡陥し穴状遺構 平面



宮古市 銀ヶ崎館山貝塚 トレンチ



普代村 下村I遺跡陥し穴状遺構 平面



普代村 下村遺跡土坑 平面

写真図版 3 県内遺跡調査状況 3



石鳥谷町 大西遺跡



江刺市 東館遺跡 1 (第13図9)



江刺市 東館遺跡 2 (第14図25)



江刺市 東館遺跡 3 (第13図15)



江刺市 東館遺跡 4 (第12図2)



江刺市 東館遺跡 5 (第12図4)



江刺市 東館遺跡 6



江刺市 東館遺跡 7 (第12図1)

写真図版 4 県内遺跡調査出土遺物 1



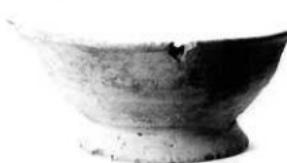
江刺市 東館遺跡 8(第13図15)



江刺市 東館遺跡 9(第13図14)



江刺市 東館遺跡 10(第14図37)



江刺市 東館遺跡 11(第14図26)



江刺市 東館遺跡 12(第14図38)



江刺市 東館遺跡 13(第12図6)



江刺市 東館遺跡 14(第14図29)



江刺市 東館遺跡 15(第14図33)

写真図版 5 県内遺跡調査出土遺物 2



江刺市 東館遺跡 16(第14図34)



江刺市 東館遺跡 17(第13図7)



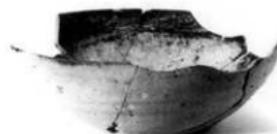
花巻市 上幅遺跡 1



花巻市 上幅遺跡 2



花巻市 上幅遺跡 3



花巻市 上幅遺跡 4



千厩町 鳥喰Ⅲ遺跡 1



千厩町 鳥喰Ⅲ遺跡 2

写真図版 6 県内遺跡調査出土遺物 3



3

4



5

6



7

8

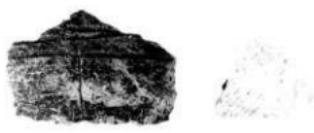


9

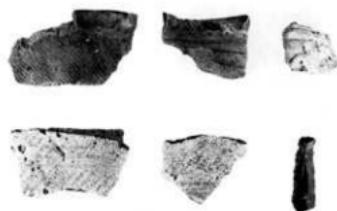
10

千厩町 烏喰III遺跡 (3~10)

写真図版7 県内遺跡調査出土遺物4



宮古市 銀ヶ崎館山貝塚



普代村 下村・下村I遺跡



胆沢町 五反町遺跡



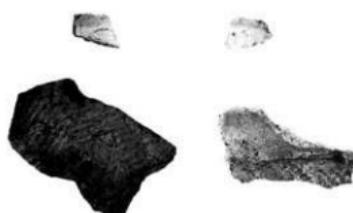
一戸町 仁昌寺遺跡



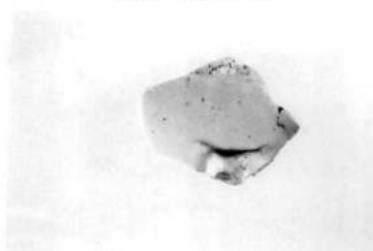
普代村 力持遺跡 1



普代村 力持遺跡 2



川崎村 河崎の横振定地 1



川崎村 河崎の横振定地 2

写真図版 8 県内遺跡調査出土遺物 5



山形村 早坂平遺跡



軽米町 尾田(2)遺跡 1



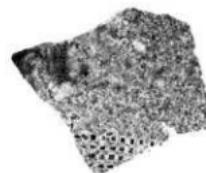
軽米町 尾田(2)遺跡 2



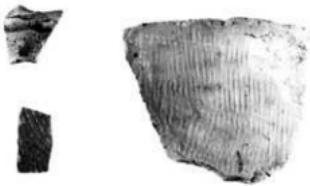
江刺市 MF91-1028



平泉町 竜ヶ坂遺跡



石鳥谷町 番屋遺跡



水沢市 寺ヶ前I遺跡



千厩町 宿下遺跡

写真図版9 県内遺跡調査出土遺物 6



遠野市 M F 66-2158



前沢町 明後沢遺跡群



江刺市 久田遺跡 1



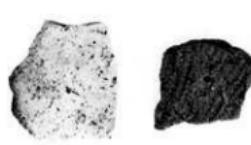
江刺市 久田遺跡 2



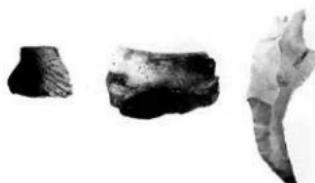
江刺市 久田遺跡 3



住田町 館遺跡



北上市 四十九里遺跡



淨法寺町 野黒沢遺跡隣接地

写真図版10 県内遺跡調査出土遺物 7



江刺市 宝性寺跡



玉山村 田の沢D遺跡



大東町 奈良崎II遺跡



遠野市 九重沢遺跡



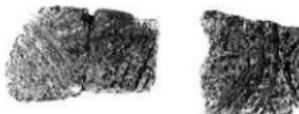
遠野市 柳洞II道路



盛岡市 沢田遺跡



田野畠村 和野I遺跡



江刺市 新田遺跡

写真図版11 県内遺跡調査出土遺物 8

---

岩手県文化財調査報告書第112集  
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成12年度）

発行日 平成13年3月

発 行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10-1

編 集 岩手県教育委員会事務局文化課

印 刷 株 杜 隆 印 刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号

---

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。